

**令和7年度
視覚障害者用図書事業等委託費
（福祉機器開発普及等事業）
事業報告書**

1. 知的障害者のライフスタイルに応じた支援機器の利用実態とその課題に関する
分析調査
2. 福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの運用

**令和8年3月
公益財団法人テクノエイド協会**

は じ め に

本事業では、知的障害者がライフスタイルごとに使用している支援機器の利用実態を把握し、機器の使用場面から見える障害特性や使用上の課題を明らかにする。

障害児・者（以下「障害者」という。）のための支援機器は、「できないこと」を「できること」に変え、「夢」だと思われていることを「現実」に変える力と可能性を持っている。

近年、人手不足や知的障害者の高齢化に伴い、ロボットやＩＣＴ（情報通信技術）、ＡＩ（人工知能）等のテクノロジーを支援機器の分野で活用することに期待が寄せられている一方で、自立生活に向けたライフスタイルは変化し、支援機器を取り巻く環境や使用における課題も複雑かつ多様化している。

昨年度は、アンケート調査及びヒアリングを実施して知的障害者の支援機器に関するニーズを探り、当協会で運用している福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの今後の在り方について検討した。

そこで本事業では、昨年実施した知的障害者の支援機器使用状況に関するアンケートデータを基に、障害者を取り巻く社会背景や生活環境に応じた支援機器の活用と機器の適合・調整状況等を把握する。さらに、障害特性と使用場면을統合的に分析し支援機器に関する使用上の課題を抽出する。これら抽出した課題は、知的障害者の障害特性や使用場面等に応じた具体的なニーズとなる。

本事業の成果は、知的障害者が近い将来に必要な支援機器の具体的な課題やニーズが明らかになることで、ニーズ・シーズマッチング等の支援機器開発の加速化に寄与する。特に、近年増加している知的障害者の就労に関する具体的なニーズの把握は、支援機器の普及および実証に関する事業の対象者像や使用場面の選定等にも貢献する。

本報告書については、検討委員会における意見等を踏まえて、事務局の責において取り纏めたものであり、検討委員をはじめヒアリング調査にご協力頂いた方々に深く感謝する次第である。

なお、本事業は、厚生労働省の「令和７年度・視覚障害者用図書事業等委託費（福祉機器開発普及等事業）」から交付を受けて、実施したものである。

令和８年３月

公益財団法人テクノエイド協会

目 次

I. 知的障害者のライフスタイルに応じた支援機器の利用実態とその課題に関する分析調査	
1. 事業概要	1
(1) 事業目的	1
(2) 事業内容	1
(3) 検討会メンバー	2
(4) 実施スケジュール	3
(5) 検討会の開催経過	4
2. 事業結果	5
(1) 事業の背景・目的	5
(2) 調査概要	5
(3) 昨年調査の深堀	6
(4) 調査結果	14
(5) ペルソナ分析（A～E型）	17
(6) まとめ・考察	24
(7) 今後の課題と検討事項	29
3. 関連資料	31
(1) 調査結果のサマリー（power point 版）	31
(2) ヒアリング調査の結果詳細	35
II. 福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの運用	
1. 事業概要	59
(1) 事業の目的	59
(2) 主な実施内容	61
(3) ニーズの収集状況	61
(4) ニーズの集計・傾向	61
(5) 主な投稿内容について（令和7年度の新規投稿）	64
2. 別添資料	65
(1) 過去5年間における福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの投稿状況	65
(2) 過去5年間における福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの投稿内容	67

I . 知的障害者のライフスタイルに応じた支援機器の利用実態とその課題に関する分析調査

1. 事業概要

(1) 事業目的

福祉機器ニーズの増大・多様化、科学技術の進歩による高度化に適切に対応し、真に身体障害者等の役に立つ福祉機器の開発普及等を推進するため、福祉機器に関する調査研究及び福祉機器のニーズと技術シーズの適切な情報連携の促進を行うことにより、身体障害者等の福祉の向上に資することを目的とする。

本事業では知的障害者がライフスタイルごとに使用している支援機器の利用実態を把握し、機器の使用場面から見える障害特性や使用上の課題を明らかにする。

障害児・者（以下「障害者」という。）のための支援機器は、「できないこと」を「できること」に変え、「夢」だと思われていることを「現実」に変える力と可能性を持っている。

近年、人手不足や知的障害者の高齢化に伴い、ロボットやICT（情報通信技術）、AI（人工知能）等のテクノロジーを支援機器の分野で活用することに期待が寄せられている一方で、自立生活に向けたライフスタイルは変化し、支援機器を取り巻く環境や使用における課題も複雑かつ多様化している。

昨年度は、アンケート調査及びヒアリングを実施して知的障害者の支援機器に関するニーズを探り、当協会で運用している福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの今後の在り方について検討した。

そこで本事業では、昨年実施した知的障害者の支援機器使用状況に関するアンケートデータを基に、障害者を取り巻く社会背景や生活環境に応じた支援機器の活用と機器の適合・調整状況等を把握する。さらに、障害特性と使用場面を統合的に分析し支援機器に関する使用上の課題を抽出する。これら抽出した課題は、知的障害者の障害特性や使用場面等に応じた具体的なニーズとなる。

本事業の成果は、知的障害者が近い将来に必要な支援機器の具体的な課題やニーズが明らかになることで、ニーズ・シーズマッチング等の支援機器開発の加速化に寄与する。特に、近年増加している知的障害者の就労に関する具体的なニーズの把握は、支援機器の普及および実証に関する事業の対象者像や使用場面の選定等にも貢献する。

(2) 事業内容

①検討会の設置

本事業を適切かつ円滑に実施するため、知的障害に関する有識者や関係団体、支援者、実務者、開発企業等から構成する検討会を当協会に設置した。

②活動場面ごとの分析

昨年実施した知的障害者の支援機器使用状況に関するアンケートデータを基に、障害者を取り巻く社会背景や生活環境に応じた支援機器の活用と機器の適合・調整状況等をより詳細な実態把握を行った。具体的には、在宅や施設での生活や余暇、就労、社会参加活動等、日々の活動に応じた機器の使用機器やその状況等についてそれぞれに分けて集計分析を行った。また、障害者と家族、支援者に分類し、それぞれが求める活動場面ごとのニ

ズを比較するとともに、障害特性と使用場面、環境を統合的に分析し、支援機器に関する使用上の課題抽出を行った。

③ヒアリング調査の実施

分析結果の情報の補足として、上記①で得られた結果と類似した生活を送る障害者にヒアリング調査を行った。ヒアリングは、可能な限り対面で半構造化面接とし、内容は基本属性、障害の状況、使用制度、居住環境（自宅と活動範囲周辺含む）、生活状況（サービス状況等含む）、趣味、チャレンジしたいこと、使用している支援機器とその調整状況、これまでの支援機器の活用状況（いつから、どのように、使わなくなったもの等）、機器の適合、調整状況（使用時の気づきを含む）等とした。

④使用場面ごとのペルソナ分析

上記②及び③の分析結果を基に、「ペルソナ分析」を実施した。

ペルソナとは、調査データに基づき、対象者の属性、生活環境、行動特性、課題、ニーズ等を統合して構築した「典型的な利用者像」である。本事業では、知的障害者の使用場면을4～5 場面抽出し、場面ごとにペルソナ分析を実施することで、対象者の障害特性や性格、使用制度、背景等の属性や日頃抱えている想いなどを整理し、使用している機器の目的と具体的な使用方法、適合状況などを分析しながら、知的障害者の潜在的なニーズを探った。

また、本報告書では「ペルソナ」「サマリー」等の用語を使用しているが、いずれも分析内容を分かりやすく整理するための概念である。特にペルソナは、複数の調査結果をもとに作成した「代表的な利用者像（モデル）」を指すものであり、現場での理解を促進するために用いている。

⑤知的障害者の支援機器に関する具体的なニーズの抽出

②から④の結果を基に、1～2つのニーズを特定した。ニーズは、●●にとって（対象）、××のために（目的）、▲▲する方法（問題の解決法）といった具体的な内容で作成した。

（３）検討会メンバー

知的障害者のライフスタイルに応じた支援機器の利用実態とその課題に関する分析調査

検討委員

（敬称略）

氏 名	所 属
岩崎 好宏	社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国身体障害者施設協議会
金子 訓隆	株式会社マイクロブレイン
◎ 苅田 知則	愛媛大学 教育学部（志エンボディ合同会社）
西 恵美	一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会
野崎 陽弘	特定非営利活動法人 日本相談支援専門員協会

増澤 高志	ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
宮川 善章	世田谷区 児童相談所一時保護課
度会 哲賢	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会

◎座長

【オブザーバー】

氏 名	所 属
川崎めぐみ	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部
山根 和史	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活・発達障害者支援室
松崎 貴之	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活・発達障害者支援室
吉元 信治	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
小松 伸章	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
増田 岳史	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
中村 美緒	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
大野 貴己	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
安部加奈子	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

（４）実施スケジュール

実施内容等	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 検討会の設置、開催				○						○
2. 活動場面ごとの分析 ①在宅や施設、ライフスタイル等に応じた分析・集計 ②障害者と家族、支援者に分類し、それぞれが求める活動場面ごとのニーズ比較 ③障害特性と使用場面、環境を統合的に分析、支援機器に関する使用上の課題抽出										
3. ヒアリング調査の実施 ④上記の分析結果で得られた結果と類似した生活を送る障害者を対象にした調査										
4. 使用場面ごとのペルソナ分析 ⑤上記結果から使用場면을4～5場面抽出し、場面ごとにペルソナ分析										
5. 知的障害者の支援機器に関する具体的なニーズの抽出 ⑥具体的なニーズの特定（1～2程度）										
6. 報告書の作成										

(5) 検討会の開催経過

①第1回検討会

日時：令和7年9月29日（月）14：00～15：30

会場：オンライン開催

内容：

【報告事項】

- 本事業の概要について
- 昨年度に行ったアンケート調査の深掘
 - ・活動場面ごとの分析
 - ・「その他」を回答した人の分析

【検討事項】

- ペルソナ分析とヒアリング調査の実施について
- 今後の予定について

②第2回検討会

日時：令和8年3月3日（火）14：00～15：30

会場：オンライン開催

内容：

【報告事項】

- 本事業の概要について
- 知的障害者の支援機器活用の実態分析（調査サマリー）
- 調査研究報告書（案）について

【検討事項】

- 今後の検討課題等について

2. 事業結果

(1) 事業の背景・目的

①事業の背景・目的

近年、知的障害者の地域生活移行の進展や高齢化の進行に伴い、日常生活・就労・余暇活動における支援のあり方が大きく変化している。とりわけ、ICT 機器や生活支援機器の活用は、本人の自立度向上や社会参加の拡大、さらには支援者の負担軽減を同時に実現し得る手段として注目されている。しかしながら、支援機器の導入は必ずしも広く進んでいるとは言えず、導入後に継続利用に至らないケースも少なくない。

こうした状況を踏まえ、本事業では、知的障害者のライフスタイルに応じた支援機器の利用実態を把握するとともに、生活場面ごとの困難構造と機器活用の関係性を整理し、導入・運用上の課題を明らかにすることを目的とした。単に「どの機器が使われているか」を把握するのではなく、「どのような生活場面で、どのような困難に対し、どのような条件のもとで機器が機能しているのか」という実装レベルの視点から、以下を統合的に整理した。

- ・ 生活場面ごとの困難構造
- ・ 機器選択と運用条件
- ・ 導入から定着に至るプロセス

(2) 調査概要

①アンケート調査

本調査は知的障害者に対して Web・紙調査を実施し、生活場面別・立場別の支援機器利用実態を把握した（支援者が回答する場合も当事者目線で回答するように依頼した）。主な特徴は以下の通りである。

項目	内容
調査対象	N=589（うち本人回答 18.5%／支援者回答 81.5%）
実施期間	2024 年 10 月
データ特性	年齢・就業状況・障害特性・ICT 保有の属性を収集
分析方法	アンケート調査（単純集計／クロス集計）

②ヒアリング調査

ペルソナ属性に関わる情報を収集するため、アンケート集計に基づき、各ペルソナ属性に属するアンケート回答者に対して、対面ヒアリング調査（半構造化面接）を実施した。

項目	内容
調査対象	4 名（アンケート調査結果に基づく）
実施期間	2025 年 10 月～2026 年 1 月
実施方法	対面ヒアリング調査（半構造化面接）
データ特性	ペルソナ属性に関わる情報を収集
分析方法	ヒアリング結果（発話録）の分析

(3) 昨年調査の深堀

昨年度アンケート結果に対し、年齢区分、障害名、支援機器利用カテゴリ（新統合）、住まいを表側として全設問をクロス集計し、属性差・生活環境差によるニーズの分化を確認した。非該当・不明は除外しているため、母数の変動に留意が必要である。

① 回答構造（本人／代理）

全体では本人回答は 18.5%、代理回答は 81.5%であり、代理回答が多数を占める。

一方で、10 代では本人回答割合が全体平均より高く（概ね 2～3 割程度）、ADHD、抑うつのある層でも本人回答比率が相対的に高い傾向がみられた。また、意思伝達装置の利用経験がある層、マンション・アパート居住者でも本人回答割合が相対的に高い。

これは、比較的 ICT 接触機会がある層や、自身の意思表出に課題を抱えつつも回答可能な層で、本人回答が行われやすい可能性を示唆する。

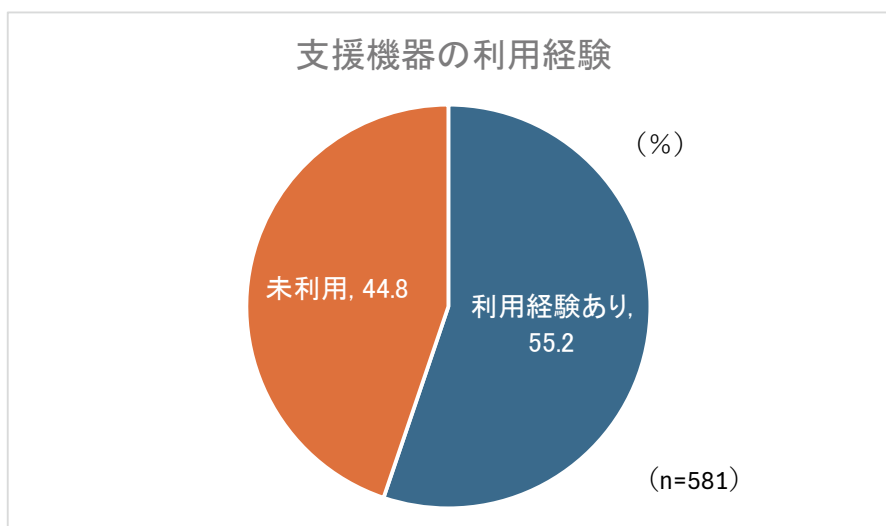
② 就労状況

全体では未就労が約 67.9%を占める。

しかし、20 代以降の地域在住者では就労割合が相対的に高まり、特に在宅（戸建て・集合住宅）層では、年代上昇とともに就労割合が増加する傾向が確認された。一方、入院・施設入所者では未就労が 9 割超と推定され、生活環境が就労機会に大きく影響していることがうかがえる。

③ 支援機器・ICT 機器の利用傾向

支援機器を「使ったことがない」とする回答は 44.8%に上り、機器活用が前提となる支援設計には一定の制約が存在することが確認された。

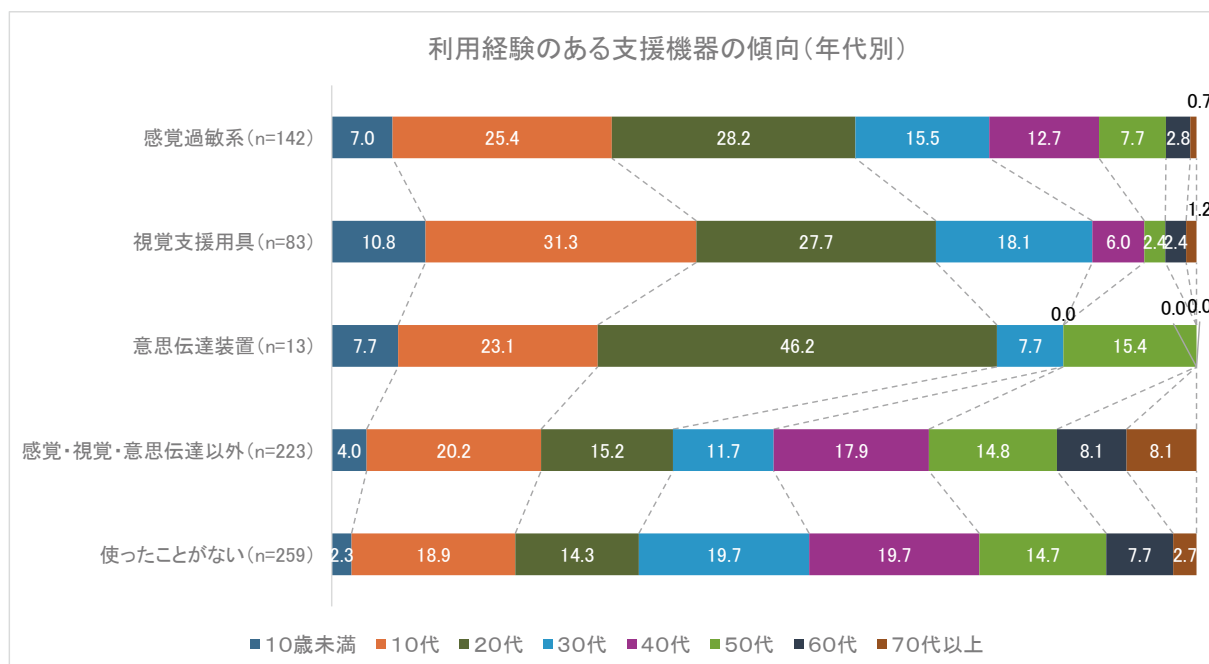


また、年齢差を見ると、以下の傾向が確認された。

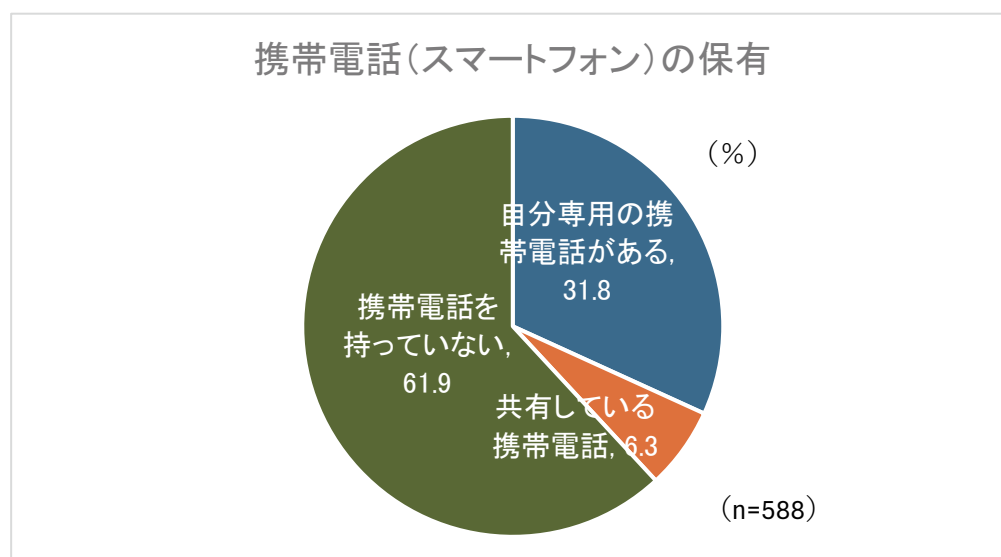
- ・ 60 代以上では、つえ、車いす、排泄・入浴関連などの身体補助系の利用経験および継続利用割合が高い。

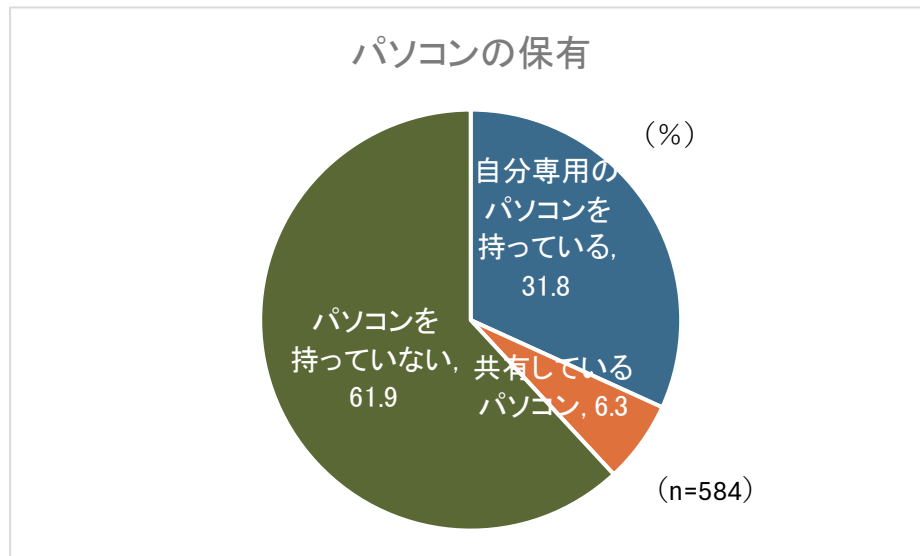
- ・ 10～20代では、視覚支援（スケジュール、タイムタイマー等）や感覚過敏対策（パーテーション、イヤマフ等）、意思伝達装置の利用割合が相対的に高い。

このことから、支援機器ニーズは障害特性のみならず、生活段階および加齢に伴う身体機能変化と密接に関連していると考えられる。



ICT 機器の保有状況を見ると、携帯電話（スマートフォン等を含む）を「持っていない」が 61.9%、PC を「持っていない」が 86.3%と高い割合を示した。





④ 障害特性別の利用傾向

障害特性別では、ASD 層で意思伝達装置、警報器、視覚支援、感覚過敏対策の利用割合が相対的に高い。また、ADHD、LD、抑うつ層では、視覚・感覚支援に加えて、生活行為支援機器（服薬管理、時間管理、生活補助等）を併用している可能性がある。ASD 層では環境刺激や意思伝達困難への対応が中心であるのに対し、ADHD 等では実行機能支援や生活管理支援の比重が高まる構造が示唆される。

⑤ 居住形態別の利用傾向

居住形態別では、在宅（戸建て・マンション）層では、視覚支援・感覚過敏対策の利用割合が高い。グループホームおよび施設入所者では、生活行為支援（見守り、服薬、調理補助、入浴・排泄関連等）の利用割合が相対的に高い。

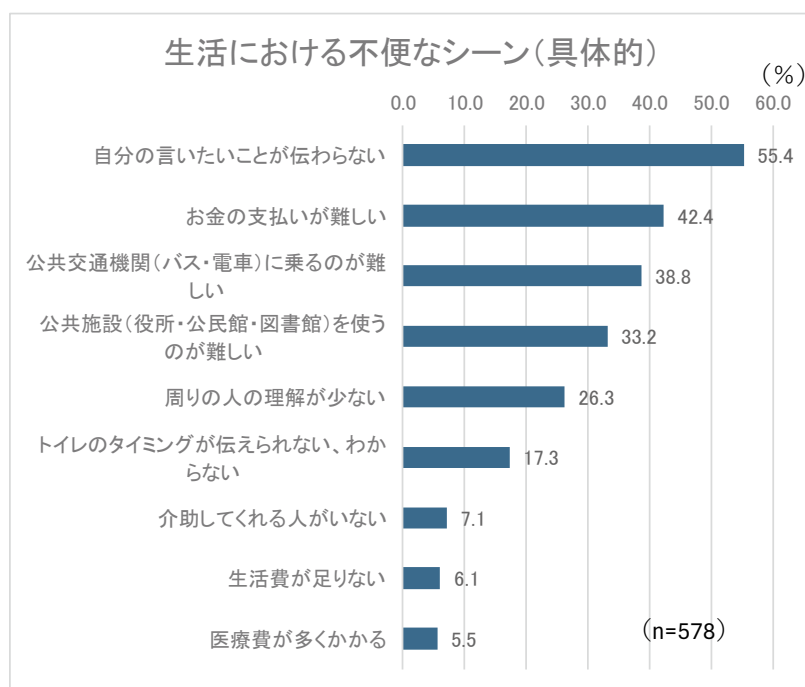
これは、生活場面の違いにより支援の中心領域が変化することを示している。

⑥ 生活困難の実態

生活上の困難として「自分の言いたいことが伝わらない」（55.4%）、「お金の支払いが難しい」（42.4%）、「公共交通機関の利用が難しい」（38.8%）が上位であった。

困難は単独の課題ではなく、相互に連鎖する構造を持つ。例えば、意思伝達が困難であると、外出時のトラブル回避が難しくなり、公共交通の利用回避につながる。外出機会が減少すると経験が蓄積されず、不安が増大し、結果として生活範囲が狭まる。金銭管理の困難も同様に、買物や余暇活動の制約を通じて社会参加を縮小させる。

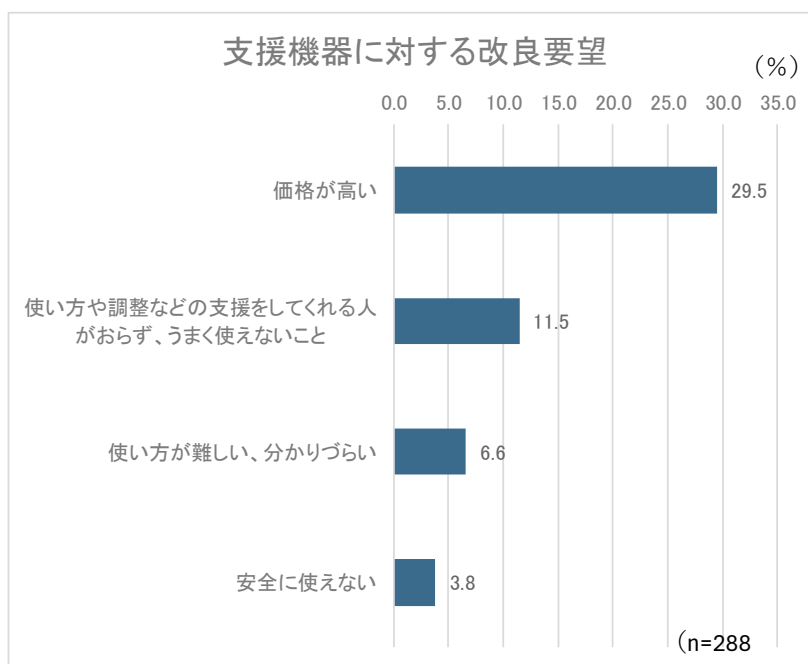
支援機器は単一課題への対応にとどまらず、生活全体の流れとの関係の中で位置づけて検討する視点が求められる。特に、意思伝達支援（AAC（Augmentative and Alternative Communication: 拡大代替コミュニケーション）等のコミュニケーション支援手段を含む）は、複数の生活困難と関連している可能性が示唆される。



⑦ 改良要望

改良要望では、「価格が高い」が29.5%で最多、「調整・支援してくれる人がいない」が11.5%、「使い方が難しい」が6.6%であった。

特に ASD・ADHD 層では「運用支援者不足」「安全性」への懸念が相対的に高く、導入後のフォロー体制の整備が、定着利用（Stage2 移行）の鍵となる可能性が示唆される。



以上のクロス集計結果から、支援機器利用は「障害特性」だけでなく、「年齢」「生活場面」「居住形態」「運用主体」によって大きく左右されることが明らかとなった。したがっ

て、支援機器の普及は機器単体の整備ではなく、生活環境および運用体制を含めた構造的設計が必要である。

2-1. ICT 保有の年齢差（携帯電話・PC）

携帯電話（スマートフォン・タブレットを含む）の保有

		合計	自分専用の 携帯電話が ある	誰かと共有 している携 帯電話	携帯電話を 持っていない
	全体	588	187	37	364
		100.0	31.8	6.3	61.9
Q1-1 あなたは 何歳ですか。	10歳未満	25	5	6	14
		100.0	20.0	24.0	56.0
	10代	126	43	19	64
		100.0	34.1	15.1	50.8
	20代	105	49	5	51
		100.0	46.7	4.8	48.6
	30代	89	32	4	53
		100.0	36.0	4.5	59.6
	40代	97	24	3	70
		100.0	24.7	3.1	72.2
	50代	81	21	-	60
		100.0	25.9	-	74.1
	60代	39	8	-	31
		100.0	20.5	-	79.5
	70代以上	25	5	-	20
		100.0	20.0	-	80.0
Q1-2-5 あなた が2種類以上の 障害を持つ場合 は、その障害名 （これまでに判 定又は診断され たもの）を教え てください。 （当てはまるも のを全て選んで ください）	ASD（自閉スペク トラム症）	224	76	23	125
		100.0	33.9	10.3	55.8
	ADHD（注意欠如多 動症）	37	18	3	16
		100.0	48.6	8.1	43.2
	LD（学習障害）	13	9	-	4
		100.0	69.2	-	30.8
	抑うつ	7	3	-	4
		100.0	42.9	-	57.1
	双極性障害（双極 症）	4	1	1	2
		100.0	25.0	25.0	50.0
	全般性不安障害 （全般不安症）	3	-	1	2
		100.0	-	33.3	66.7
	ダウン症	38	14	4	20
		100.0	36.8	10.5	52.6
	その他（具体的 に：	125	32	10	83
		100.0	25.6	8.0	66.4
	わからない	104	35	3	66
		100.0	33.7	2.9	63.5
Q2-1 新統合	感覚過敏系	142	46	19	77
		100.0	32.4	13.4	54.2
	視覚支援用具	83	36	16	31
		100.0	43.4	19.3	37.3
	意思伝達装置	13	6	3	4
		100.0	46.2	23.1	30.8
Q1-3-1 あなた がいま、住んで いるお家につい て教えてください。	感覚・視覚・意思 伝達以外	222	42	13	167
		100.0	18.9	5.9	75.2
	使ったことがない	260	96	10	154
		100.0	36.9	3.8	59.2
	一軒家	223	100	25	98
		100.0	44.8	11.2	43.9
	マンション・ア パート	86	38	10	38
		100.0	44.2	11.6	44.2
	グループホーム （障害のある方が 多い）	102	38	-	64
		100.0	37.3	-	62.7
	病院に入院してい る	2	-	-	2
		100.0	-	-	100.0
	施設に入所してい る	170	12	2	156
		100.0	7.1	1.2	91.8
	その他	13	6	-	7
		100.0	46.2	-	53.8

PC の保有

		合計	自分専用の パソコンを 持っている	誰かと共有 しているパ ソコンがあ る	パソコンを 持っていない
	全体	584	30	50	504
		100.0	5.1	8.6	86.3
Q1-1 あなたは 何歳ですか。	10歳未満	25	—	1	24
		100.0	—	4.0	96.0
	10代	126	6	21	99
		100.0	4.8	16.7	78.6
	20代	104	9	19	76
		100.0	8.7	18.3	73.1
	30代	87	7	4	76
		100.0	8.0	4.6	87.4
	40代	97	5	4	88
		100.0	5.2	4.1	90.7
	50代	80	1	—	79
		100.0	1.3	—	98.8
	60代	39	1	1	37
		100.0	2.6	2.6	94.9
	70代以上	25	1	—	24
		100.0	4.0	—	96.0
Q1-2-5 あなた が2種類以上の 障害を持つ場合 は、その障害名 (これまでに判 定又は診断され たもの)を教え てください。 (当てはまるも のを全て選んで ください)	ASD (自閉スペク トラム症)	223	18	24	181
		100.0	8.1	10.8	81.2
	ADHD (注意欠如多 動症)	37	2	4	31
		100.0	5.4	10.8	83.8
	LD (学習障害)	13	3	1	9
		100.0	23.1	7.7	69.2
	抑うつ	7	1	—	6
		100.0	14.3	—	85.7
	双極性障害 (双極 症)	4	—	—	4
		100.0	—	—	100.0
Q2-1 新統合	全般的な不安障害 (全般不安症)	3	—	1	2
		100.0	—	33.3	66.7
	ダウン症	38	3	5	30
		100.0	7.9	13.2	78.9
	その他 (具体的 に:	125	3	8	114
		100.0	2.4	6.4	91.2
	わからない	104	2	7	95
		100.0	1.9	6.7	91.3
	感覚過敏系	141	10	17	114
		100.0	7.1	12.1	80.9
Q1-3-1 あなた がいま、住んで いるお家につい て教えてください。	視覚支援用具	83	6	13	64
		100.0	7.2	15.7	77.1
	意思伝達装置	13	2	3	8
		100.0	15.4	23.1	61.5
	感覚・視覚・意思 伝達以外	222	8	11	203
		100.0	3.6	5.0	91.4
	使ったことがない	258	14	24	220
		100.0	5.4	9.3	85.3
	一軒家	220	16	35	169
		100.0	7.3	15.9	76.8
Q1-3-1 あなた がいま、住んで いるお家につい て教えてください。	マンション・ア パート	86	5	13	68
		100.0	5.8	15.1	79.1
	グループホーム (障害のある方が 病院に入院してい る	101	5	3	93
		100.0	5.0	3.0	92.1
	施設に入所してい る	2	—	—	2
		100.0	—	—	100.0
	施設に入所してい る	170	3	1	166
		100.0	1.8	0.6	97.6
	その他	13	2	1	10
		100.0	15.4	7.7	76.9

2-2. 生活上の困難の優先度

ふだんの生活で、不便だと思うこと

		合計	お金の支払いが難しい	公共交通機関（バス・電車）に乗るのが難しい	公共施設（役所・公民館・図書館）を使うのが難しい	医療費が多にかかる	周りの人の理解が少ない	自分の言いたいことが伝わらない	トイレのタイミングが伝えられない、わからない	介助してくれる人がいない	生活費が足りない	その他（具体的に）	特にな
全体		578	245	224	192	32	152	320	100	41	35	71	127
		100.0	42.4	38.8	33.2	5.5	26.3	55.4	17.3	7.1	6.1	12.3	22.0
Q1-1 あなたは 何歳ですか。	10歳未満	25	13	11	12	2	11	19	10	3	3	1	3
		100.0	52.0	44.0	48.0	8.0	44.0	76.0	40.0	12.0	12.0	4.0	12.0
	10代	124	48	44	41	6	29	64	22	12	5	11	35
		100.0	38.7	35.5	33.1	4.8	23.4	51.6	17.7	9.7	4.0	8.9	28.2
	20代	101	48	45	41	3	26	69	13	4	6	15	13
		100.0	47.5	44.6	40.6	3.0	25.7	68.3	12.9	4.0	5.9	14.9	12.9
	30代	89	50	44	38	7	29	56	17	7	7	8	14
		100.0	56.2	49.4	42.7	7.9	32.6	62.9	19.1	7.9	7.9	9.0	15.7
	40代	95	31	30	24	4	26	48	16	6	6	16	25
		100.0	32.6	31.6	25.3	4.2	27.4	50.5	16.8	6.3	6.3	16.8	26.3
Q1-2 あなたが 2種類以上の 障害を持つ場合は、 その障害名 （これまでに判定 又は診断された もの）を教えてください。 （当てはまるものを 全て選んでください）	ASD（自閉スペクトラム症）	221	116	97	88	12	96	147	44	26	15	26	30
		100.0	52.5	43.9	39.8	5.4	43.4	66.5	19.9	11.8	6.8	11.8	13.6
	ADHD（注意欠如多動症）	37	14	10	11	4	13	22	6	4	3	5	8
		100.0	37.8	27.0	29.7	10.8	35.1	59.5	16.2	10.8	8.1	13.5	21.6
	LD（学習障害）	13	6	4	5	3	4	7	4	1	2	3	2
		100.0	46.2	30.8	38.5	23.1	30.8	53.8	30.8	7.7	15.4	23.1	15.4
	抑うつ	7	4	5	3	-	1	4	1	1	1	-	1
		100.0	57.1	71.4	42.9	-	14.3	57.1	14.3	14.3	14.3	-	14.3
	双極性障害（双極症）	4	2	2	1	-	1	4	-	1	1	-	-
		100.0	50.0	50.0	25.0	-	25.0	100.0	-	25.0	25.0	-	-
Q2-1 新統合	全般的な不安障害（全般不安症）	3	3	3	2	1	1	2	2	1	-	1	-
		100.0	100.0	100.0	66.7	33.3	33.3	66.7	66.7	33.3	-	33.3	-
	ダウン症	38	23	19	20	1	6	28	7	1	-	1	5
		100.0	60.5	50.0	52.6	2.6	15.8	73.7	18.4	2.6	-	2.6	13.2
	その他（具体的に）	124	49	55	45	9	33	68	31	7	9	27	21
		100.0	39.5	44.4	36.3	7.3	26.6	54.8	25.0	5.6	7.3	21.8	16.9
	わからない	104	34	34	29	8	13	48	17	8	9	8	37
		100.0	32.7	32.7	27.9	7.7	12.5	46.2	16.3	7.7	8.7	7.7	35.6
	感覚過敏系	141	68	55	51	5	55	100	28	19	13	25	18
		100.0	48.2	39.0	36.2	3.5	39.0	70.9	19.9	13.5	9.2	17.7	12.8
Q1-3-1 あなたが いま、住んで いるお家について 教えてください。	視覚支援用具	83	46	37	38	2	38	69	15	12	4	13	3
		100.0	55.4	44.6	45.8	2.4	45.8	83.1	18.1	14.5	4.8	15.7	3.6
	意思伝達装置	13	8	5	5	1	6	9	1	1	1	2	1
		100.0	61.5	38.5	38.5	7.7	46.2	69.2	7.7	7.7	7.7	15.4	7.7
	感覚・視覚・意思伝達以外	219	83	81	67	18	54	119	55	17	13	30	46
		100.0	37.9	37.0	30.6	8.2	24.7	54.3	25.1	7.8	5.9	13.7	21.0
	使ったことがない	255	112	101	85	12	61	129	29	11	14	28	70
		100.0	43.9	39.6	33.3	4.7	23.9	50.6	11.4	4.3	5.5	11.0	27.5
	一軒家	216	105	96	81	9	73	138	39	18	12	28	31
		100.0	48.6	44.4	37.5	4.2	33.8	63.9	18.1	8.3	5.6	13.0	14.4
Q2-2 新統合	マンション・アパート	85	39	34	33	4	19	57	15	7	8	7	13
		100.0	45.9	40.0	38.8	4.7	22.4	67.1	17.6	8.2	9.4	8.2	15.3
	グループホーム（障害のある方が	100	38	38	28	3	20	46	8	7	7	15	28
		100.0	38.0	38.0	28.0	3.0	20.0	46.0	8.0	7.0	7.0	15.0	28.0
	病院に入院している	2	-	-	-	-	-	2	2	1	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	-	100.0	100.0	50.0	-	-	-
	施設に入所している	170	60	56	49	16	40	78	36	9	7	20	52
		100.0	35.3	32.9	28.8	9.4	23.5	45.9	21.2	5.3	4.1	11.8	30.6
	その他	13	5	6	5	-	4	6	3	2	1	1	3
		100.0	38.5	46.2	38.5	-	30.8	46.2	23.1	15.4	7.7	7.7	23.1

2-3. 改良要望の内訳

支援機器等に改良して欲しい点

		合計	使い方が難しい、分かりづらい	価格が高い	使い方や調整などの支援をしてくれる人がおらず、うまく使えない	安全に使えない	その他（具体的に：)	特になし
	全体	288	19	85	33	11	38	153
		100.0	6.6	29.5	11.5	3.8	13.2	53.1
Q1-1 あなたは何歳ですか。	10歳未満	16	1	7	1	2	5	4
		100.0	6.3	43.8	6.3	12.5	31.3	25.0
	10代	70	1	16	10	3	8	42
		100.0	1.4	22.9	14.3	4.3	11.4	60.0
	20代	54	4	13	6	3	10	29
		100.0	7.4	24.1	11.1	5.6	18.5	53.7
	30代	36	2	11	3	-	7	20
		100.0	5.6	30.6	8.3	-	19.4	55.6
	40代	41	1	14	5	-	4	21
		100.0	2.4	34.1	12.2	-	9.8	51.2
Q1-2-5 あなたが2種類以上の障害を持つ場合は、その障害名（これまでに判定又は診断されたものを教えてください。（当てはまるものを全て選んでください）	ASD（自閉スペクトラム症）	124	9	37	20	5	25	54
		100.0	7.3	29.8	16.1	4.0	20.2	43.5
	ADHD（注意欠如多動症）	17	1	5	3	2	4	7
		100.0	5.9	29.4	17.6	11.8	23.5	41.2
	LD（学習障害）	5	1	2	-	1	2	2
		100.0	20.0	40.0	-	20.0	40.0	40.0
	抑うつ	6	2	3	1	-	-	3
		100.0	33.3	50.0	16.7	-	-	50.0
	双極性障害（双極症）	3	-	1	-	-	-	2
		100.0	-	33.3	-	-	-	66.7
Q2-1 新統合	感覚過敏系	130	7	36	18	9	29	61
		100.0	5.4	27.7	13.8	6.9	22.3	46.9
	視覚支援用具	78	4	24	13	4	20	29
		100.0	5.1	30.8	16.7	5.1	25.6	37.2
	意思伝達装置	13	2	6	5	2	3	4
		100.0	15.4	46.2	38.5	15.4	23.1	30.8
	感覚・視覚・意思伝達以外使ったことがない	200	15	67	18	5	18	110
		100.0	7.5	33.5	9.0	2.5	9.0	55.0
	0.0	0	-	-	-	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	-	-
Q1-3-1 あなたがいま、住んでいるお家について教えてください。	一軒家	103	4	30	17	3	19	49
		100.0	3.9	29.1	16.5	2.9	18.4	47.6
	マンション・アパート	34	2	12	5	3	8	14
		100.0	5.9	35.3	14.7	8.8	23.5	41.2
	グループホーム（障害のある方が入居している）	35	3	11	4	4	5	18
		100.0	8.6	31.4	11.4	11.4	14.3	51.4
	病院に入院している	2	-	-	1	-	-	1
		100.0	-	-	50.0	-	-	50.0
Q1-3-1 あなたがいま、住んでいるお家について教えてください。	施設に入所している	111	10	32	8	2	5	68
		100.0	9.0	28.8	7.2	1.8	4.5	61.3
	その他	5	-	2	-	-	1	2
		100.0	-	40.0	-	-	20.0	40.0

上記⑥の結果を踏まえると、価格補助のみでは十分ではなく、導入後の“設定・調整・トラブル対応”を含む運用支援体制の設計が採用継続の鍵となる。

改良してほしい点（複数回答）では、「価格が高い」29.5%（85/288）が最も多い。これに加え、「使い方や調整などの支援をしてくれる人がおらず、うまく使えない」11.5%（33/288）、

「使い方が難しい・分かりづらい」6.6% (19/288)、「安全に使えない」3.8% (11/288) が挙がる。

年齢別にみると、例えば「お金の支払いが難しい」は30代で56.2% (50/89) と高く、40代は32.6% (31/95) と低いなど、生活自立段階（就労・単独外出等）に応じて課題の出方が変化する可能性がある。

「ふだんの生活で不便だと思うこと（複数回答）」では、最も多いのが「自分の言いたいことが伝わらない」55.4% (320/578) であり、コミュニケーション課題が全体の中核にある。次いで「お金の支払いが難しい」42.4% (245/578)、「公共交通機関に乗るのが難しい」38.8% (224/578)、「公共施設を使うのが難しい」33.2% (192/578) が続く。

携帯電話（スマホ・タブレット含む）は全体で「持っていない」61.9% (364/588)。一方、20代では48.6% (51/105) と相対的に低く、40代では72.2% (70/97) と高いなど、年齢により保有基盤が大きく異なる。PCは全体で「持っていない」86.3% (504/584) とさらに高く、10代でも78.6% (99/126) が非保有である。

これらの ICT 基盤を前提とすると、支援設計は個人端末前提ではなく、共有端末や施設運用モデルを併置する必要がある。

指標	母数	主要カテゴリ	値
回答者（本人）	N=589	本人回答	109 (18.5%)
就労状況	n=588	仕事をしていない	399 (67.9%)
携帯電話保有	n=588	持っていない	364 (61.9%)
PC 保有	n=584	持っていない	504 (86.3%)
支援機器利用経験	N=589	使ったことがない	260 (44.8%)

（４）調査結果

①方法（データ属性・バイアス配慮、機器分類含む）

１）データの属性

有効回答 N=589。本人回答は 109 (18.5%) で、家族・支援者等による代理回答が多数。年齢は 10 代・20 代の比率が高く、学齢期～若年層が大きなボリュームを占める。

２）バイアス・解釈上の留意点

- ・ 代理回答比率が高く、本人の主観（ストレス、恥ずかしさ、満足度等）に関する項目では過小・過大評価の可能性がある。
- ・ 非該当・不明を除外して集計しているため、設問ごとに母数変動する（特に就労・ICT 保有等）。
- ・ 支援機器の利用経験は複数選択・併用が想定され、単純な機器別比較は「併用パターン」を踏まえた解釈が必要。
- ・ 施設入所者では端末保有や外出機会が制度・運用により制約されやすく、「ニーズが低い」ではなく「選択肢が少ない」可能性がある。
- ・ 自由記述（「その他」）は回答者の言語化能力・支援者の代筆方針に影響されるため、定量値の補完として位置づける。

3) 支援機器の分類

再集計により、生活上の目的で5分類として整理した。

- ・ 感覚過敏系：イヤマフ、ノイズキャンセリング、遮音パーテーション等（刺激低減・落ち着きの確保）。
- ・ 視覚支援：スケジュール提示、タイムタイマー、写真・ピクトによる手順提示等（見通し・切替え支援）。
- ・ 意思伝達（AAC（Augmentative and Alternative Communication）等）：意思伝達装置、コミュニケーションアプリ等（表出・選択・対人支援）。
- ・ 生活行為支援（感覚・視覚・意思伝達以外）：見守り、服薬、調理、移動、安全（警報器等）、排泄・入浴等の補助。
- ・ 未利用：支援機器を使ったことがない／過去に断念。

②結果（活動場面別／立場別など）

1) 立場別（本人・代理）

本人回答は18.5%に留まり、回答の解釈は「本人の困難」よりも「周囲が観察した困難・支援ニーズ」が相対的に反映されやすい。本人回答割合が高い層（若年、マンション居住、ADHD/抑うつ、意思伝達装置利用者）では、本人の体験に即した導入条件（恥ずかしさ、操作負担、デザイン等）を深掘りする価値が高い。

2) 活動場面別の困難と支援機器ニーズ

(a) 日常生活（家庭・地域生活）

生活面での不便は、管理・外出・コミュニケーションに関する項目で高い傾向が見られる。特に複数障害のある対象者や、感覚過敏系・視覚支援・意思伝達装置の利用経験者で顕著である。

定量的には、生活上の不便（Q4-1-2）で「自分の言いたいことが伝わらない」55.4%、「お金の支払いが難しい」42.4%、「公共交通機関に乗るのが難しい」38.8%、「公共施設を使うのが難しい」33.2%が上位である。これらは“本人の能力”というより、環境側の情報提示・手順設計・支援のつながり方に強く依存する。

また「介助してくれる人がいない」は7.1%と選択肢上は低いが、自由記述分析では「支援者がいないわけではないが、場面によって支援が必要になること自体が困りごと・行動制約になる」ことが示唆されている。支援機器は、支援者不在の“穴”を埋めるだけでなく、支援の必要性そのものを減らす（自立度を上げる）方向で評価する必要がある。

自由記述（その他）では、選択肢では拾いきれない「介助が必要な場面があること自体の困りごと」「自己管理の難しさ」「音（突発音・騒音）への過敏」などが多く、制度上は支援者がいても、場面ごとの支援の穴が行動制約に繋がっていることが示唆される。

(b) 就労（通勤・職場）

就労の有無では、全体で未就労67.9%と高いが、20-40代で就労率が上がる。就労における困難はASD・ADHD・LD等で幅広い項目に及び、特に「自分に合った仕事が見つからない」「働きやすい環境が見つからない」等のマッチング課題が目立つ。

クロス集計では、就労している場合の仕事の種類は「障害のある方が通う施設で、も

のを作ったり作業したりしている」が9割超であり、一般就労は30～50代で相対的に高い傾向がある。したがって就労支援では、(a)通所作業での段取り・品質安定、(b)一般就労での通勤・対人・情報共有、の2系統で課題が異なる可能性を前提に設計する必要がある。

就労場面における支援機器の要件は、本人だけで完結するよりも“職場側の合意と運用”が鍵となる。例えばノイズ対策機器の着用可否、チェックリストの共有範囲、ミスの傾向を本人がどこまで開示するかなど、心理的安全性と職場文化の影響が大きい。

対策としては、(1)騒音・刺激の低減、(2)作業手順の可視化・チェックリスト、(3)支援員・上司への情報共有（見える化）の3点を一体で設計する必要がある。

(c) 余暇（おたのしみの時間）

余暇場面では若年層で困難が多く、特に「旅行」「地域行事」「娯楽施設利用」など環境変化が大きい活動で困りごとが増える。意思伝達装置利用者では「支援してくれる人がいない」が顕著で、同行支援・情報保障・意思表示の手段が揃わないと参加が難しい。

余暇は“危険が少ない”一方で、初見環境・例外対応が多く、本人にとっては生活の中でもっとも不確実性が高い場面になりやすい。したがって、(1)事前の見通し（行程・混雑・休憩場所）、(2)当日の調整（遅延・体調変化）、(3)意思表示（困った/休みたい/帰りたい）をセットで支えることが重要である。

支援機器としては、視覚提示（行程カード）、タイマー、ノイズ対策に加え、周囲に提示できるコミュニケーションカードや定型文が有効である。支援者が同行できない場合は、遠隔で状況共有できる仕組みや、施設・家庭での“連絡窓口”の明確化が参加継続を左右する。

【対応関係の整理】困難カテゴリ→支援機器・支援プロセスのマトリクス表

困難（例）	典型的な場面	有効な機器/環境
意思が伝わらない／理解されない	家庭・外出・就労全般	AAC（意思伝達装置/アプリ）、視覚提示、定型文
金銭・手順・時間管理が難しい	買物、役所手続き、服薬	チェックリスト、タイマー、写真付き手順、服薬支援
公共交通/公共施設が難しい	通勤・通学、受診	経路案内の簡素化、IC/予約の代行、同行支援
騒音・刺激で落ち着かない	通勤、娯楽施設、学校	イヤマフ/NC、パーテーション、休憩場所確保
排泄・入浴等が難しい	施設・在宅の介護場面	入浴/排泄関連用具、見守り、呼出し
支援者がいない/場面で支援が途切れる	余暇、外出先、夜間	遠隔支援、見守り、連絡手段

本調査で頻出する困難は、(i)コミュニケーション、(ii)金銭・時間などの自己管理、(iii)外出・移動、(iv)感覚刺激、(v)生活行為（排泄・入浴等）に大別できる。これらは単独ではなく連鎖しやすく、例えば外出先での騒音（感覚刺激）が増えると疲労が高まり、意思

表出が難しくなり、結果として参加機会が減るといった形で生活範囲の縮小に繋がる。

3) ICT保有の実態と含意

携帯電話は「持っていない」61.9%、PCは「持っていない」86.3%で、ICTを前提とする支援策には導入段階の格差がある。若年層では共有端末が一定あり、家庭・学校・支援者間で「共有して使える設計」（テンプレ共有、簡単ログイン等）が鍵となる。

携帯電話を使っていて困ったこと（Q3-3-1、該当者 n=79）では、「トラブルが起きた時に対応できない」51.9%、「無料か有料かを判断しづらい」34.2%が上位であり、操作そのもの（15.2%）より“例外時の自己解決”がボトルネックになりやすい。これは、端末を配布するだけでは不十分で、トラブル時の手順提示や支援者へのエスカレーション導線（誰に、どう連絡するか）が必要であることを示す。

施設入所者では端末保有が低い傾向であり、個人端末よりも施設運用（共用端末、職員による充電・更新、利用ルール）を組み込んだ支援設計が現実的である

（5）ペルソナ分析（A～E型）

本調査では、分析結果をもとに「ペルソナ分析」を実施した。ペルソナとは、調査データに基づき、対象者の属性、生活環境、行動特性、課題、ニーズ等を統合して構築した「典型的な利用者像」である。

本事業においては、属性分類に加え、「生活場面」「障害特性」「支援環境」「機器の利用状況」を組み合わせ、支援機器の導入・運用の具体像を明らかにすることを目的とした。

これにより、個別事例に依らない形で、実装可能な支援機器のニーズおよび導入条件を整理した。なお、ペルソナは実在の個人を指すものではなく、複数の調査結果を統合して作成した「代表的な人物モデル」である。これにより、「どのような人が、どのような場面で、どのような困難を抱え、どのような支援が有効か」を具体的にイメージできるようにする。

本事業では、主要セグメントを5タイプ（A～E）に整理した。各タイプは「生活場面」「障害特性」「支援環境」「導入・運用条件」の違いにより、必要な支援機器と普及施策が異なる。

型	要約（誰・どこで）	重点支援テーマ
A	学齢期（家庭×学校）	見通し・切替え支援（視覚支援＋感覚調整）
B	若年就労（通勤×職場）	感覚過敏対策＋実行機能支援（手順・ミス低減）
C	GH生活（起床～就寝）	生活自立（服薬・買物・金銭/時間管理）と運用テンプレート
D	施設入所（未利用/断念）	簡単な入口（押すだけ意思表示）＋施設運用モデル
E	高齢在宅（身体補助中心）	移動・排泄・入浴等の身体補助＋安全（見守り）

A:学齢期:「見通し」が鍵の中高生(家庭×学校で視覚支援中心)

- ・ 基本属性例：16 歳・家族同居・公共交通で通学。
- ・ 特性/課題：予定変更が苦手、聴覚過敏、作業切替えに時間。
- ・ 支援環境：保護者・担任・支援員（通級等）。
- ・ 機器/工夫：タイムタイマー、写真/ピクトで予定提示、学校 PC のチェックリスト。
- ・ 導入条件：簡単操作、家庭-学校でテンプレ共有、端末の持ち運び前提。
- ・ 阻害要因：充電・更新忘れ、学校側アプリ制限。



【ニーズ仮説（例）】

中高生にとって、授業や家庭で毎日の「見通し」を持つために、写真と音声で予定と手順を一括提示し、学校と家庭で同じテンプレを同期できる解決策が求められる。

（リスクと対策）端末制限やアプリ導入の壁がある場合は、紙のテンプレや学校標準端末で再現できる設計（QR で呼び出す、画像を共有する等）を優先する。

（KPI 例）遅刻・欠席、授業切替えの所要時間、声かけ回数、不安度（自己評価/観察）を定点で把握する。

（運用）家庭と学校で同じテンプレを使い、週次で更新する担当（保護者・担任・支援員）を明確化する。

（機器）タイムタイマー/スケジュール、写真・ピクト、音声読み上げ、チェックリスト（紙/端末）。

【開発が期待される製品】

製品名	概要	開発が期待される理由
デジタル構造化スケジュールボード	TEACCH 型構造化支援をデジタル化し、学校と家庭で共有できるクラウド型スケジュール提示ツール	学齢期では視覚支援が極めて有効であることが確認された。一方、アナログ支援は家庭連携や継続性に課題がある。卒業後も一貫した支援を可能にするためデジタル化が期待される。
シンプル経路検索アプリ（障害特性配慮型）	情報量を最小化し、「今どこ」「いつ着く」を中心に表示する経路案内アプリ	一般向けアプリは情報過多で理解困難との課題があった。学齢期からの練習により移動自立につながる可能性がある。
音読ナビゲーション機能	読書・音読時に自分の読む箇所を自動ハイライト表示する機能	追視困難や番の把握困難が確認された。学習意欲低下を防ぐ補助技術として有効と考えられる。

B:若手就労者:通勤と作業品質の両立(感覚過敏×実行機能)

- ・ 基本属性例：24 歳・マンション住まい・電車通勤。
- ・ 特性/課題：騒音・人混みで疲労、マルチタスクが苦手、ケアレスミス。
- ・ 支援環境：ジョブコーチ/就労支援員・上司・家族。
- ・ 機器/工夫：ノイズ対策、タスク/チェックリスト、通勤リマインド。
- ・ 導入条件：職場での合意（イヤホン可否等）、進捗の簡易共有。
- ・ 阻害要因：私物/会社支給の線引き、職場文化。



【ニーズ仮説（例）】

就労中の本人にとって、通勤-作業のストレスとミスが減らすために、騒音対策と手順支援を1つのワークフローに統合し、上司に「進捗と注意ポイント」を共有できる解決策が求められる。

（KPI 例）遅刻/欠勤、ミス件数、早退、疲労度（自己評価）、支援要請回数。

（見える化）本人の負担にならない範囲で、遅延・疲労・困りごとのサインを上司/支援員に共有できる仕組みを用意する。

（作業支援）チェックリストは“手順の順番”だけでなく、ミスが出やすいポイントを赤字で示す等、注意配分を補助する。

（合意形成）イヤホン・パーテーション等の使用ルールを職場で合意し、合理的配慮として位置づける。

【開発が期待される製品】

製品名	概要	開発が期待される理由
実行機能サポート・タスクナビアプリ	作業工程を「一画面一工程」で提示し、完了表示を明確にする就労支援アプリ	一度に多くの説明を受けると停止する特性が確認された。工程分解と視覚提示は就労定着に直結する。
視覚化型マネーマネジメントアプリ	残高をバーや図で減少表示し、1日上限設定が可能な金銭管理アプリ	金額概念の抽象理解が困難な一方、視覚化は有効との示唆があった。ICカード利用拡大に対応した支援が必要。
情報過多抑制ブラウザ	必要情報のみを抽出表示する簡易ブラウザ	情報過多により意欲喪失や頭痛が生じる課題が確認された。刺激制御型UIが求められる。

C:地域生活ステップアップ:グループホームの30代(生活自立支援)

- ・ 基本属性例：35歳・GH・日中は通所/パート。
- ・ 特性/課題：金銭/時間管理が苦手、見落とし、手順定着に時間。
- ・ 支援環境：世話人・生活支援員・相談支援専門員等。
- ・ 機器/工夫：服薬支援（仕切り+リマインド）、写真つき買物リスト、見守り等。
- ・ 導入条件：設定・保守がスタッフ負担にならない（テンプレ配布/遠隔メンテ）。
- ・ 阻害要因：機器間の連携不足、更新時の再設定、スタッフ交代での引継ぎ。



【ニーズ仮説（例）】

GH生活者にとって、服薬・買物・外出の「自立度」を高めるために、チェックリスト/リマインド/見守りをホーム全体テンプレで一括管理し、スタッフ交代時も設定が引き継げる解決策が求められる。

（自立支援）成功体験を作るため、まずは服薬や買物など効果が見えやすいタスクから段階導入する。

（引継ぎ）スタッフ交代時に引き継ぐ項目（リマインド時刻、服薬内容、注意点）をフォーマット化する。

（運用）個人最適よりも“ホーム全体の標準化”を優先し、設定項目を最小限にして継続性を確保する。

【開発が期待される製品】

製品名	概要	開発が期待される理由
超堅牢型デジタル・タスクボード	壊れにくい専用端末で生活手順を常時表示する機器	手作りタスクボードが自立の拠り所となっている。破損リスクと支援の継続性の両立が課題である。

制限付き用途別決済アプリ	「用途別財布」をデジタル再現し、上限超過不可とする決済アプリ	財布を用途別に分ける工夫が確認された。無制限利用は困難であり、制限設計が必須である。
トイレ・入浴手順ガイド（AR 型）	公共施設や旅館等で使用できる視覚的手順表示ツール	トイレ操作や入浴手順の混乱が報告された。環境が変わる場面での支援ニーズが高い。

D:未利用層の包摂:施設入所の 50 代(「簡単さ」と負担最小化)

- ・ 基本属性例：52 歳・施設入所・余暇は TV 中心。
- ・ 特性/課題：新しい機器への抵抗、口頭指示理解にばらつき。
- ・ 支援環境：介護職員・家族（来訪まばら）。
- ・ 現状：ほぼ未利用、または過去に断念（操作が難しい、壊れやすい、充電管理困難）。
- ・ 導入条件：ワンタッチ操作、壊れにくい、職員が一括で充電・更新できる。
- ・ 阻害要因：費用、制度情報不足、共同利用ルール。



【ニーズ仮説（例）】

施設生活者にとって、意思表示と家族交流を増やすために、写真・スタンプ中心の「押すだけコミュニケーション」とビデオ通話を 1 台で簡単に使え、充電/更新は職員がまとめて行える解決策が求められる。

（家族連携）家族側の操作負担も考慮し、定時の通話枠や“写真を送るだけ”など簡単な関わり方を用意する。

（施設運用）充電・アカウント管理・通信設定を職員が一括で担えるよう、台帳とルール（持ち出し、利用時間）を整備する。

（簡便性）機能を絞り、画面遷移を最小化する。誤操作しても戻れる設計を前提にする。

【開発が期待される製品】

製品名	概要	開発が期待される理由
耐衝撃型支援タブレット（施設仕様）	投擲・落下に耐える強化端末と限定アプリモード	機器破損が導入障壁となっている。破損前提設計が普及条件となる。
興奮兆候可視化センサー（支援者向け）	心拍・動作・声量等を解析し色表示で警告するデバイス	熟練職員は兆候を察知できるが、若手支援者には困難。事故予防の観点から需要が高い。
音声起動型ナースコール	ボタン操作不要で音声により支援要請可能な装置	身体的制約や操作困難者への対応が必要。重度障害者施設での実用性が高い。

E:高齢在宅:身体機能補助の継続利用(安全・介助負担軽減)

- ・ 基本属性例：50代以上・在宅（家族介護やヘルパー併用）。
- ・ 課題：移動、排泄、入浴等の身体負担と事故リスク。
- ・ 機器/工夫：歩行器・車いす、排泄/入浴関連用具、住宅内の環境調整。
- ・ 導入条件：給付/補助情報、住宅改修も含む導入計画、介助者の導線に合うこと。
- ・ 阻害要因：価格、住宅改修の負担、介助者負担。



【ニーズ仮説（例）】

高齢在宅者にとって、移動・排泄・入浴の負担と事故リスクを減らすために、身体補助用具と安全（見守り・アラート等）を組み合わせ、介助負担を下げる解決策が求められる。（安全）転倒・溺水等のリスクを踏まえ、見守りはアラート過多にならない閾値調整と、

対応者（家族/ヘルパー）の役割分担を明確化する。

（制度活用）給付・補助制度の情報提供と申請支援が導入の成否を左右する。カタログ提示だけでなく、ケアマネ等と連携した導入計画が必要。

【開発が期待される製品】

製品名	概要	開発が期待される理由
通帳 GPS デバイス	通帳等に装着可能な小型位置確認デバイス	紛失と盗難誤認のリスクがあり、本人意思尊重と家族安心の両立が求められる。
てんかん予兆検知ヘッドギア	脳波や動作変化を検知し発作兆候を通知する装置	転倒事故リスク軽減が重要課題。知的障害との併存率が高い。
自動運転型屋内車椅子	施設内で目的地まで自律移動する車椅子	支援者負担軽減と人手不足対策の観点から需要が見込まれる。

開発が期待される製品（ペルソナの想定ニーズ別）については、ペルソナの想定ニーズや課題に対する機能別に整理したが、各ペルソナの枠を超えても有益なものも存在する。

（６）まとめ・考察

本調査の分析にあたっては、年齢、障害特性、居住形態、就労状況などの属性によるクロス集計に加え、自由記述の質的分析を行い、さらに生活状況を反映した A～E 型のペルソナ分類を実施した。これにより、単なる利用率の把握にとどまらず、生活環境と機器活用との関係性を立体的に整理した。

支援機器活用モデル(生活場面×運用設計)

①困難の把握(生活場面)

生活・就労・余暇
困難は単独だけでなく連鎖する
例：
外出困難→社会参加減少→
経験不足→不安増大→外出困難

②解決手段(機器・環境)

ICT／非ICT／共有端末
感覚過敏／視覚支援／AAC(拡大代替コミュニケーション／生活行為
“端末前提”ではなく“運用前提”

③運用設計(支援体制)

誰が支援するか
誰がトラブル対応するか
引き継ぎ・標準化(グループホーム／施設)
職場における合意(就労)

④成果(生活の変化)

QOL・社会参加機会の拡大
自己決定の増加
支援負担の軽減
継続利用(成熟度の向上)

※普及・定着のポイントは、「価格」だけでなく、導入後の伴走支援(設定・調整・更新・安全)も重要である。

図 1：支援機器活用モデル（生活場面×運用設計）

1) ICT 基盤格差の可視化と実装上の示唆

携帯電話未保有が約 6 割、PC 未保有が約 9 割という結果は、スマートフォンアプリを中心とした支援設計が全体最適にならない可能性を示す。

この結果は、図 1 の②「解決手段」において、以下を併置する必要性を裏付ける。

- ・ ICT
- ・ 非 ICT 機器
- ・ 共有端末
- ・ 施設運用モデル

未経験層 44.8%という数値は、「ニーズの欠如」ではなく「接触機会の不足」である可能性が高い。本事業では、支援機器活用を Stage0（未接触）から Stage3（拡張活用）までの 4 段階で整理している（図 3 参照）。特に、Stage0（未接触）から Stage1（試行導入）への移行が普及の起点となる重要な論点である。

2) 生活困難の“連鎖構造”の解明

主な困難項目は以下の通りであり、独立課題ではなく、外出困難→社会参加減少→経験不足→不安増大→表出困難の連鎖構造を持っている。

- ・ 自分の言いたいことが伝わらない（55.4%）
- ・ お金の支払いが難しい（42.4%）
- ・ 公共交通機関の利用が難しい（38.8%）

この構造は、図 1 の①から④へと連なる因果関係を説明している。

支援機器は単機能補助ではなく、「生活循環を再構築する介入」として位置付ける必要がある。

3) 価格よりも“運用設計”が定着を規定

改良要望では「価格が高い」が最多であったが、次点として「調整を支援する人がいない」「トラブル対応ができない」「操作が難しい」が挙げられた。特に発達障害特性を持つ層では、「設定・調整支援」の不足が顕著である。

これらは、図 3 に示す Stage1（試行導入）から Stage2（定着利用）への移行段階において、設定支援・トラブル対応・運用標準化が不可欠であることを示している。また、ヒアリングでは「機器を破損した場合の修理費」や「OS アップデートによる操作変更」など、継続利用に伴う不安が導入判断に影響していることが確認された。

したがって、価格要因のみならず、導入後の運用支援体制の設計が定着の可否を左右する。加えて、ヒアリングおよび検討会においては、「機器の使い方を教える人が身近にいない」ことが普及の大きな阻害要因として指摘された。導入支援だけでなく、日常的に使い方を支援する仕組みや相談先の整備が、継続利用に不可欠である。

4) ペルソナ A～E 型による実装モデル化（図 2）

本事業の大きな成果は、利用実態を 5 類型に整理し、導入条件まで含めてモデル化した点にある。

図 2 は、これらを「生活場面 × 運用主体」の二軸で整理し、設計思想の違いを可視化している。

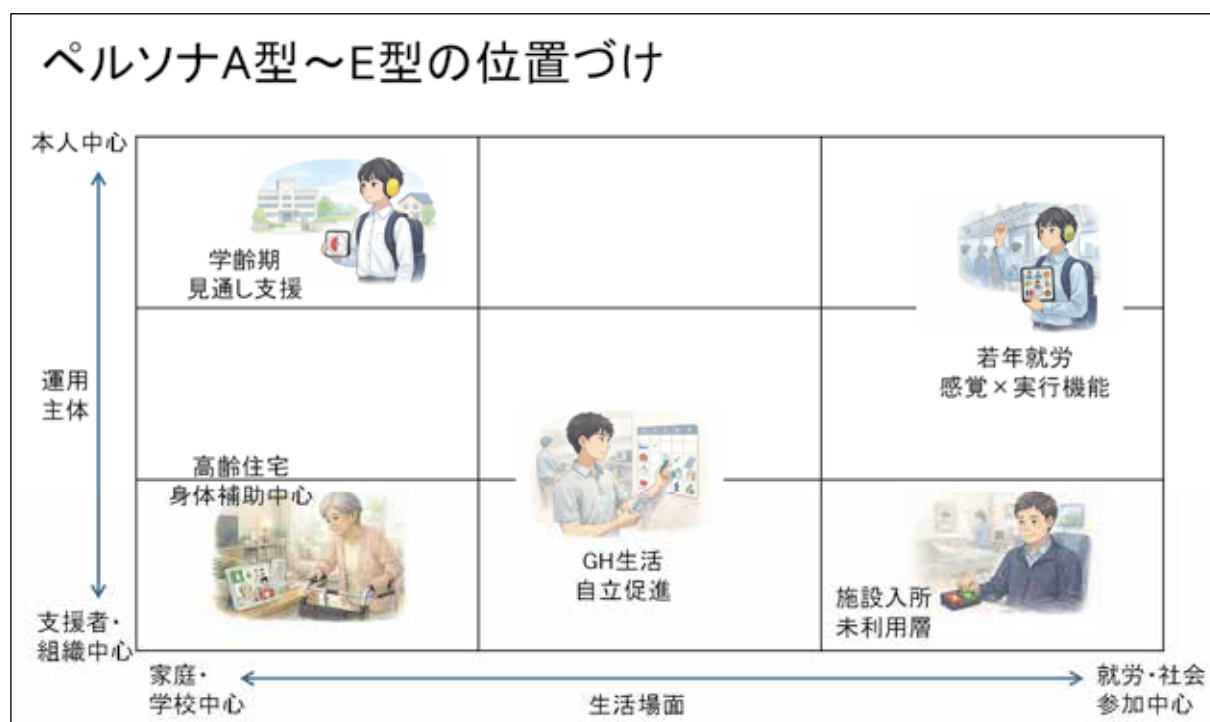


図2：ペルソナA型～E型の位置づけ（運用主体×生活場面）

ペルソナ分類	特徴・ポジション
A型：学齢期・見通し支援型	家庭と学校を往復する生活構造。 成功の鍵は「共有設計」。本人主体性が高い領域に位置。
B型：若年就労・実行機能支援型	通勤・作業環境が課題。 職場合意が不可欠。本人主体×社会参加側。
C型：GH生活・自立促進型	標準化・引継ぎ容易性が重要。 支援者関与が相対的に強い。
D型：施設入所・未利用型	簡便性と職員一括管理が鍵。 組織主体型に位置。
E型：高齢在宅・身体補助型	安全確保と制度連動設計が重要。 支援者主体型。

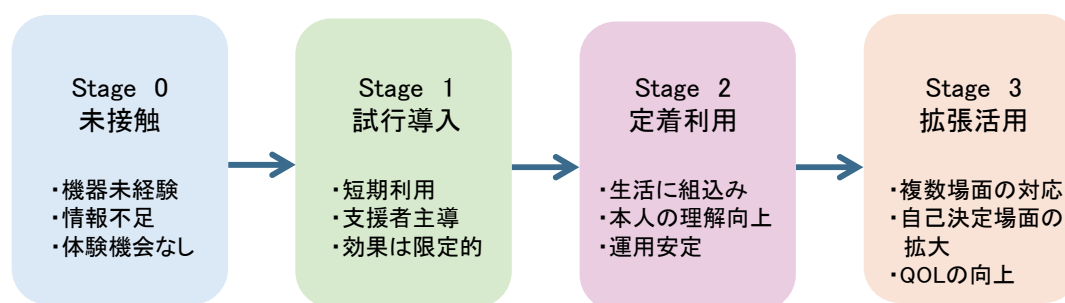
5) 活用段階プロセスの提示

支援機器活用は単純な「利用／未利用」の二分法では捉えられない。したがって、本事業では次の4段階で整理した。

段階	状態
Stage0	未接触
Stage1	試行導入
Stage2	定着利用
Stage3	拡張活用

導入から活用では「機器性能」ではなく「生活への組み込み度」で評価される。特に重要なのは、Stage1→Stage2 移行であり、ここに伴走支援設計が集中する。

支援機器の活用段階のプロセス



各段階で必要となる支援要素

- Stage0 → 1 : 体験機会の提供、制度情報の提供、初期設定支援
Stage1 → 2 : 設定・調整支援、トラブル対応、運用の標準化
Stage2 → 3 : 活用場面の拡張、本人主体性の強化、成果の評価 (KPI)

図 3：支援機器の活用段階プロセス

【分析上の留意点】

- ・有効回答 589 件のうち本人回答は 18.5%であり、代理回答が多数を占める。
- ・設問ごとに母数が変動する。
- ・複数機器併用のため単純比較は限定的である。

6) 高齢・重複障害の論点

高齢層では身体補助系機器の利用が高く、発達障害特性を併せ持つ層では感覚調整・意思伝達支援のニーズが重層的に存在する。単一カテゴリではなく「複合ニーズ」として支援設計する必要がある。

7) 分析結果から導かれる設計原則

本調査で整理した支援機器活用モデルおよび活用段階プロセスから、支援機器の普及・定着に向けた設計上の原則が導かれる。以下にその要点を整理する。

- ・支援機器利用は、年齢・障害特性・居住形態で大きく分化しており、同じ機器カテゴリでも「目的」「運用条件」が異なる。
- ・共通課題は「価格」と「導入後の運用支援（設定・調整・安全）」であり、特に発達障害特性や感覚過敏を伴う層では、環境調整と手順支援の併用が必要。
- ・ICT 保有率が低いため、スマホアプリ前提の施策だけでは未利用層を取りこぼす。共用端末・施設運用・レンタル等を含む段階設計が求められる。

- ・ 自由記述からは「支援者がいない」だけでなく「支援が必要な場面があること」が行動制約になっていることが読み取れ、場面単位での支援設計が重要。
- ・ 支援機器の導入・活用は、機器単体では完結せず、支援者の理解や関与の程度によって大きく左右される。特に、機器の選定、設定、運用、トラブル対応において支援者の役割は重要であり、支援者側の知識・理解の向上が普及の前提条件となる。

8) 運用前提設計と実装上の留意点

支援機器は単体で完結するものではなく、導入後の設定、調整、トラブル対応、費用負担、倫理的配慮を含む運用設計によって成果が規定される。以下に実装上の主要論点を整理する。

- ① “端末前提”ではなく“運用前提”で設計する：誰が設定し、誰がトラブル対応し、どこまで本人が担うのかを先に決める。
- ② “場面”で切る：生活・就労・余暇で必要機能が異なるため、場面ごとに最小構成を定義する。
- ③ “標準化と個別化”の両立：GH・施設では標準テンプレで継続性を確保し、在宅・就労では個別調整で適合度を高める。

本調査結果は、端末前提ではなく運用前提で設計すること、生活場面単位で支援を構築すること、さらに TCO（総保有コスト：Total Cost of Ownership）視点で評価することの重要性を示している。

- ・ 本調査で提示した活用段階プロセス（Stage0～3）は、「利用経験の有無」ではなく生活への組み込み度で整理する枠組みである。
- ・ 在宅と施設で ICT 環境が異なるため、同一ソリューションでも提供形態を変える必要がある（個人端末モデル vs 施設運用モデル）。
- ・ 感覚過敏やコミュニケーション困難など「目に見えにくい困難」は、本人の状態変化（疲労、ストレス）に連動する。短期の支援効果だけでなく、継続利用による QOL・参加機会の変化を評価指標に含める必要がある。
- ・ 安全性・プライバシー（見守り、録音/録画、位置情報等）は、本人同意と支援者運用の両立が論点となる。説明可能性とデータ共有範囲の設計が必須。

加えて、価格は単価のみで判断すべきではなく、維持費（通信費、消耗品、故障時交換）や人的コスト（設定・研修・支援員の稼働）を含めた TCO の視点で捉える必要がある。

また、支援機器が単体で完結しないケースが多い。複数機器を併用する際の相互運用（通知の統合、ID 管理、設定の引継ぎ）が弱いと、スタッフ負担が増え継続利用が難しくなる。現場運用を前提に、標準テンプレや設定パッケージ化の検討が有効である。

9) AI 等の新技術の活用可能性

検討会においては、支援者不足や操作支援の課題に対して、AI の活用可能性が指摘された。特に、本人の理解度に応じて情報を分かりやすく提示する機能や、トラブル時の対応支援などは、知的障害者の自立支援に寄与する可能性がある。今後は、支援者による支援と AI 等の技術的支援を組み合わせた新たな支援モデルの検討が求められる。

(7) 今後の課題と検討事項

①今後の課題

本調査を通じて明らかになったのは、支援機器活用は「製品導入」ではなく「生活設計」であるという点である。端末前提ではなく運用前提で設計すること、生活場面単位で最小機能から導入すること、そして地域の関係各所が継続的に障害者と繋がり、ライフスタイルに応じた障害者の各層の課題に対して連携して支援する協力体制の構築が求められる。

現在、国が推進する支援機器普及啓発促進事業において、各地域に登録・設置が進められている「支援機器の開発・活用を促進する支援ネットワーク（以下「支援ネットワーク※」）」の活用などによる伴走支援を実施することが、普及の鍵と考えられる。

従って、以下を今後の課題とし、継続的な取り組みが求められる。

- ・未経験層への体験機会拡充（Stage0 対策）
- ・導入後の運用支援体制の整備（Stage1→2）
- ・生活場面単位での実証研究
- ・成果評価指標（QOL・参加機会）の標準化
- ・導入から活用までの総費用 TCO（Total Cost of Ownership：総保有コスト）の視点導入
- ・支援機器に関する情報提供および相談窓口の整備（学校卒業後を含む継続支援）
- ・教育（特別支援学校等）から卒業後の支援への移行における断絶の解消

※）「支援ネットワーク」とは、地域の支援機器の開発及び普及に係る障害者、支援者、有識者等をはじめ、行政関係者や産業振興団体、開発機関等と連携し、障害者等が自身のやりたいことを支援する機器を選択し、適切に活用できる支援体制の構築を目指すものであり、加えて、支援機器の開発については、地域生活の中で課題を抱える障害者等やその支援者を中心としたインクルーシブな開発支援を進める組織を想定している。



地域の支援ネットワークにて連携する機関及び団体

②検討事項

本調査では、知的障害者の支援機器活用は、単に機器を導入するか否かではなく、生活場面、運用主体、導入後の伴走支援の有無等によって成果が大きく左右されることが示唆された。今後の検討会においては、調査結果を踏まえつつ、支援機器の普及・定着に向けた取り組みや運用モデルの具体化を進める必要がある。以下に、今後の主要な検討課題（案）

を整理する。

- 1) 支援機器活用における「対象層」の優先順位付け
- 2) ICT 前提の支援と非 ICT 機器の位置づけ
- 3) 導入後の「伴走支援」を誰が担うか（役割分担の整理）
- 4) 運用の標準化と個別最適のバランス
- 5) 本人の主体性と安全性の両立（倫理的・実務的論点）
- 6) 成果の確認の枠組み
- 7) 普及施策における費用設計（TCO の視点）
- 8) 実証研究の設計（フィールド実装の進め方）

(1) 調査結果のサマリー (Power Point 版)

知的障害者の支援機器活用の実態分析 (調査サマリー)

【研究目的】

近年、知的障害者の地域生活移行や高齢化に伴い、日常生活や就労等の支援のあり方が変化し、ICTや生活支援機器の活用が自立促進や負担軽減の手段として注目されている。一方で、導入や継続利用は手段に止まっていない。本事業では、生活場面ごとの困難構造と機器活用の関係を整理し、導入から継続利用に至るまでの過程においてどのような条件や課題が存在するのかを把握することを目的とした。

【調査概要】

2024年10月实施

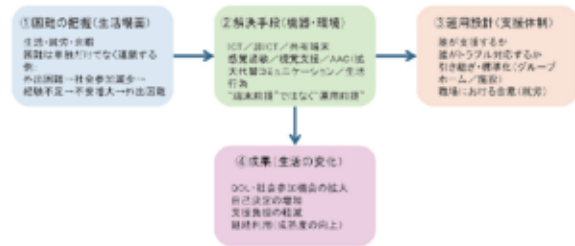
有効回答N=589(本人18.5%、代理81.5%)。

※代理(支援者)が回答する場合も当事者目線で回答するように依頼した結果である。

【本サマリーの読み方】

図1～図3を用いて、①困難の構造、②類型(ペルソナ)、③活用段階を統合的に提示する。

図1:支援機器活用モデル



困難の把握→解決手段→運用設計→成果の4層で
支援機器活用を促える枠組み

1. 背景・問題意識 (支援機器活用が定着しない理由)

- ・ 地域生活移行の進展および高齢化の進行により、知的障害者の生活場面は「家庭中心」から「地域・就労・余暇」へと拡張している。これに伴い、意思伝達、移動、金銭管理、健康管理等の課題が複合化し、従来型の人的支援のみでは対応が難しい局面が増えている。
- ・ 支援機器は、本人の自己決定や社会参加を支える可能性を有するとともに、支援者負担の軽減につながる事が期待されている。一方、現場では、①端末保有や経験の格差、②生活場面に適合しない設計、③設定・更新・トラブル対応の不在、④支援者交代による運用断絶等に想定される要因により、支援機器を導入しても定着しない事例も多いと考えられる。
- ・ 本事業では、こうした定着阻害要因を「生活構造」および「運用構造」の観点から整理し、その特徴を明らかにすることとした。

2. 方法：データ構造と分析枠組み（定量×質的統合）

【調査設計】

Webおよび紙媒体で実施し、有効回答589件を得た。回答者は本人18.5%、代理回答81.5%であり、本人の主観（満足度、困難感等）に関する項目は、代理回答による過小・過大評価の可能性ある※。

【分析手法】

以下の手法で分析し、導入プロセスを整理した。

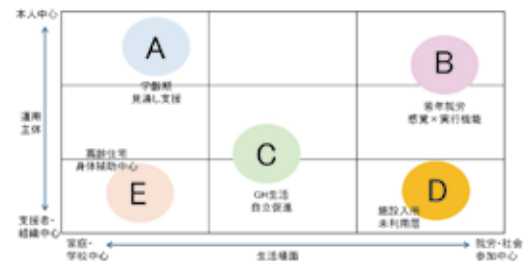
- ①単純集計により全体傾向を把握
- ②属性別クロス集計により分化構造を抽出
- ③自由記述を質的に整理し定量結果を補完
- ④生活場面と運用主体の違いを踏まえたペルソナ分類（A～E型）を構築
- ⑤活用段階モデル（Stage0～3）の整理。

【本分析の特徴】

利用率を単独指標とせず、生活場面の課題→機器・環境→運用設計→成果という一連の関係の中で、支援機器活用の状況を整理した。

※本人回答と代理回答では困難や必要支援の捉え方が異なる可能性がある。例えば、本人は意思表明や自己決定に関する困難を重視しやすい一方、家族・支援者は安全確保や生活管理上の課題を重視する傾向がある。結果の解釈にあたっては、こうした立場差を踏まえる必要がある。

図2：ペルソナA型～E型の位置づけ



活用段階モデル

段階	状態
Stage0	未接触
Stage1	試行導入
Stage2	定常利用
Stage3	拡張活用

3. 主な結果①：ICT基盤格差と未経験層（Stage0問題）

- ・携帯電話を「持っていない」者は61.9%、PCを「持っていない」者は86.3%であった。また、支援機器を「使ったことがない」者は44.1%に上る。
- ・この結果から、スマートフォンアプリを前提とした支援設計が、すべての対象者にとって現実的であるとは限らない可能性が示唆される。特に、未経験層はニーズ欠如ではなく、情報接触・体験機会の不足によって「導入の入口」に到達していない可能性が高い。
- ・本結果からは、Stage0（未接触層）の存在を踏まえ、体験機会や相談機会等の導入前段階のあり方について検討する必要性がうかがえる。開発面でも、個人端末前提ではなく共有端末・施設運用を想定した設計が必要である。

4. 主な結果②：生活困難の連鎖構造 (意思伝達を中核とする)

- 生活上の困難として「自分の言いたいことが伝わらない」(55.4%)、「お金の支払いが難しい」(42.4%)、「公共交通機関の利用が難しい」(38.8%)が上位であった。
- 困難は単独の課題ではなく、相互に連鎖する構造を持つ。例えば、意思伝達が困難であると、外出時のトラブル回避が難しくなり、公共交通の利用回避につながる。外出機会が減少すると経験が蓄積されず、不安が増大し、結果として生活範囲が狭まる。金銭管理の困難も同様に、買物や余暇活動の制約を通じて社会参加を縮小させる。
- 支援機器は単一課題への対応にとどまらず、生活全体の流れとの関係の中で位置づけて検討する視点が求められる。特に、意思伝達支援(AAC:Augmentative and Alternative Communication)は、複数の生活困難と関連している可能性が示唆される。

補足：活動場面別の困難と支援機器ニーズ

本調査で頻出する困難は、「コミュニケーション」「金銭・時間などの自己管理」「外出・移動」「感覚刺激」「生活行為(排泄・入浴等)」に大別できる。これらは単独ではなく連鎖しやすく、例えば外出先での騒音(感覚刺激)が増えると疲労が高まり、意思表示が難しくなり、結果として参加機会が減るといった形で生活範囲の縮小に繋がる。

困難(例)	典型的な場面	有効な機器/環境	運用上の要点
意思が伝わらない/理解されない	家庭・外出・就労全般	AAC(意思伝達装置/アプリ)、視覚提示、定型文	緊急時を含む“使う場面”を決め、支援者が同じルールで受け取る
金銭・手帳・時間管理が難しい	買物、役所手続き、服薬	チェックリスト、タイマー、写真付き手帳、服薬支援	テンプレ化・更新負担を減らし、支援者交代でも引き継げる
公共交通/公共施設が難しい	通勤・通学、受診	経路案内の簡素化、IC/予約の代行、同行支援	現地の“例外”対応(遅延・混雑)を事前に決めておく
騒音・刺激で落ち着かない	通勤、娯楽施設、学校	イヤマフ/NC、パーテーション、休憩場所確保	職場・学校での許容ルールと、本人のサイン共有が必要
排泄・入浴等が難しい	施設・在宅の介護場面	入浴/排泄関連用具、見守り、呼出し	安全と尊厳(プライバシー)の両立、アラート過多の調整
支援者がいない/場面で支援が途切れる	余暇、外出先、夜間	遠隔支援、見守り、連絡手段	“誰がいつ対応するか”を決めないで機器が機能しない

補足：ペルソナ分析(A～E型)－生活場面×運用主体による類型化

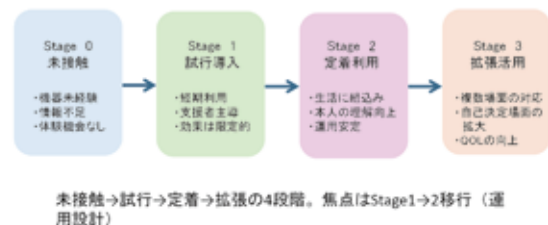
ペルソナ分析からは、支援機器開発において「機器カテゴリ」だけでなく、「どの生活場面で、誰が運用するのか」という実装条件を前提に要件整理する必要性が示唆される。
特にグループホーム・施設等では、引継ぎ可能性や設定の標準化が活用継続に影響する。

ペルソナ分類	特徴・ポジション	重点支援テーマ	ニーズ課題
A型：学齢期	家庭と学校を往復する生活構造。成功の鍵は「共有設計」。本人主体性が高い領域に位置。	見通し・切替え支援(視覚支援+感覚調整)	中高生にとって、授業や家庭で毎日の「見通し」を持つために、写真と音声で予定と手順を一括提示し、学校と家庭で同じテンプレを同期できる解決策が求められる。
B型：若年就労	通勤・作業環境が課題。職場合意が不可欠。本人主体×社会参加例。	感覚過敏対策+実行機能支援(手順・ミス低減)	就労中の本人にとって、通勤・作業のストレスとミスを減らすために、職場対策と手順支援を1つのワークフローに統合し、上司に「進捗と注意ポイント」を共有できる解決策が求められる。
C型：地域生活ステップアップ/グループホーム	標準化・引継ぎ容易性が重要。支援者関与が相対的に強い。	生活自立(服薬・買物・金銭/時間管理)と運用テンプレート	GH生活者にとって、服薬・買物・外出の「自立度」を高めるために、チェックリスト/リマインド/見守りをホーム全体テンプレで一括管理し、スタッフ交代時も設定が引き継げる解決策が求められる。
D型：未利用層/施設入所	簡便性と職員一括管理が鍵。組織主体型に位置。	簡単な入口(押すだけ意思表示)+施設運用モデル	施設生活者にとって、意思表示と家族交流を増やすために、写真・スタンブ中心の「押すだけコミュニケーション」とボイス通話を1台で簡単に使え、充電/更新は職員がまとめて行える解決策が求められる。
E型：高齢在宅	安全確保と制度連動設計が重要。支援者主体型。	移動・排泄・入浴等の身体補助+安全(見守り)	高齢在宅者にとって、移動・排泄・入浴の負担と事故リスクを減らすために、身体補助用具と安全(見守り・アラート等)を組み合わせ、介助負担を下げる解決策が求められる。

5. 統合成果：活用段階モデル(Stage0～3)と運用設計の重要性

- 図3は、支援機器活用を「利用／未利用」で二分するのではなく、未接触から拡張活用までを4段階で整理したものである。
- Stage0(未接触)は情報・体験機会の不足が中心課題であり、Stage1(試行)は設定・適合調整の壁が中心となる。Stage2(定着)では運用引継ぎ・更新・トラブル対応が継続利用を左右し、Stage3(拡張)では複数機器統合や高度活用が課題となる。
- 改良要望では価格に加え、設定・調整・トラブル対応など運用支援不足が多く挙げられた。すなわち、活用可否は機器性能や購入可否だけでなく、「運用設計(誰が設定・更新・対応するか)」に強く依存する。
- 本モデルからは、Stage1(試行)からStage2(定着)への移行過程が活用継続の一つの分岐点となり得ることが読み取れる。

図3：支援機器の活用段階モデル



6. 今後の論点（案）

本研究結果からは、支援機器活用を製品単体の導入として捉えるのではなく、生活場面との関係の中で理解する必要性が示唆された。

今後の検討課題として、以下の課題が挙げられる。

- ①未接触層(Stage0)への体験機会拡充
- ②試行一定着(Stage1→2)移行を支える運用設計の標準化、
- ③個別補助ではなく地域の関係各所が連携する「支援ネットワーク※」の構築・活用
- ④成果評価指標(QOL・参加機会・自己決定・支援負担)の体系化
- ⑤導入から運用までの総費用(TCO: Total Cost of Ownership)視点導入



支援機器普及啓発促進事業において地域に登録・設置が進められる「支援機器の開発・活用を促進する支援ネットワーク(支援ネットワーク)」は、相談、適合調整、貸出、研修等を地域単位で担うものとして整理されており、支援機器の活用を通じて地域の障害者の活動や社会参加を強力に支援するものである。

(2) ヒアリング調査の結果詳細

<A:学齢期・見通し支援型>

①特別支援学校

1. 基本情報

10代女性で家族と同居し、自宅から特別支援学校に通学している生徒を想定している。重度の知的障害特性を有し、視覚支援用具の利用経験がある。携帯電話・スマートフォン・PCの利用経験はあるものの、文字を書くことに強い困難を抱えている。

生活上の困難としては、金銭管理、服薬管理、外出や買い物場面での支払い、自身の意思を適切に言語化して伝えることなどが挙げられる。特に学習場面では、文字を書くこと自体が負担となり、思考や理解内容を十分に表現できないことが本人のもどかしさにつながっている。

■アンケート回答時に想定した生徒について

当該生徒は、文字を書くことができないことに対して葛藤やもどかしさを感じている様子があった。文字で表現できなくても意思が伝わることを重視し、その生徒に適した「伝達手段」として絵文字によるコミュニケーションを活用している。生徒がイメージした絵文字を組み合わせることで言語表現につなげる指導を行う場合もある。

特別な支援機器に限定せず、既存の機能を活用しながら最大限意思を伝える方法を採用している(例:「女の子+女の子+飛び上がる」=チアリーダー)。

2. アンケートの回答者を含む学生の学校生活

【前提】本校は大学附属校であり入学時に選抜を行っている。そのため、一般的な県立特別支援学校の児童・生徒と比較すると、知的水準は相対的に高い傾向がみられる。

■ iPad を使用した教育

GIGA スクール構想の推進により、各校において iPad を活用した教育環境の整備が進んでいる。本校においても、「iPad をいかに工夫して活用するか」が校内の重要な検討テーマとなっている。具体的には、生徒一人ひとりに適した活用方法や学習内容を模索する取組を進めている。

iPad は1人1台体制としており、小学部・中学部では貸与、高等部では就学奨励費を活用して購入する形をとっている。iPad の基本操作やインストールされているアプリケーションについても、学校で指導を行っている。フィルタリング機能を設定した上で、「判断に迷う場合は相談する」「保護者と共に使用する」といった指導を含め、日常生活での活用も視野に入れた情報リテラシー教育を実施している。

iPad は生活支援や余暇活動に有用である一方、過度な依存を防ぐ観点から、適切な使用方法についても授業内で指導している。

授業では主に「ロイロノート・スクール」(アプリケーション)を活用している。ID で接続することにより、資料共有や生徒端末の画面管理、教員資料の一斉提示が可能である。アプリケーションには、成果物共有用のフォルダ機能があり、写真等も保存できることから、活用頻度は高い。また、ひらがな表記や文字サイズ変更が可能であり、生徒の特性に応じた表示調整ができる。

iPad を使用して何かを検索する際は、中高生徒はキーボードでローマ字打ちを基本とし、学生によっては画面に出てくる日本語で入力したり、音声で調べる人もいる。アプリケーションのダウンロードおよび設定は原則として教員が管理しており、生徒が自由にダウンロードできないよう制限を設けている。

本来は家庭へ持ち帰り、学校での学習内容を保護者と共有することが望ましいが、現状では課題がある。小学部および中学部では、原則として校内のみで使用している。

< iPad 活用場面①認知・コミュニケーション >

- ・ トーキングエイド for iPad
- ・ Drop Tap (ドロップタップ)

対人関係や言語表出に困難が生じやすい生徒への支援として、「トーキングエイド for iPad」や「Drop Tap」を活用し、自身の希望や感情を伝える手段として使用している事例が多くみられる。

知的障害のある児童生徒にとって、思考内容を言語化することは容易ではない。これらのツールは言語とイラスト・写真が併用されており、文字のみよりも視覚情報があることで選択しやすくなっている。学生が何を手掛かりとして認識しているかにもよるが、良く使用されている。

主な活用場面は教師と生徒間である。生徒同士での活用は十分に広がっているとは言えない。自分の訴えたいことを大人に伝えるため、自分から働きかける児童もいる。なお、近年は文字盤の使用はほとんど見られない。

< iPad 活用場面②肖像権や社会のルール >

カメラ機能：カメラ機能の活用にあたっては、肖像権や他者が写り込まないように配慮する必要性についても指導している。郊外で写真を撮影する機会があるため、校外学習等で実際に撮影し、その内容を確認しながら学習を行っている。

< iPad 活用場面③余暇活動・先生から学生への説明場面 >

YouTube：余暇活動の一環として YouTube を活用している。また、授業において動画を用いて内容説明を行う場合もある。

< iPad 活用場面④忘れ物防止 >

リマインド機能：高等部では、忘れ物が多い生徒がリマインド機能を活用し、家庭で翌日の持ち物を確認することで忘れ物が減少した事例が報告されている。

■学校生活における場面別の用具活用例

< 時間管理・スケジュールの把握 >

- ・絵カード／タイマー（数字のタイマー、デジタルタイマー、iPad）

タイマーは短時間の作業であっても見通しを持たせる目的で使用しており、視覚的に理解しやすい製品も活用している。文字情報よりも視覚情報の方が理解しやすい生徒が多いため、校内掲示は「文字＋絵」を基本としている。時間管理やスケジュール把握については、主にアナログ手法を用いており、絵カードの活用が中心である。これらの場面における iPad 活用事例は多くない。

< 気持ちを落ち着けるための支援 >

イヤマフ／カームダウン室

イヤマフについては、必要に応じて生徒自身が判断して着用するケースもみられる。校内にカームダウン室を設置し、生徒の特性に応じた環境調整を行っている。専用室が使用できない場合には、別室へ移動するなど柔軟な対応を行っている。

< 体に合わせた調整 >

足部の不安定さや姿勢保持の困難さがみられる生徒に対しては、個々の身体状況に合わせた靴底（インソール）を使用することがあり、知的障害のある児童生徒において比較的多くみられる支援方法である。

< 医療を受けやすくするための工夫 >

- ◆健康診断ごとの手順書および手作りの健診補助用具
- ◆某大学歯学部で使用されなくなった歯科用ユニットの活用
 - ・医療受診時に、医療機器への不慣れさから恐怖や抵抗感を抱く生徒は少なくない。これに対し、日常的な検診の段階から、絵と文字を組み合わせた手順書を用いて検査内容を事前に理解させるとともに、実際に使用する器具に触れる機会を設けることで、視覚的・触覚的な慣れを促している。（その結果、概ね3年程度の継続的取組により、拒否感が軽減し、円滑に検診を受けられるようになる事例がみられる）
 - ・近年、医療機関で血圧測定が求められる機会が増えていることから、年1回の健康診断において実際に血圧測定を体験させる取組も実施している。

■その他 IT 機器の活用

< スマートフォン >

- ・ 中学部まではスマートフォンの持ち込みを原則禁止としている。ただし、日常的に使用している生徒については、校内では鞆に入れて保管し、必要時のみ使用することとしており、主に帰宅時の連絡手段として活用している。
- ・ 高等部ではスマートフォンの所持率・利用率が大きく上昇する。中には、飲食店検索アプリ（「食べログ」等）を用いて店舗を調べ、実際に訪れる生徒もみられる。

<PC>

- ・ PCの使用頻度は極めて低い。約4年前にタブレット端末の1人1台体制が整備されて以降、PCの活用はほとんど行われていない。

■その他の学校生活について

<学校を出た後に向けた学習>

- ・ 高等部では職業実習が開始される。1年次には、企業から受託した業務を校内で実施する形で職業体験を行っている。
- ・ 2・3年次には、各2週間の企業実習を年2回（夏前・秋）実施し、生徒に適した就労先を模索している。就労先は、一般企業、就労継続支援A型、就労継続支援B型等がある。
- ・ 作業環境において周囲の音が気になる場合には、耳栓の使用や音楽を聴きながら作業を行うなどの調整を行っている。
- ・ 卒業後の生活様式や就労形態を想定し、移動手段や利用方法の変化も見据えた学習を行っている。
- ・ 「大きな声が聞こえて不快な場合はイヤマフを使用する」等、具体的場面を想定した指導は行っている。しかし、就労後に全く同一の状況が生じることは少なく、学習内容の応用が難しい場合がある。
 - ⇒ 同一条件下での反復が難しい場合、経験と実際の場面が結びつきにくく、汎化（応用）が課題となる。一方で、バス通学時のICカードへのチャージなど、場所や状況が比較的一定で反復可能な活動については、自立につながる可能性が高い。

<卒業後>

- ・ 卒業後の就労形態や就業先にもよるが、学校在学中のような支援機器の継続使用については、あまり事例が聞かれない。学校環境と職場環境との間に使用機会の差異があることが一因と考えられる。コミュニケーションツールは使用できることはあると思うが、それ以外の所ではあまり聞かない。
- ・ 学校としては、卒業後3年間は就業先を訪問し、状況確認を行っている。今後は、在学中にiPadで習得した技能を卒業後の生活や就労にも接続できる可能性について検討している。

3. 学校生活における場面別の課題

■お金の学習

金銭の「管理」まで到達することは難しい場合が多く、まずは「使用」に焦点を当て、社会参加につながる学習として位置付けている。

- ・ 障害程度が比較的軽度の生徒については、iPadを活用した貯金管理やスケジュール管理へ発展させたいという課題意識がある。
- ・ お金の学習として「貯金学習」を取り入れて実際に貯金をしに行くこともあるが、貯金

をして使おうとしても、まずお金の感覚を持てていない。金種の理解、3～4桁の数字理解、価格と所持金の比較などに困難があり、実際の支払い行為に結びつきにくい場合がある。そのため、修学旅行等ではICカードを活用し、金銭を電子化した形での購入体験を取り入れることがある。ただし、チャージ金額に上限を設けた上で実施している。

- ・ 学習はするものの、実店舗では他の客が待っている状況下で十分に考えることが難しく、支払い行動が定着しにくい場合もある。
- ・ バス通学の生徒については、ICカードや携帯端末でのチャージ行為を反復することで、自立的に実施できるようになるケースがある。自分で実感することは知的障害において重要な部分でもある。実生活で直面する具体的課題（例：残額不足により乗車できない状況）への対応経験は、技能の定着につながりやすい。

■公共交通機関

- ・ 校外学習前に実際にバスへ乗車しICカードの使用方法を学ぶことや、授業内で経路検索を行うことはあるが、一過性の学習にとどまることが多い。また、一般向け経路検索アプリは表示情報が多く、視認性に課題がある。どこを見れば良いか分からない、文字を捉えられないということもあるため、障害特性に配慮した、より簡潔で理解しやすい表示形式のツールがあれば有用と考えられる。

■デジタル活用への課題

- ・ 入学直後からiPadが貸与されるわけではないため、即時確認可能なアナログ手法が依然として活用されている。デジタル表示は一定時間で画面が暗転するなど、常時視認できないという課題がある。常に視界に入る掲示物は、随時確認できる点で知的障害の特性に適している側面がある。
- ・ 学習用アプリは存在するものの、必ずしも学習意欲や学力向上に直結するとは限らない。例として、文字なぞりアプリは楽しさを伴う反面、「遊び」の側面が強く、学習動機付けに十分結びつかない場合もある。

4. 今後の展望

■デジタルの活用

- ・ iPad関連の新たなサービスが次々と登場する中で、教員として把握している情報や活用方法については、生徒へ積極的に還元していきたいと考えている。
- ・ 近年では、児童生徒の情報を入力すると、その特性に応じた学習内容を提案するアプリケーション（熊本大学開発）も登場している。これらは教員の業務負担軽減（働き方改革）の観点からも活用が期待されるが、提示される内容がどの程度妥当であり、実態に即しているかについては慎重な検討が必要である。

■合理的配慮に基づいた対応

- ・ 本校は知的障害特別支援学校であるため、入学選抜において認知能力のみを評価基準とはしていない。むしろ、提示された環境の中でどのように行動し、どのように関わろうとしているかといった適応の様子を評価の観点としている。そのため、学力水準が一定であることを前提としているわけではなく、支援ニーズの高い生徒も在籍している。生徒間の個人差は大きく、個々の状況をどのように把握し支援していくかが重要な課題と

なっている。自らの意思や感情を言語化できる生徒もいれば、表出が困難な生徒もいる。

- ・ 福祉機関、医療機関、学校が連携し、必要に応じてケース会議を開催することで、対象生徒の行動の背景を多面的に解釈している。加えて、保護者との継続的な情報共有を通じて理解を深めている。
- ・ 意思決定支援については学習として取り組んでいるが、「否定的な意思表示をすると叱責される」という誤学習につながる可能性がある点は課題である。例えば給食指導において一方的に摂食を促し続けると、「意思表示をしても受け入れられない」と学習してしまう恐れがある。国の方針としても、合理的配慮の観点から、本人の参画を前提とし、その意思を尊重した意思決定を行うことが求められている。意思表出が困難な生徒については、学校側の一方的な解釈とならないよう、保護者と連携しながら慎重に意思を読み取るよう努めている。

■今後あるとよいサービス

- ・ 知的障害のある利用者を想定すると、既存アプリケーションがより簡潔な構成（やさしい日本語、読み上げ機能等）となれば、活用可能性は大きく広がると考えられる。具体例として乗換案内アプリが挙げられる。認知機能が比較的高い生徒であっても、情報量の多さや文字情報の処理に困難を抱える場合があるため、表示の簡素化が望まれる。

<B 型:若手就労者:通勤と作業品質の両立>

②鳥取県在住

1. 基本情報（アンケートによる事前情報概要）

■本人・支援者の関係：母親

■年齢層：10代（アンケート回答時）⇒19歳

■現在の生活場所：自宅（家族同居）

■日中の生活：日中の生活：2025年4月より就労継続支援B型事業所にて就労開始

<アンケートによる事前情報概要>

10代、ASD（自閉スペクトラム症）および社会不安症の診断がある。家族と戸建住宅で同居。視覚支援用具の使用経験があり、携帯電話・スマートフォンを利用している。移動に困難があり、情報量が過多になると意欲が低下する傾向がある。アンケート回答時点では、就労に関する手続き等は主に母親が代行しており、本人のみでの対応は困難であるとの回答があった。

■現在使用している支援機器・アプリ・用具（アンケートより抜粋）

福祉用具：視覚支援に関わる用具（スケジュール管理等）、パーテーション等、視覚刺激を調整する用具、イヤマフ等、不快な音刺激を軽減する用具

ICT：携帯電話・スマートフォン（私的な調べ物、趣味活動、写真撮影等に使用）

- ・ 改良して欲しいこと：支援してくれる人かいないと使えないものがある
- ・ 生活での不便と思う事：お金の管理をするとき、外出するとき、買い物をするとき、食事をするとき トイレにいくとき（お金の支払いが難しい、公共交通機関（バス・電車）に乗るのが難しい、公共施設（役所・公民館・図書館）を使うのが難しい）
- ・ ふだんの生活で困ること：情報が多すぎると、頭が痛くなり、なにもする気力がなく

なる。できなくなる。

- ・ 仕事の中での困り事：書類の内容が分かりづらい、相談相手がいない、WEB ミーティングの使い方が分からない、コミュニケーションを取りづらい、作業内容が分かりづらい、障害のことを理解した支援を受けることができない
- ・ お楽しみの時間の困り事：旅行へ行くとき、スポーツをするとき、映画・コンサート・美術館・カラオケ等に行くとき（お店に入りづらい、支援してくれる人がいない、サービス・ルール等の内容が分かりづらい、施設の設備の使い方がわからない、いろいろな情報を手に入れにくい、障害のことを理解した支援を受けることができない）
- ・ 助けがあると良いこと：コミュニケーション、移動、食事、スケジュール管理、時間の管理、お金の管理、ICT 機器の利用
- ・ 出来るようになりたいこと：他の人といろいろな話をしてみたい、スムーズに移動したい、お金を管理したい、落ち着いて生活や仕事がしたい、こんな仕事をしてみたい

■主な支援者：母親

■障害の特性：

- ・ 平成 28 年に自閉スペクトラム症（ASD）と診断され、そのほか社会不安症、知的障害、偏食症の診断を受けている。知的障害も認められるが、特性としては ASD の影響がより強い。
- ・ 療育手帳は未取得であるが、令和 5 年 8 月に精神障害者保健福祉手帳を取得している。同手帳は 2 年ごとの更新制であり、福祉支援との継続的なつながりを維持する目的もあって取得したものである。現在、服薬は行っていないが、手帳更新等のため半年に 1 回精神科を受診している。
- ・ 感覚過敏があり、特に朝の気候や気圧の変化により体調が左右されやすい。
- ・ 一度に多くの情報を提示されると、思考が停止してしまうことがある。本人の関心や問いと異なる情報が提示されると、混乱を覚える様子がある。
- ・ 会話については第三者が補足・仲介することで理解が進むが、単独では内容把握が難しい場合が多い。例として、テレビ番組におけるお笑いのやり取りなど、文脈依存の内容の理解は難しい。
- ・ 聴覚情報の処理が苦手であり、音声のみの情報理解は困難である。テレビ視聴時は字幕を活用して内容理解を補っている。聞き取りにくいこともあるが、何となくわかっていたりする。特に連続ドラマ等は字幕と併用して理解している。字幕利用は当初、祖父母の聴力低下への対応として始まったが、結果的に本人にとっても理解を助ける有効な手段となっている。
- ・ 文字の読み取り自体は可能であるが、理解には強い集中を要し、著しく疲労する。読み取った情報を意味として処理・変換することに困難がある。絵文字や紙媒体よりも、タブレット端末の表示の方が理解しやすい傾向がある。
- ・ 高周波音に対する過敏さがあり、ラジオ音声等は不快感を生じる場合がある。周波数帯により受容可否が異なる。一方で、ゲーム音楽など特定の音は好ましく感じている。

■本人の好きなこと

- ・ 料理への関心が高く、自ら調理し、家族等に食べてもらいたいという意欲がある。
- ・ ゲームへの関心が非常に高い。学生時代に学校では PC でゲームをしており、「桃太郎電鉄」の教育版が出た時には校長先生に直談判して使えるようにしてもらった。「Minecraft

Education Edition」も活用し、制作物を学習発表会で発表している。

- ・ ピアノ演奏を行っており、YouTube 上の鍵盤動画を参考に独学で練習している。学習発表会で発表もしている。家族のリクエストをもとに楽曲を検索し、反復練習をしている。習い事としてではなく、養護学校の時はピアノの先生にみてもらい一緒に演奏していた。
- ・ 筋力トレーニングにも取り組んでいる。

■日中活動の様子（就労継続支援 B 型事業所）

- ・ 就労継続支援 B 型事業所に週 3 回通所している。9：00～9：30 に施設のお迎えがあり、13:30 くらいに帰宅する。
- ・ 主な作業は軽作業（車部品関連、箱折り等）であり、水曜日は併設カフェにてコーヒー提供や接客も担当している。接客には当初苦手意識があったが、来店者が地域住民中心であることから、現在は前向きに取り組んでいる。
- ・ 就労先の検討段階では母親が候補を探し、見学・実習を経て現在の通所に至っている。
- ・ 小学校時は対人不安からスクールバス利用が困難であったが、現在の事業所環境には適応している。職員の雰囲気は本人に合っており、施設の方が迎えに来るまでは 1 人で過ごせる。
- ・ 頭痛等の体調不良時には、職員へ自ら申し出ることができている。
- ・ 体力面に課題があるため、当面は B 型事業所での安定通所を目標とし、将来的に一般就労を視野に入れている。過度な負担が就労意欲低下につながらないよう、無理のない範囲での就労継続を重視している。
- ・ 職場では対人関係への配慮がなされており、環境調整も柔軟に行われている。職場の人は丁寧話しかけてくれて、状況に応じて部屋を変えてくれたりする。
- ・ 状況に応じた「おおよそ」の判断が難しく、カフェなどで、人数変動時の分量調整などでは逐一論理的に計算しようとする傾向がある。
- ・ 現在は皆勤を目標として通所を継続している。

2. 活動場面ごとの利用実態

（生活の中で使用している機器の場面と背景）

＜効果：本人の心理的安定＞

■パーテーション

- └【使用場面】在学時、学校で疲労を感じた際
- └【背景】特別支援学校では異学年が同一教室で学ぶ場合があり、多様な特性のある児童生徒が同空間にいる。その視覚・聴覚刺激により疲労が増し、休息時に他者から見られることへの抵抗感があった。
- └【使用方法】本人の「壁を作ってほしい」との要望に基づき、教員がパーテーションを設置し、視覚的・物理的に他の生徒との接触を避けられる環境を整えていた。

＜効果：本人の理解を促す＞

■ホワイトボード

- └【使用場面】在学時の学校生活（家庭では同様の詳細対応は実施していない）
- └【背景】文章形式の説明では理解が困難であったため。
- └【使用方法】「●月●日／●時／●へ行く」といった単語中心の簡潔な表記とし、終了後は

消去するなど、視覚的に整理された形で提示していた。小学校期から実施され、特別支援学校においても同様の支援が継続された。

＜過去に使用し、成長とともに不要となったもの＞

■絵カード：幼児期に言語支援の一環として使用していたが、現在は使用していない。

＜購入したが、ほとんど使用していないもの＞

■イヤマフ：購入したがあまり使用しなかった。締め付け感や圧迫感への不快感、装着姿を他者に見られることへの抵抗感があり、家庭内で時折使用するにとどまった。

■デジタルイヤホン：自ら操作・設定を行う必要がある点が負担となっている。ワンタッチ操作ではなく、長押しや複数工程を要する操作が難しい可能性がある。

■ノイズキャンセラー：ノイズキャンセリング機能付き機器についても同様に操作負担が大きく、使用に至っていない。

■耳栓：装着感等が本人に合わず、継続使用には至らなかった。

（IT 機器）

■スマートフォン

- ・ 現在、スマートフォンは所有していない。
- ・ スマートフォンを持つ場合、緊急時の連絡手段として活用できる可能性がある。また、金銭管理機能等も活用可能であることから、家族としても仕組みを理解する必要性を感じている。
- ・ ただし、画面の小ささから視認性に課題があり、タブレット端末の方が適していると考えられている。

■タブレット

- ・ 主な用途は愛犬の写真撮影およびゲーム利用である。メモ機能の活用や一般的な情報検索はほとんど行っていない。ゲームの内容を調べたいときに検索をしている。「Minecraft」等のゲームを通じて語彙や概念を習得している側面がある。

3. 生活の工夫

■家族との調整

- ・ 祖母が同一内容を繰り返し尋ねる状況に対応するため、家庭内でホワイトボードを用いた情報共有を行っている。妹の状況に関する問いかけが繰り返されることが本人の心理的負担となるため、家庭全体で配慮・調整を行っている。

■ポイント制ルール

- ・ ゲーム利用時間をポイント制で管理する仕組みを導入しており、過度なゲーム利用を防ぐことを目的としている。
- ・ 例えば、学校に行ったら●ポイント、宿題できたら●ポイントというように、登校や課題実施等の行動に応じてポイントを付与する仕組みである。

■本人による体調管理

- ・ 頭痛時には角砂糖等で糖分補給を行うなど、一定の自己対処行動をとっている。

4. 困ったこと

■参考となる人・情報の不足

- ・ 類似した特性や状況にある参考事例が身近に見当たらなかった。自閉症協会等で情報収集を行ったが、特性のタイプが異なる事例が多く、十分な参考とはならなかったため、最終的には家族が独自に情報を探している状況である。困難の内容は個々に大きく異なることを実感している。
- ・ 就労支援事業所に関する基礎情報も十分とは言えない。多人数が集まる場への参加自体に心理的ハードルがある。e スポーツを取り入れた事業所の体験利用も行ったが、「ゲーム活動と報酬との因果関係」が本人の中で十分に理解・納得できなかった。本人にとっては、活動の目的や意義が明確であることが重要である。
- ・ 本人自身も、困難が生じた際に他者へ相談することへの心理的ハードルが高い。相談先や適切な支援者が分からないことも課題となっている。

5. 活動場面ごとのエピソード

■お金の管理

- ・ 金銭管理は現在も母親が行っている。小学校 2～3 年頃からお年玉を本人に渡し、その範囲で必要な物を購入する形をとっていたが、定期的なお小遣い制度は設けていなかった。このためお年玉の中で欲しいものを買う形を取っていた。
- ・ 行動に応じてポイントを付与する「お小遣いポイント制度（1 ポイント＝1 円）」を導入し、現在も継続している。例えば、お茶碗を運ぶ、●時までに食べたら 10 ポイント、お風呂の栓を抜く等、家庭内の行動（例：食事時間の遵守、家事の手伝い等）をポイント化している。現在は本人と妹それぞれが 1 人 1,000 ポイントくらい稼げている。卒業後に制度の継続可否を確認したところ、本人の希望により継続している。ゲーム的要素が動機付けとして機能していると考えられる。
- ・ 実店舗等で自ら支払いを行う経験はまだ少なく、今後の課題である。基本的にゲームが好きでそれ以外のものには興味がない。
- ・ 自分で買うことまでではなくてこれからの課題である。出かけた先でお金を使うとしたら、マックのポテト等。就労による収入は貯蓄している。

■外出

- ・ 自宅周辺に商業施設が少なく、外出の動機が生じにくい環境にある。主な外出は、家族との買い物同行および犬の散歩である。
- ・ 電車の利用について、最寄駅が無人駅であることから、切符購入等に心理的・実務的ハードルがある。明確な目的がない外出は実行が難しい。
- ・ なるべく一緒に出掛けようとしようと思っているが、感覚過敏の影響が大きく、連続した外出は疲労につながりやすい。このため、訪問予定箇所数等は事前に具体的に伝えている。予定外の変更が生じると強い疲労感を覚える。

■コミュニケーション

- ・ 周囲の雰囲気に合わせて合わせる傾向があり、十分に理解できていなくても同調的に応答する場合がある。そのため、母親は本人の真意を丁寧に確認しながら対応してきた。

- ・ コミュニケーションや喜怒哀楽の表現において、感情を抑制し、怒りを表出しない傾向がある。信頼関係が十分でない環境では、表情や反応が乏しくなることがある。支援者の理解度や傾聴姿勢により、反応や安心感が大きく左右される。
- ・ 時折、特別支援学校時代を懐かしむ発言がみられる。在学時には校長が休み時間に本人の興味に合わせてトランプ等に付き合うなどの関わりがあった。自身の興味関心に寄り添う関わりが、信頼関係形成を促進していたと考えられる。

■学校での学習

- ・ 一般的な教育方針は、知的障害を伴う生徒の学習特性と必ずしも一致しない場合がある。通常は手で書いて書き順を覚えるところから始めるが、本人たちは字を覚えるのが大変であるため、書き順等の形式面に注意が向きすぎ、本来の学習目的から逸れてしまうことがある。その結果、学習意欲の低下につながる場合がある。

6. 支援機器・用具への期待と課題感

■AI：AI については、対話相手としての活用可能性があるのではないかと意見があった。

■タブレット：

- ・ 現在はタブレット端末の普及が進んでいるが、より幼少期から活用できていれば、学習意欲の向上につながった可能性があるとの見解が示された。家庭ではタブレット型教材（例：「チャレンジタッチ」）を利用していた。
- ・ 例えば音読場面において、タブレット上で「どこまで読んだか」が可視化される機能があれば有効ではないかと意見があった。現状は指で文字を追っているが、途中で現在位置が分からなくなることがある。

補足：学校においては感覚過敏への配慮が必要な状況である。

7. 今後に向けた理想

幼少期から継続的な支援につながることの重要性が強調された。

アンケートの回答で想定した兄は早期に知的障害が判明し、児童期から福祉・支援機関とつながることができた。一方、妹は知的障害がないものの不安障害があり、外見上分かりにくかったことから、支援の必要性が十分に認識されにくかった。妹は支援学級に在籍していたが、日常的な個別支援は限定的であり、主に学校と教育委員会との相談対応にとどまっていた。その結果、福祉・支援機関との接続が遅れ、困難を抱えた時期があった。

※補足：妹に関する状況

- ・ 普段穏やかではあるが、高周波音への過敏反応により、衝動的な行動が生じる場合があり、自己抑制が課題である。また、指示理解が難しい場面では、反応が乏しくなることがある。
- ・ 妹はゲームや音楽への関心が高く、AI 等の活用にも関心を示している。中学生頃からオンラインを通じた友人関係を形成していた。
- ・ 居住地域に同年代の子どもが少ない環境において、オンライン交流は重要なコミュニケーション手段となっていた。

8. その他

- ・過去に卒業論文調査へ協力した経験があるが、結果等のフィードバックはなかった。大きな報告を求めているわけではなく、研究者の所感等でも共有されればよかったが、情報が得られなかった点を残念に感じている。

<C 型:地域生活ステップアップ:グループホーム>

③D型 当事者団体

1. 基本情報（アンケートによる事前情報概要）

■本人・支援者の関係：母親
 ■年齢層：30代男性（アンケート回答時）⇒31歳 IQ28
 ■現在の生活場所：グループホーム＋自宅
 ■日中の生活：生活介護施設へ通っている。
 ■仕事：製造・加工（農作業）
 ■通勤方法：家族の送迎・勤務先のバス（行動援護サービスを利用して迎えに来てもらう）
 30代、グループホーム利用、農作業の仕事、「壊れやすい、管理が面倒」で機器への改良を求める回答がある一方、「症状が軽減して必要がなくなった」と辞めた機器もある。お金の管理で困るが、自立を手助けする用具・機器への要望で複数の回答があり、ステップアップに関する参考情報を得られるのではないかと。
 ・生活での不便と思う事：お風呂・シャワーのとき、洗顔・歯磨きのとき、お金の管理をするとき（お金の支払いが難しい、自分だけで行くと不完全）
 ・仕事の中での困り事：特になし
 ・お楽しみの時間の困り事：旅行へ行くとき、地域の行事や活動に参加するとき（施設の設備の使い方がわからない、障害のことを理解した支援を受けることができない）
 ・あると良い支援：入浴支援、お金の管理（・歯磨きをチェックする機器 ・入浴を支援する機器（体を洗う順番を提示するなど）お金の種類が一目でわかる財布など、買い物時の助けになるアイテム ・知的障害者にもわかるバーコード決済アプリ ・気候や予定に合った服装をイラスト等で指南してくれるアプリ ・スケジュール管理機器

■主な支援者：生活介護支援員・家族

■生活様式

- ・特別支援学校卒業後は自宅から生活介護事業所へ通所していた。その後、同法人が運営するグループホームへ入居し、日中活動は継続している。男性7名での共同生活である。立地は男性棟と女性棟が向かい合う環境にある。
- ・平日はグループホーム、週末は自宅で過ごしている。
- ・就労継続支援事業所の利用は難しく、心身のケアを含む生活介護を選択している。

■障害特性

- ・時計や文字の理解は可能であるが、娯楽番組の内容理解や期待形成は限定的である。
- ・受動的傾向が強く、他者からの行為を受け入れやすい。「こうされた」「こうしてあげたのに」といったことがあまり分からないため、対人トラブルに発展しにくい一方、深い関係性構築が難しい側面がある。結果、誰とでもうまく付き合えるが、揉める程の関係性が築けない。
- ・パニック後の不調が長期化する場合がある。睡眠障害が状態悪化の指標となる。布団に入

っても独り言が多いとき、寝なくなると調子が悪いと思う。年齢を重ねるごとにというよりは、浮き沈みがある。

- ・ 耳が聞こえないわけではないが、聴覚情報より視覚的提示による理解が得意である。

■本人が好きなこと

- ・ ゲームおよび動画視聴を好む。
- ・ 「サルゲッチュ2」のゲームプレイ動画や「ロジャー・ラビット」の8分程度の動画など、特定の動画コンテンツを反復視聴する傾向がある。「みんなのうた」のDVDボックス（12枚）の1枚30分程度のものを自分で選んで視聴している。
- ・ その他は自宅の軽作業を行っている。
- ・ 音楽を好みカラオケにも関心があるが、音程保持は難しい。（お経のように聞こえる）

■日中の活動の様子（生活介護施設）

- ・ お小遣い程度でしっかりと働かされている。（生活介護では工賃を出す義務がないため）本人的にもただ楽しく過ごすよりは、作業活動に対して一定のやりがいを感じている様子がみられる。
- ・ 作業内容は軽作業（袋詰め、清掃、食材処理等）を担当している。現在は蛍光ペンの袋詰めをしているが、たまに園内の掃除や給食用の玉ねぎの皮むきや、法人が運営するカフェへパンを納品することもある。
- ・ 作業の様子について、不潔にしないように（髪の毛が入らないよう）する、シールがまがらないように貼る、といった注意事項は明確な指示があれば適切に遂行できる。
- ・ 昼休みに母親作成の学習プリント（計算・点つなぎ等）を実施している。施設の昼休みは1時間半程度あり、その時間で余計なことやトラブルになる話を聞いていたため、タスクを与えた。子供向けのドリルやネットの教材から作成しており、具体的には2桁の足し算・引き算、点繋ぎの内容である。
- ・ 本人は昼休みに宿題をすることを分かっており、「そうするもの」だと思っている。また本人は正答（○）への強いこだわりがあり、不正解（×）は情緒不安定の要因となる。

（グループホーム）

- ・ 日常生活においては、洗濯物を干す・畳む等の基本的な身辺自立は概ね可能である。以前は個室内に衣類を保管していたが、現在は居室から撤収し、衣類は施設管理のもと、着替え時に鍵を受け取る運用としている。
- ・ 特段の予定がない場合にウォーキングを行うことはあるが、基本的には単独行動はしていない。入浴は支援員の見守りのもと実施しており、洗身手順は指導しているが、実際の遂行状況の確認は十分ではない。
- ・ 個室では主に動画視聴を行っている。ポータブルDVDプレーヤーおよび「船・飛行機」「かわいい電車」等の児童向けDVDを複数所持し、視聴している。
- ・ 母親の勧めにより、踏み台昇降運動を約10分間実施している。また、つま先立ち傾向への対応として、足裏を伸ばすストレッチボードを使用している。

（自宅）

- ・ 自由時間が長くなると不適切行動につながる可能性があるため、空白時間が生じないよう

母親が適宜課題を設定している。一定の課題がある方が、本人および家族双方にとって安定して過ごしやすい状況となっている。

- ・ 児童期には、皿洗い、浴室清掃、床のモップ掛け等の家事活動にも従事していた。
- ・ 週末の夜間は、「入浴→歯磨き→服薬→パソコンでの動画視聴（20 時頃）→再度服薬→就寝」という一定の生活リズムを日課としている。
- ・ YouTube 視聴は 1 本 10～20 分程度のコンテンツ（主にゲーム実況やアニメ）とし、母親が内容を選定している。長時間視聴とならないよう時間管理を行っている。
- ・ 近時はトレーニングへの関心が高く、スクワット等も実施している。一方で、母親との関わりを避けるように自室にこもる様子がみられることもある。

2. 活動場面ごとの利用実態

（生活の中で使用している機器の場面と背景）

<効果：家族・施設の行動管理/本人の思考整理、心理的安定>

■スケジュール表：

- └【使用場面】日中活動全般（自宅・生活介護事業所・グループホーム）
- └【背景】聴覚的指示よりも視覚的提示による理解が得意である。特別支援学校在籍時より、視覚支援を通して行動手順を提示されてきた経緯がある。

■スケジュールボード（手作り）/タスクボード：

- └【使用場面】自宅およびグループホームでの生活全般
- └【背景】スケジュール表と同様に視覚支援として活用しており、本人にとって心理的な拠り所となっている。
- └【使用方法】ホワイトボードに貼付されたタスクを順に実行する方式である。時間指定よりも「提示された課題をこなす」形式が適している。
- └【詳細】自宅用とグループホーム用の 2 種類を母親が手作りしている。具体的には、ホワイトボードにタスク記載のマグネットシートを貼付して使用している。別途タスク保管用ボードを設け、その日の実施項目を選択して貼り替える仕組みである。グループホーム用は色紙サイズ（4～5 工程）で作成し、母親が持参させている。宿直室への設置を確認している。グループホームでの具体的内容は職員に一任している。
- └エ【エピソード】本人からタスク追加の要望が出ることがある。例として、カレンダーを見て「クリスマスケーキを食べたい」「誕生日にはケーキを食べたい」「買い物に行きたい」「コンビニに行きたい」等の要望がある。天皇誕生日などの行事と「ケーキを食べる」行為を結びつけて理解している様子もみられた。実生活上支障がなければ、可能な範囲で受け入れている。

<効果：家族・施設の行動管理/本人の時間管理、生活習慣の安定>

■キッチンタイマー：

- └【使用場面】各種活動および食事場面
- └【使用方法】回数で管理するのではなく、キッチンタイマーで時間を可視化しながら活動している。
- └【エピソード】早食い傾向があり、短時間で食事を終えてしまうことがあった。このため、1 口あたり 20 秒（施設では 30 秒）と設定し、タイマーを用いることで食事ペースの調整が可

能となっている。とても頼りにしていて、「30 回噛む」といった抽象的指示よりも有効であった。日常活動の多くの場面で携行している。本人は操作（リセット）も理解しているが、これまでに複数回故障させている。

<効果：家族・施設の服薬管理/本人の思考整理、心理的安定、自己肯定感>

■お薬カレンダー：

- └【使用場面】自宅およびグループホームでの服薬管理
- └【使用方法】母親が事前に薬をセットし、本人が取り出して服薬する。（習熟後は本人自身でセットすることも可能となっている）カレンダー形式により服薬管理が自立しており、支援者側の負担軽減にもつながっている。

■お薬ボックス（手作り）：

- └【場面】グループホームで薬を飲む
- └【使用方法】市販（ダイソー）の A4 サイズボックスを活用し手作りしている。グループホーム用リュックに収納し、週末に自宅へ持ち帰る運用としている。1 週間分の服薬後、空容器を箱に戻し、母親が確認している（概ね正確）。自立的に実施できることが本人の自己肯定感向上につながっている。
- └【ジャムの空きビン】施設だと薬の殻が飲んだ証拠になるため、ボックスの中に戻してほしいらしいが、本人は「殻＝ごみ」と認識しており、保管することに抵抗を示す。そこで、ジャムの空き瓶を「殻を捨てる容器」として位置付け、施設では殻をチェックするようにしている。服薬時には、薬を口に入れた状態を示し、服薬完了を伝える行動もみられる。

（こだわりへの工夫）

<昔使用していた機器>

■パーテーション：視覚刺激に反応して衝動的に走り出す行動があったため、空間を区切り学習に集中できる環境を整えていた。年齢とともに衝動性が軽減したため、現在は使用していない。

（IT 機器の使用）

■スマートフォン：

- ・ 本人はスマートフォンを所持していない。
- ・ 母親が何か連絡したい時は施設に連絡し、夜遅い場合はグループホーム直通の電話に掛ける。

■パソコン：

- ・ 主に動画視聴に使用している。
- ・ 当初は母親がパスワード入力を行っていたが、現在は自ら操作可能となっている。
- ・ 不適切サイト閲覧や課金リスク防止のため、母親の管理下で利用している。

3. 生活の工夫

■目的別に使用する物品の固定化

- ・ リュックや財布は用途別に分けて準備し、固定的に使用している。リュックは「自宅外

出用」「登山用」「行動援護利用時用」等、4～5種類に分けており、用途を変更すると強い抵抗を示す。財布についても、用途ごとに分けて管理している。金銭を一括管理すると混乱が生じるためである。

- ・ 大型リュックに水筒2本を入れ、水分摂取量も母親が管理している。(過剰な水分摂取傾向がみられたため、午前・午後に分けて管理する方法をとっている)

■生活の拠り所の分散

- ・ 将来的に母親が支援できなくなった場合を見据えた対応を行っている。支援責任の集中を避けるため、生活介護事業所、グループホーム、行動援護サービス等を併用し、支援体制を分散している。
- ・ その結果、母親の就労継続も可能となっている。本人が時間に基づく行動(例:15時のみおやつを求める)を身につけたことで、母親不在時でも一定程度生活が回るようになっている。
- ・ ただし、地域内の行動援護事業所数は限られており、支援基盤は十分とは言えない。事業継続が困難となった場合の代替資源確保が課題である。
- ・ 施設との情報共有は、母親がB5サイズ程度の連絡帳を用いて行っている。

4. 困ったこと

■グループホームで困ったこと

- ・ 入居当初は他者の居室へ入室してしまう行動があったが、注意や不利益経験を通して、禁止行動であることを学習した。
- ・ パニック時に衣類を破損する行動がみられることがある。そのため、個室内から衣類を撤去し、グループホームでも管理を徹底している。衣類は施錠管理とし、着替え時のみ職員が開錠する運用としている。

■家庭で困ったこと

- ・ 現在、顕著な困難は生じていない。過去には排泄失敗や睡眠障害、指示不遵守等の課題があったものの、直近の年末年始期間は比較的安定している。支援体制を分散させたことが安定に寄与している可能性がある。

5. 活動場面ごとのエピソード

■お金の管理

- ・ 月額約2,000円の工賃を、通所日数に応じた金額で現金支給し、本人がレジ型ボックスに保管している。
- ・ 金銭を使用すれば減少することは理解しており、高額・少額の区別は可能であるが、自ら計算することは困難である。特別支援学校での視覚教材による学習経験が活かされ、金種の仕分けは自力で可能である。
- ・ 外出時の嗜好品購入は300円以内と設定し、専用財布にその金額のみを入れている。2日分の場合は600円とする等、あらかじめ上限を明確化している。
- ・ 施設内の訓練用喫茶室で、昼休みに50円のコーヒーを購入することを楽しみにしている。金銭用途を混在させると混乱が生じるため、「コーヒー用」「外出用」など財布を分けて管理している。祝日等で利用機会が減る場合は、その分あらかじめ金額を調整している。

- ・ 外出自体が困難な時期があり、買い物行動と計算練習を同時に行うことが難しく、実践的な金銭訓練は十分に行えていない。

■衣服の選択

- ・ 気温に応じた衣服選択が困難であり、冬季でも薄着を選択する場合がある。そのため、日常的には母親が衣類を準備している。

■コミュニケーション

- ・ グループホームに1歳年上の利用者がおり、共にゲームを楽しむ関係にある。相手に独特な特性があっても、本人の受動的傾向により対人摩擦が生じにくく、概ね円滑な関係を維持している。
- ・ 一方で、衣類破損等の衝動行動はみられるため、主に環境調整によって対応している。

■トイレの表示が分からない

- ・ トイレの操作表示や機能が施設ごとに異なり、理解が困難であるため、表示の統一が望まれる。漢字表記にふりがながなく、理解できない場合がある。
- ・ 男性支援員同行時は、排泄自体は可能であるが、洗浄・流し操作の位置が分からないことがある。流し操作が分からず長時間出てこない場合があり、他利用者では誤って非常ボタンを押す事例もある。
- ・ センサー式（手かざし型）の操作は特に理解が難しい。

■外出

- ・ 日常的な単独外出はほとんど行っていない。
- ・ 旅行時には、旅館の大浴場利用が難しい。衣類の扱い方や入浴動線が家庭と異なるため、適応が困難である。手順を視覚的に示したガイドがあれば理解しやすいが、現状はそのような配慮が十分でない。
- ・ 地域行事（例：一斉清掃）への参加は困難であった。参加賞の飲料のみに注意が向き、突発的に取りに行く行動がみられた。祭り等の行事には関心があるが、周囲の視線等への配慮から参加に心理的ハードルがある。独語が続くことで周囲から注目される状況が生じている。

6. 支援機器・用具への期待と課題感

■壊れることについて

- ・ 一般よりも機器破損のリスクが高い傾向がある。
- ・ 本人は物品の価格や経済的価値を十分に理解しておらず、社会的仕組みに関する認識も限定的である。
- ・ タブレットは多機能である一方、故障等で使用不能となった場合の影響が大きい点が懸念される。修理期間中の代替手段確保が課題となる。実際にDVD機器が故障した際には強い不安状態となり、長時間そのことに固執する様子がみられた。
- ・ 単一機器への依存はリスクとなる。意識が分散するように場面ごとに使えるのがよく、生活基盤と同様に、支援機器も分散配置することが望ましいと考えられる。
- ・ 他者所有物との境界理解が十分でない場合があり、誤って手を出す可能性がある。そのた

め、施設では高価な物品の持ち込みを制限している場合がある。

■金銭管理アプリの可能性

- ・ 使用上限があらかじめ設定され、指定金額のみ利用可能な決済手段であれば活用可能性がある。無制限利用が可能な仕組みはリスクとなる。本人は収入総額と1日あたり使用可能額の概念理解が困難である。理解が難しい場合は、使用制限機能が必要である。
- ・ 支出状況が視覚的に示される仕組みが有効と考えられる。残額が視覚的に減少していく表示等があれば理解を促進できる可能性がある。

■タブレットの可能性

- ・ マウス操作よりもタッチ操作の方が適している。ただし、インターネット接続による課金リスクが懸念される。不適切サイトへのアクセスリスクがある限り、自由利用は困難である。そのことを本人が理解しておらずもう少し頭の良い子でもトラブルがある。
- ・ 入力権限を限定した専用アプリの導入が望ましい可能性がある。一般の人でもスマートフォンを渡すとそれを手放さなくなる話があるが、それが壊れると故障時に強い心理的混乱が生じる可能性がある。また、障害年金は生活で全てなくなるため、高額機器の継続的維持は経済的負担が大きく、現実的課題がある。
- ・ デジタル日めくりカレンダーを試行したが、定着しなかった単機能機器の方が適している可能性もあるが、明確な結論は出ていない。
- ・ 現在母親が作成している学習課題をタブレット上で提示できる仕組みへの期待がある。

■衣服の調節

- ・ スケジュール情報と連動し、適切な衣服を提示する仕組みがあれば有効である。自立的選択を促し、自己効力感向上にもつながる可能性がある。

■デジタルへの希望

- ・ ビデオメッセージ形式で日々のタスクを提示できる仕組みへの期待がある。(デジタル日めくりカレンダーで示唆する等)⇒個別最適化されたAI支援は、知的障害およびASD特性との親和性が高い可能性がある。
- ・ 現在使用しているスケジュールボードのデジタル化を希望している。
- ・ 重度知的障害者でも直感的に使用可能な設計が望まれる。

■その他

- ・ 児童期の送迎負担は大きく、移動支援に関する公的支援の充実が望まれる。

7. 今後に向けた理想

単独行動は困難であるが、状況理解を伴いながら支援者の見守りのもとで生活できる状態の実現を理想としている。

<D・E型:施設入所・高齢在宅>

④E型 社生活介護事業所(通所)

1. 基本情報

アンケート回答は施設代表者によるものであり、複数利用者の状況を統合して記載した内容であることが確認されたため、個別事例としての記述は本報告では割愛する。

【施設の基本情報】

通所利用者の年齢層は 10 代後半から 50 代である。

約 6～7 割を受け入れている。療育手帳 A 相当、障害者手帳の重度区分（5～6 段階）に該当する利用者が多い。

2. 障害特性と行動

■自閉症

- ・自閉スペクトラム症（ASD）の利用者は行動上の課題が生じやすく、知的障害を伴うケースが多い。
- ・こだわりが強く、興味関心のある活動は継続して取り組める傾向がある。
- ・絵を描く、タブレット端末で閲覧する等の活動は可能である一方、端末のフリーズ等のトラブル発生時には本人のみでの対応が難しい場合がある。
- ・タブレットや PC 等の破損が多い。落下による画面破損のほか、投げる行為により損傷する場合もある。特に強度行動障害がある場合、不快な状況に対する反応として投擲行動が生じやすい。食事場面でも、嫌いな物を投げる行動がみられることがある。
- ・機器破損への対応として、施設では利用者に保険加入を依頼している。保険未加入の場合は、実費負担での補償対応となる。
- ・ASD の特性として、聴覚情報は混乱を招きやすく、視覚情報の方が理解しやすいとされる。また、活動の「開始」と「終了」が不明確な場合、不安が高まることがある。そのため、通常と異なる手順や変更点は視覚的に提示し、見通しを持てるよう説明している。文字情報のみでは不安が高まり、繰り返し確認行動（質問）が生じやすい。
- ・TEACCH プログラム等を用い、例えば「入浴後の着替え手順」などを視覚的に構造化し、ライフステージに応じて切れ目なく同様の方法で継続できると、安定して実施しやすい。こうした手順学習（生活行動への順序づけ）は、18 歳以降に急に導入すると定着が難しいため、可能な限り幼少期から継続して行う方針としている。

■強度行動障害

- ・強度行動障害の背景には、幼少期の「誤学習」が関連する場合があるとされる。例として、望む支援が得られない状況下で、偶発的に生じた行動（物を壊す等）により周囲の注意や介入が得られた経験が、本人にとって「有効な手段」として学習されてしまうことがある。その結果、他者を害する行動が本人の意思表出手段として固定化することがある。
- ・行動変容に向けては、適切な行動による成功体験を段階的に積み重ねることが重要である。
- ・叩く・蹴る・大声等の行動について、氷山モデル等を用いて背景要因（本人特性・環境要因等）を分析し、行動支援計画に基づき段階的に低減を図る。
- ・対応方針として、環境調整の重要性が大きく、服薬は補助的要素と位置付けられている（目安として「環境 7 割、服薬 3 割」との考え方）。

3. 施設利用者の活動例

<30 代、女性>

- ・全身麻痺による身体障害があり、両上肢に麻痺がある。
- ・週3回通所し、絵本制作やイラスト制作を行い、工賃を得ている。
- ・絵本制作では、キャラクター制作担当と背景制作担当（当該利用者）に分かれて分業している。物語構成はキャラクター担当が担う。職員が製品化および販売を支援し、その収益を工賃として利用者へ支給する仕組みである。
- ・イラスト制作にはロ Maus を使用している。当該機器は自宅および特別支援学校在籍時に選定されたものである。

<50 代、男性>

- ・自閉スペクトラム症があり、同一発話を繰り返す傾向がある。
- ・以前は就労系施設に通所していたが、コロナ禍以前に本施設へ移行し、現在は通所開始から約7年が経過している。居住地が近隣であるため、徒歩で通所している。
- ・タブレット端末を使用しており、主に歌唱動画の視聴を好んでいる。
- ・買い物時は多めの金額を支払い、釣銭を受け取る方法を取っている。職員が硬貨を指定すれば支払いは可能であるが、単独での対応は困難であるため、レジ対応時には必ず職員が付き添っている。また、こだわり傾向があり、購入品目はほぼ固定されている。

<施設全体での通所方法>

- ・通所方法は、路線バス、自転車（5～6名、うち電動自転車利用）、徒歩、グループホームからの送迎等である。
- ・「おおぞらの夢／新おおぞらの夢」では、原則として保護者または職員による送迎を実施している。1名のみ、経路理解が可能であるため徒歩通所している。
- ・送迎車両の運転は派遣社員が担当し、職員が添乗員として同乗している。

<バスで通所する利用者>

- ・座席は固定されており、常に同じ席に着席している。
- ・最寄り駅始発便では安定して利用できているが、途中停留所での遅延時には「いつも来るはずのバスが来ない」状況が理解できず、不安から自傷的行動（指を噛む）につながる場合がある。
- ・学校在籍時の反復練習により乗降自体は可能であるが、交通系 IC カードの残額管理は困難であり、事前に支援者がチャージ対応している。

4. 場面別の使用している機器・用具

<スケジュール管理>

- ◆ 手順表（文字と絵を組み合わせた構成）
- ◆ 絵カード
- ◆ ホワイトボード
- ◆ TEACCH（ティーチ）プログラム（米国ノースカロライナ州で開発された視覚構造化支援プログラム）

- ・施設生活において通常と異なる手順や変更点は、視覚的に提示して理解を促している。ASD 特性として聴覚情報は混乱しやすく、視覚情報の方が理解しやすいとされるが、文字情報のみでは不安が高まり、繰り返し確認行動が生じやすい。
- ・このため、1 日の予定を 4 コマ漫画形式で提示し、視覚的に流れを理解できるよう工夫している。海言語理解が困難な状況でも、視覚的な共通イメージ（例：ハンバーガー店の視覚認識）が安心感につながるのと同様に、絵やイラストは共通認識を形成しやすい。
- ・こうした視覚的支援は、18 歳以降に新規導入するよりも、学齢期から継続的に実施する方が定着しやすい。

<心理的安定（クールダウン）>

◆ タブレット端末

- ・ASD の利用者はタブレットへの関心が高く、好みの画面やコンテンツに接すると情緒が安定する傾向がある。
- ・初期設定やアプリ起動は職員が補助し、その後は本人がスクロール操作によりコンテンツを選択している。新幹線等の乗り物映像や咀嚼音（ASMR）等、各利用者の嗜好に応じた動画を継続視聴している。

<コミュニケーション/意思決定支援>

◆ タブレット端末

◆ マカトン（視覚シンボルを用いたコミュニケーション手法）

◆ TEACCH プログラム

◆ 絵カード

◆ 書籍・写真資料

- ・マカトンを使用して利用者に状況説明を行うことがある。
- ・利用者の中には、食事選択場面でカレーやラーメンの絵カードを提示し、表情変化（微笑等）を手がかりに選好を読み取る場合がある。
- ・日々の食事について、外出機会が限られる利用者に配慮し、施設内で郷土料理を提供する工夫を行っている。言語表出が困難な利用者には、写真や書籍を提示して選択を支援している。

5. 機器の破損と保険

- ・保護者の互助会を基盤として設立された、全国対応の保険制度がある。
- ・年間保険料は約 13,000 円からで、自己負担なし、補償上限は 50 万円である。
- ・保険料は本人の障害年金から支出するケースが多いが、重度心身障害者で機器使用が少ない場合は未加入者も多い。
- ・今年度より発達障害のある利用者也加入対象となり、一般校の支援学級等にも制度案内が配布されている。
- ・全国的には、タブレット・電話・スマートフォン等の電子機器破損や、投擲行動がみられるケースでの加入が多い。

6. 支援機器ニーズ

■ナースコール

- ・ボタン操作が困難な利用者もいるため、音声による起動が可能なナースコール等の仕組みがあれば、支援員が迅速に対応できるのではないかと意見があった。

■残高不足の通知

- ・聴覚障害がある場合、交通系 IC カードの残高不足通知が音声のみでは認識できない。残高不足時にランプ点灯等、視覚的に明確な通知があれば有効である。

■通帳 GPS

- ・高齢利用者において、通帳の保管場所が分からなくなる事例がみられる。また認知症のある利用者が紛失を「盗難」と認識することで、家族や金融機関との間で混乱が生じる場合がある。家族管理が安全である一方、本人が所持を希望する場合も多く、意思尊重とのバランスが課題である。
- ・通帳に GPS 機能を付与することで、本人の所持意思を尊重しつつ、家族が所在確認できる仕組みがあれば有効ではないかと提案があった。

■自動運転の車イス（支援者向け）

- ・食堂への移動時に、複数の車椅子利用者を同時に誘導する必要がある。

■食事介助

- ・自動で口元へ食物を運ぶ装置（例：食事介助ロボット「Obi」）のような機器があれば有効であるとの意見があった。
- ・食事介助場面では、利用者の意思（例：食べる順番）を尊重する必要があるが、支援効率を優先すると意思確認が不十分となる課題がある。

■てんかん発作の予知機器

- ・知的障害を伴う利用者の中には、てんかんを併存するケースが少なくない。てんかん発作は突発的に生じるため、転倒による外傷リスクがある。
- ・てんかん用ヘッドギアに脳波変化を可視化・検知できる機能を付加することで、発作兆候を事前に把握し、事故防止につながる可能性がある。

■AI 会話記録（ケース記録）（支援者向け）

- ・「～しなければ～できない」といった発言は、場合によっては心理的虐待に該当し得る。一方で、支援者が無自覚に用いている場合もある。よって、会話内容を記録・分析し、不適切表現に対する注意喚起を行う AI 支援ツールがあれば、虐待防止に資する可能性がある。

■興奮状態を可視化するサングラス（支援者向け）

- ・経験の浅い職員でも、熟練職員のように利用者の興奮兆候を把握できる支援ツールがあれば有効である。例えば、興奮度を色信号（黄色等）で表示するデバイスがあれば、早期対応が可能となる。

<その他>

■障害者就業・生活支援センター

- ・企業と連携し、障害者の就労および生活支援を行う機関である。登録者は約1,000名で、年間約50名の就職マッチングを実施している。(同様の機関は各都道府県に設置されている)

Ⅱ．福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの運用

1. 事業概要

(1) 事業の目的

当協会では、2009年（平成21年）度、厚生労働省から開発費の補助を受けて、障害者や介護者の生の声と福祉用具の開発者や研究者を結ぶ「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム（以下、本システム）」を開発し、運用しているところである。

(<https://www7.techno-aids.or.jp/>)

本システムは、障害のある方や介助されている方等から、よりよい福祉用具を作るためのご意見やご要望、日常のお困り事などの情報を収集し、メーカーや研究者へ橋渡しするためのものである。

本年度も、本システムを運用することにより、福祉用具のニーズと技術シーズの適切な情報連携とその促進を図ることとし、システムのデザインを一新することとした。

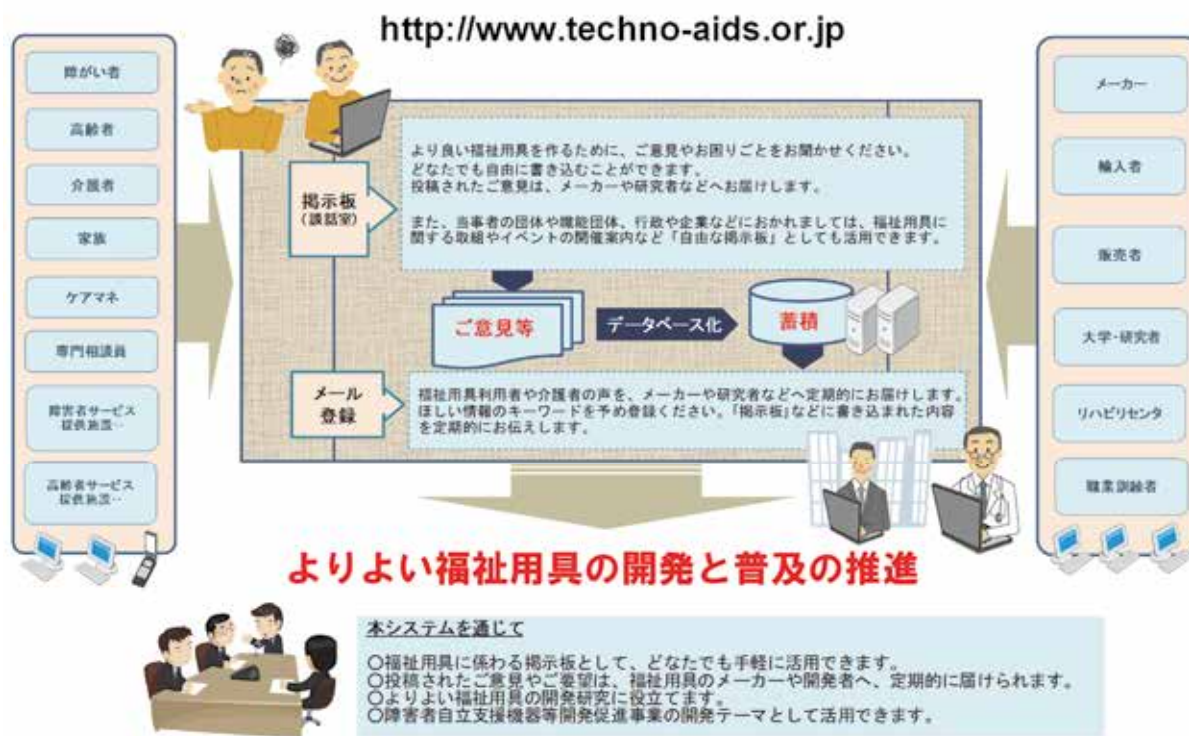
また、ニーズ・シーズマッチング交流会において本システムの周知を行い、ニーズ及びシーズの収集に努めた。

検討経過及びシステム概要

年度	主な事項
平成21年度	○「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」の開発
平成22年度	○福祉用具有識者会議の設置（本システムの活用方策を検討）
平成23年度	○福祉用具有識者会議による検討 ・これまでに寄せられたご意見等の整理、分類の体系化 ・本システムの一部改良 ・本システムの課題と今後の方向性についての取り纏め
平成24年度	○「生活便利用具（自助具）情報提供システム」の開発を検討 ○本システムの改良（「ご意見」と「掲示板」の統合）
平成25年度	○「生活便利用具（自助具）情報提供システム」の運用を開始 ○団体等の協力を得て、家族会等の場においてニーズ収集
平成26年度	○「生活便利用具（自助具）情報提供システム」の改良 （管理機能の拡充） ○シーズ・ニーズマッチング交流会にてニーズ収集
平成27年度	○本システムの大幅改修 ・操作及び利便性の向上、デザインの変更 ・スマートフォンからのニーズ投稿を可能とするシステム改修
平成28年度	○シーズ・ニーズマッチング交流会と連携し、障害当事者団体の協力により作成したニーズ集の内容を本システムに掲載
平成29年度	○シーズ・ニーズマッチング交流会と連携し、障害当事者団体の協力により作成したニーズ集の内容を本システムに掲載

年度	主な事項
平成30年度	○シーズ・ニーズマッチング交流会と連携し、障害当事者団体の協力により作成したニーズ集の内容を本システムに掲載 ○「生活便利用具(自助具)情報提供システム」の改良 (メール配信機能の追加等)
令和元年度	○時代のニーズに即した本システムの在り方に関する検討 (投稿状況のビジュアル表示、メール配信機能の追加等)
令和2年度	○シーズ・ニーズマッチング交流会等のイベントにて、本システムを周知
令和3年度	○本システムの一部改良 ・年度末集計ツールの作成 ・既存データ及びマスターの追加 ・操作ガイドの改訂
令和4年度	○ニーズ・シーズマッチング交流会等のイベントにて、本システムを周知
令和5年度	○システムのデザインを一新
令和6年度	○ニーズ・シーズマッチング交流会等のイベントにて、本システムを周知
令和7年度	○ニーズ・シーズマッチング交流会等のイベントにて、本システムを周知

福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの概要



(2) 主な実施内容

本システムに寄せられたご意見等の分類・整理、体系化を実施

(3) ニーズの収集状況

障害者のニーズを踏まえた福祉用具の開発・普及を推進するため、平成22年度から運用している本システムにこれまで寄せられた、「要望・アイデア・課題」、「新製品や技術」、「お知らせ」の3項目について、直近5年間の累計投稿件数は以下のとおりである。

令和7年度は、前年から26件増加し、1074件の投稿件数となった。

○累計投稿件数（直近5年間）※令和8年2月27日現在

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
累計 投稿件数	932件	960件	1009件	1048件	1074件

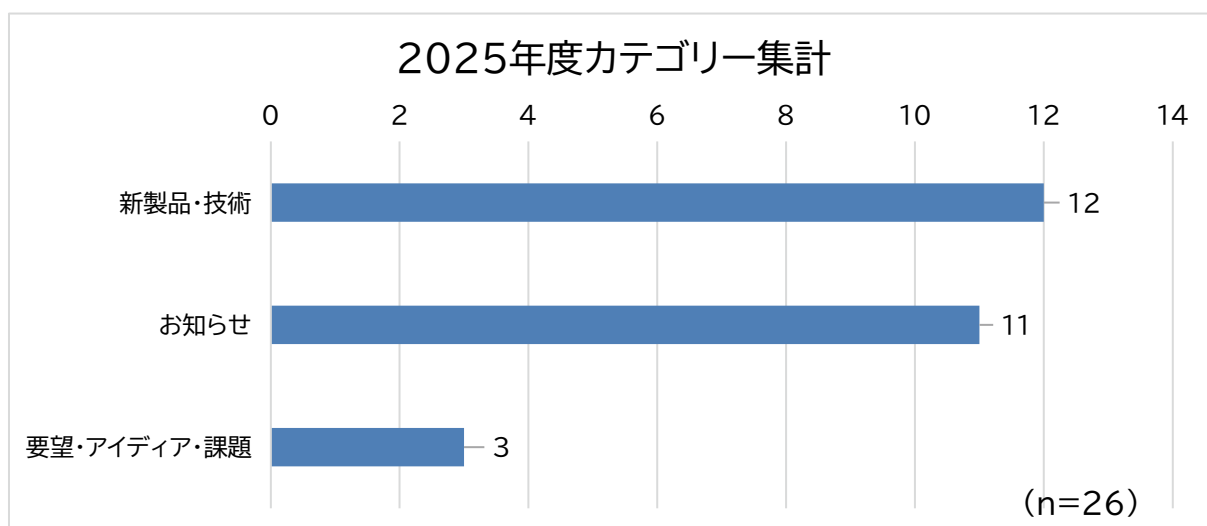
○投稿カテゴリの内訳（直近5年間）※令和8年2月27日現在

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
要望 アイデア 課題	7	7	9	4	3
新製品 技術	12	5	13	4	12
お知らせ	28	16	27	31	11
総計	47件	28件	49件	39件	26件

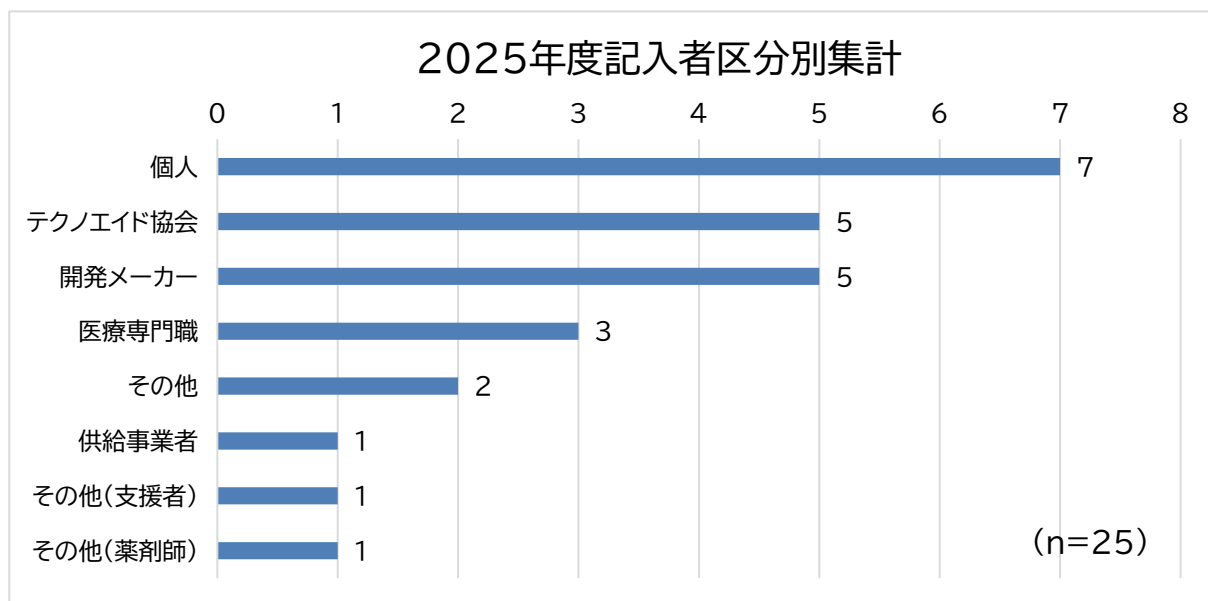
(4) ニーズの集計・傾向

以下、集計した結果をカテゴリ別、投稿者別、利用対象者別、キーワード別にグラフ化したもの記す。

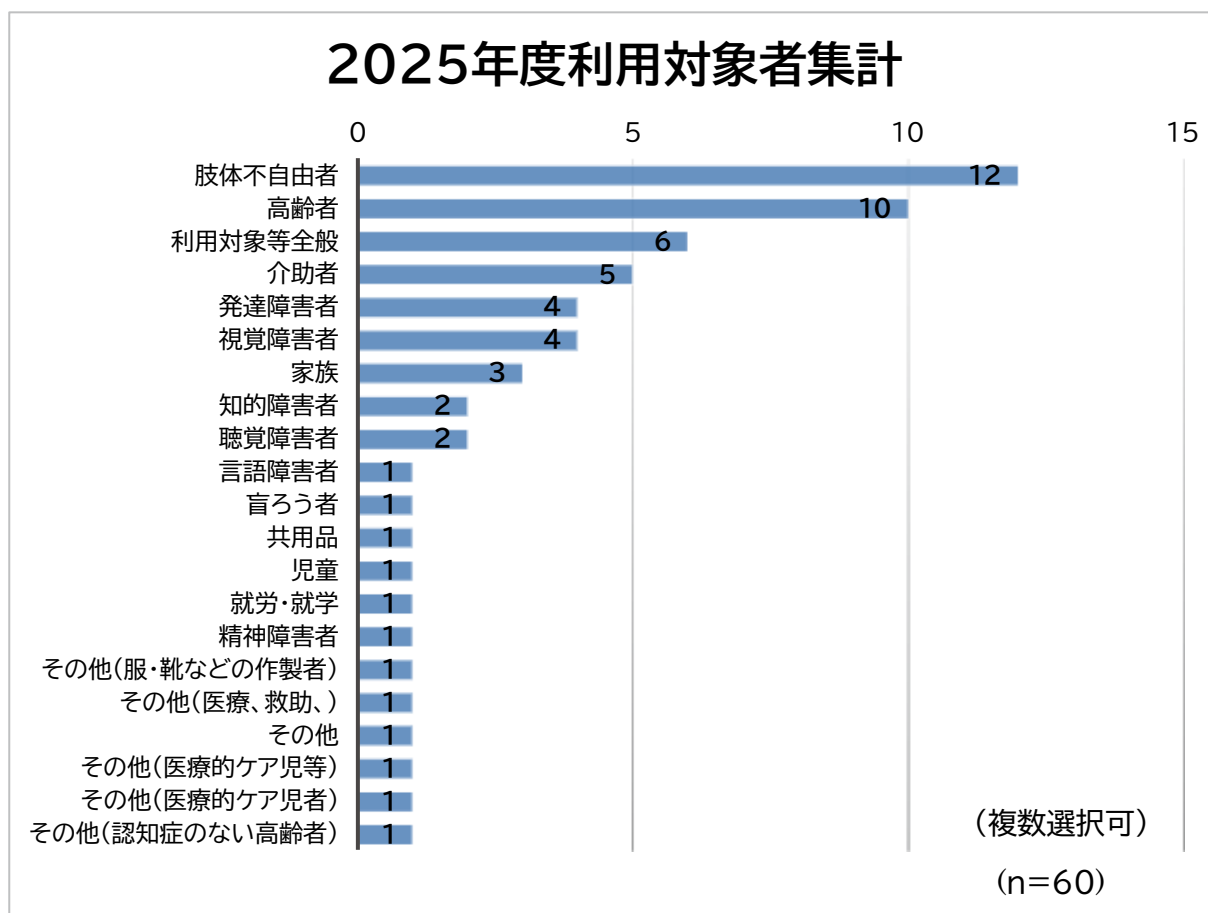
○カテゴリ内訳



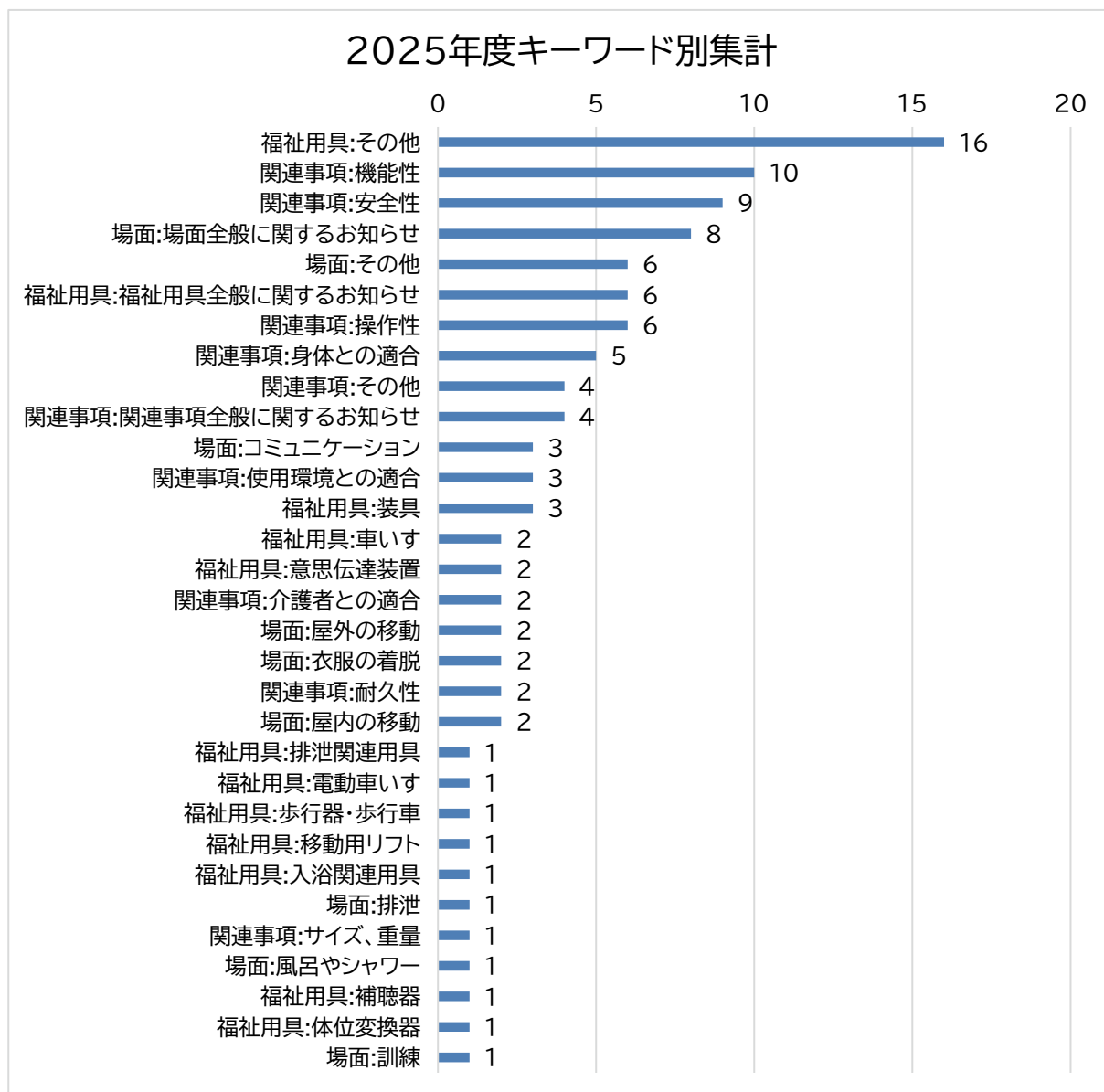
○投稿者別投稿内訳



○利用対象者別投稿内訳



○キーワード別投稿内訳



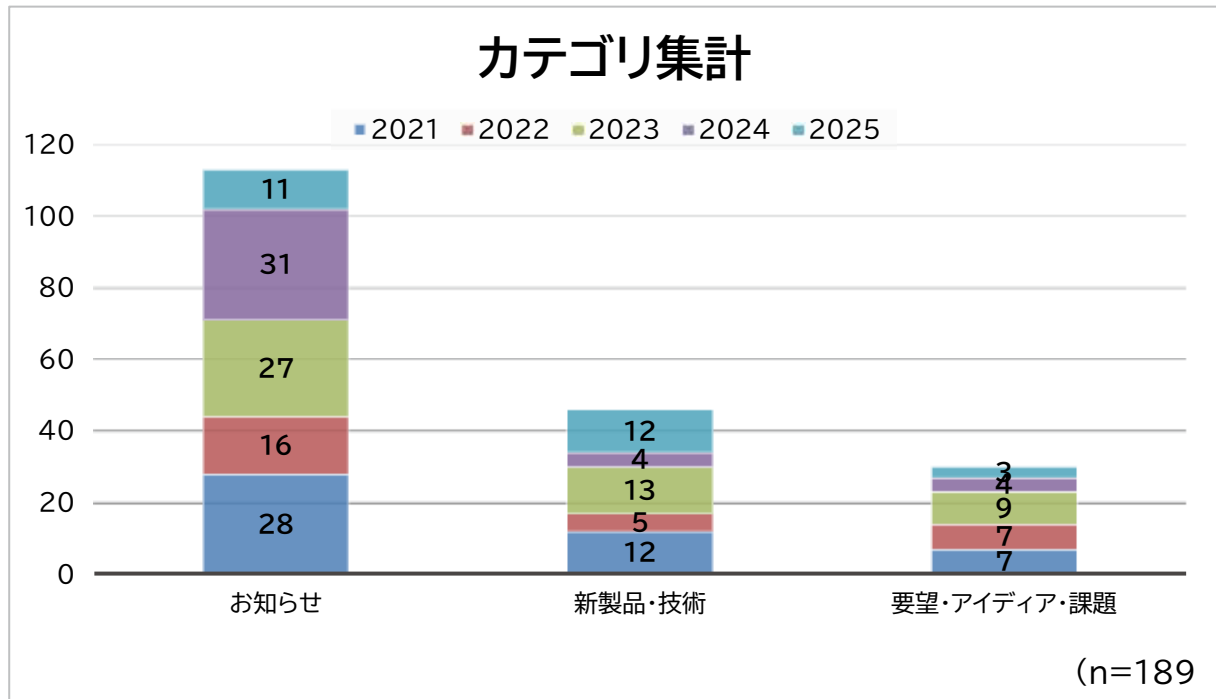
(5) 主な投稿内容について（令和7年度の新規投稿）

今年度の主な「要望・アイデア・課題」の投稿内容については以下のとおりである。

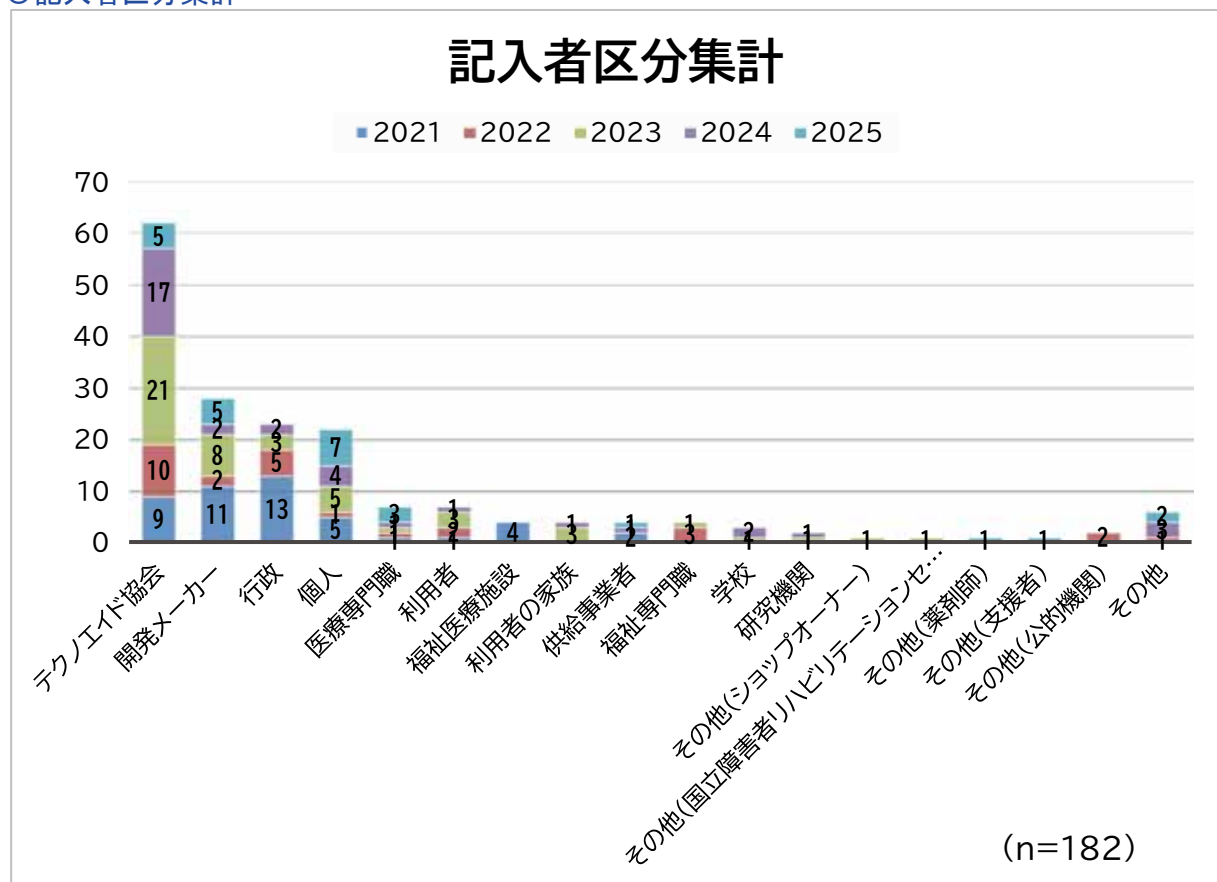
キーワード	名称・機能	内容
操作性 タブレット アプリ	音声操作 文字変換	障がい者の方から出た「欲しい機能・サービス」のアイデア3つと実現可能性について 1. 音声でタブレット操作（「もっと右」「クリック」など） → 全アプリに対して音声でマウス操作のような入力ができる仕組み。 2. ゲーム・アプリ内の漢字をひらがな表記に変換する機能 → タブレット・スマホに組み込み、どのアプリでも対応できるように。 3. スマホで動かせる台（棚・ごみ箱・扇風機などを載せて移動） → 車いすユーザーが部屋の中のものをスマホ操作で動かせると便利。 これらが近い将来できるのか、技術的に難しいのか、既存の商品があるかについて情報がほしい。
ライフライン 発電 電源供給	災害時時の機器	近年、首都直下地震では1週間分の備えが必要と言われるなど、ライフライン復旧までの電力確保の重要性を強く感じています。 しかし、集合住宅に住んでおり、ベランダでは消防法の関係でカセットガス発電機が使えません。西向きのため太陽光発電も十分に期待できず、3階なので車からの給電も難しい状況です。 このような環境でも、在宅避難や避難所避難の際に、室内で安全に発電できる方法や技術があれば教えていただきたいです。
ユニバーサル デザイン	衣服	日常着として着やすい小袖・細帯を現代生活に適応させて普及させることが、着物文化と産地・職人技術の持続につながると考えています。 簡素な構造で着装が容易なため、持続可能性やユニバーサルデザインの観点からも価値があり、日常需要の拡大が産業基盤の安定と文化継承に寄与すると期待しています。

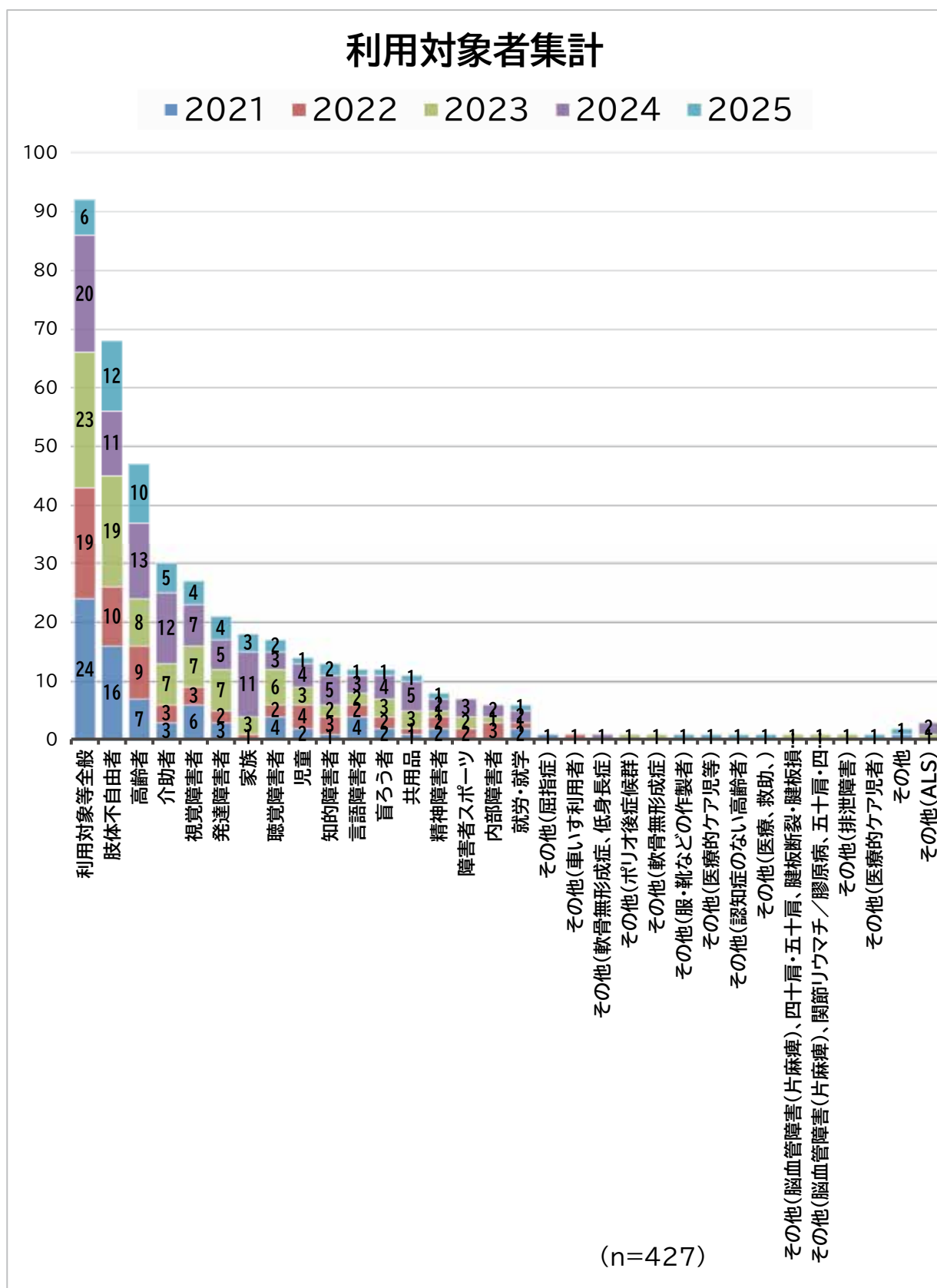
2. 別添資料

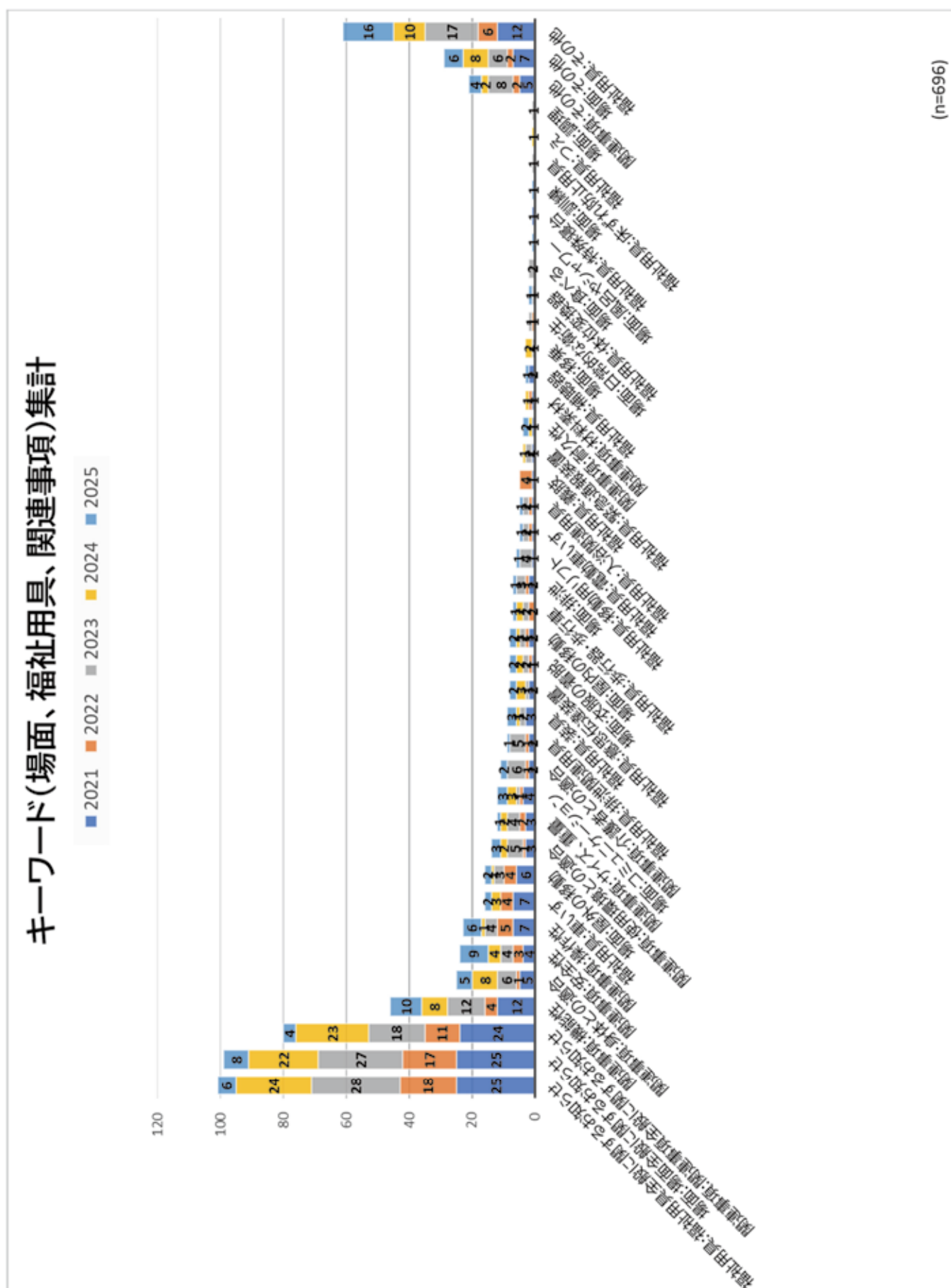
(1) 過去5年間に於ける福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの投稿状況
○カテゴリ集計



○記入者区分集計







投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1116	2025	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	その他(福祉用具) 服、靴など 福祉用具全般に関するお知らせ	その他(支援者)	加齢・障害などに配慮したおしゃべりな衣服・靴などに関するウェブサイトの公開	肢体不自由者 視覚障害者 知的障害者 精神障害者 発達障害者 盲ろう者 高齢者 児童 家族 介護者 就労・就学 共用品 その他(服・靴などの作製等) 利用対象者全般	国立障害者リハビリテーションセンター研究所顧問の小野です。 以前、ご紹介した「ファッションのインクルーシブデザインシンポジウム」(11/9 午後)と同様、カシオ科学振興財団の補助金を用いて、ファッションのインクルーシブデザインの情報提供を目指したサイトを作成しました。 ファッションのインクルーシブデザインを目指した情報共有サイトやさしいファッション https://yasashii-fashion.jp/ 内容は以下です。 1. 衣服・靴等の工夫・実例および相談できる、購入できる所の検索 2. 衣服制作者・メーカー(お直しサービス)、衣服に困ったことがある当事者・ご家族、衣服制作者・メーカー・研究者、医療・福祉関係者、公益財団法人、メディアのインタビュー記事や寄稿文 3. その他、イベントや様々な活動や取組(金城学院、筑波技術大学、国リハコレクション)、ハンフレッツ なお、「ファッションのインクルーシブデザインシンポジウム」の講演概要と、シンポジウム参加者へのアンケート結果は、以下に掲載されています。 https://yasashii-fashion.jp/past-events/event20241109 掲載した方が良さそうな情報などアドバイスありましたら、以下のお問合せフォームからご教示いただけると幸いです。 https://yasashii-fashion.jp/contact 適宜、情報を追加・更新したいと考えています。 2025.4.4
1118	2025	新製品・技術	訓練	その他(福祉用具) リハビリ	開発メーカー	麻痺障害者の疼痛改善のための他動運動装置	肢体不自由者 高齢者	麻痺などにより自身では運動できない方のための他動運動装置です。 麻痺などによる不動・低運動が長期継続することで、疼痛、痙攣、足の冷え、皮膚の脆弱化、排便困難などの麻痺症候群が起こりますが、改善方法はある程度の運動をおこなうのが唯一の対処方法です。 弊社で開発中の他動運動装置は、モーターの動力とシンフルな構造の装置によって、足指と膝、股関節の回旋運動を、その方の体格や関節の拘縮具合に自由に角度を調整し、非常にゆっくりと他動運動をすることができます。 開発者である代表自身が経験値により疼痛や冷えなどに悩み、その改善のために装置を開発し16年間使用を続けております。その結果、疼痛と痙攣は8割以上が消失し、足の冷え、脆弱化した皮膚などが改善しております。 今後、モニターによる効果の検証と装置の軽量・コンパクト化を目指し、ご協力いただける当事者様と企業様を探しております。 ご試問などお気軽にお問い合わせください。 よろしくお願ひします。 装置紹介ホームページ https://debora-guruguru.mystrikingly.com/
1119	2025	新製品・技術	屋外の移動	車いす	個人	災害時の車椅子避難用具(用心棒)	肢体不自由者 高齢者	災害時に車椅子で迅速に避難するための用具を考案しました。 「用心棒」と称します。 これは、YouTube https://youtube.com/OW90tasuM にupし、また、朝日新聞宮城県版にも取り上げていただいたところ です。 この用具が、今後危惧されている南海トラフなどの大地震・大津波の際の高齢者・障害者の避難・救命に役立てばと、願っております。 どなたでもご自由に製作され、あるいは販売され、家庭はもとより、病院、介護施設、老人ホーム、防災センター、避難所等に広く行き渡っていくことを願っています。
1120	2025	新製品・技術	その他(場面)前震ベッド	その他(福祉用具) 前震ベッド	供給事業者	前震ベッド兼シェルター [MAMORU No.3] 三佳テック(株)	肢体不自由者 高齢者 利用対象者 全般	★地震から、命を守ります。!! ＜品名＞ MAMORU No.3 ★住宅・事務所・その他【組立式】 リーズナブルな価格の商品開発いたしました。・ ★【一式式】も製作できます。 (工場・作業場でもご利用できます。) 『圧縮試験』耐圧荷重1.4ton 公共技術総合センターにて、試験済み(下記に成績表あり。 【製造元】三佳テック(株) ミヨジテック(カ) ★『前震補助金代価値引き』ご利用いただけます。 MAMORU No.3 詳細は https://miyoshi-tec.co.jp/bed/ からご確認ください。

投稿No.	年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1121	2025	新製品・技術	コミュニケーション	その他(福祉用具) コミュニケーション	テクノエイド協	『講話クラブ』 (旧・講話トレーニングアプリ)がリリースされました	聴覚障害者	テクノエイド協会より代理で投稿いたします。 『講話クラブ』(旧・講話トレーニングアプリ)は、講話(相手の口の動きから発話内容を理解する)の力を身につけるためのトレーニングアプリです。App Storeにてリリースがされました。 無料でご利用できるのでご利用ください。 以下のURLよりアプリのダウンロードが可能となっております。 https://sites.google.com/view/dokuwaclub/ ※現バージョンはiPadのみ対応となっております。 【開発者】 神奈川県工科大学情報学部情報工学科 画像情報処理システム研究室
1122	2025	新製品・技術	風呂やシャワー	入浴関連用具	テクノエイド協	入浴者と入浴介護する人が笑顔で入浴できる入浴補助器の提案	肢体不自由者 高齢者 家族	以下、代理投稿になります。 【開発の経緯】 介護士や介護を受けている方の声をもとに、安全で負担の少ない入浴を実現するために開発しました。 ・アーム式入浴補助器 ・簡易版入浴補助器 ・浴形の入浴風呂(移動式) ・介護士の声 ・体を持ち上げる作業が大変 ・腰が痛くなる ・利用者が吊り上げ式を怖がる ・湯の深さを調整しにくい ・会話しやすい入浴補助器が欲しい ・介護を受ける方の声 ・家族と一緒に温泉などに入りたい ・家庭でも簡単に使える装置が欲しい 【開発のポイント】 ・安全第一、国立大学医学博士及び大学コーディネーター等からも助言を受ける ・電気を使わず、手動で簡単に使える ・高齢者や車椅子の方でも扱いやすい構造 ・介護者の負担を最小限に 【開発状況】 ・特許3件申請中 ・動作確認済みの試作機あり(宮崎市の飲食所で見学可能) ・既存の浴槽に取り付けられる新モデルも設計中 ・移動式入浴装置も開発済み(ベッド入浴槽の移動可) 【現在の課題】 試作機は出来上がっているが、商品化していただけるパートナー企業様を募集しています。 本件につきましてはテクノエイド協会までご連絡ください。 公益財団法人テクノエイド協会 企画部 shogai-kik2@techno-aids.or.jp
1123	2025	新製品・技術	その他(場面)	その他(福祉用具)	開発メーカー	【前震シエルトア】 品名>『ミニキューブ・シエルトア No1』	その他	くサイズ/mm 鋼材製800×1000×800H。 【公益技術総合センター】にて、『仕組記録』前仕向重1.4TON 証明済。 されています。 総重量:約73Kg ◎ベッドの一部、上半身保護としてご利用、 地震の場合シエルトア内に避難。 ◎避難は、机として、テレビ台などとしてもご利用。 ◎お一人に1個あるいは、1部屋に1個設置していただけます。 ◎カラーも数種類ございます。 ◎価格もリーズナブルでご提供できます。

投稿No.	年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1124	2025	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	自立支援機器を活用する就労支援プロジェクトの実施について（公報）	利用対象等全般	テクノエイド協会では令和7年度、新しい事業を実施します。事業は、一般就労における障害者の支援機器利活用の重要性を普及啓発し、製造事業者にはニーズを踏まえた支援機器の開発・改良を支援することといたします。実施を希望する評価チームを募集しています。詳しくは当協会のサイトをご覧ください https://www.techno-aids.or.jp/shuro_support2025.shtml
1125	2025	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	ハミング・オアシス2025開催のお知らせ！ 2025開催のお知らせ！ ぜひ出席者の募集！	その他（医療的ケア児等）	代理にて投稿いたします。 ハミング・オアシス2025とは？ スペシャルキッズとその家族がより楽しく豊かな日々を過ごせるように、「モノ」や「コト」を紹介・体験できるイベント。 ・気軽に参加し、楽しみながら争べる1日を提供 ・スポーツ、遊び、学び（ゼミナール）、交流など幅広い内容を用意 ・家族、支援者、企業、学生、地域のみなさんとのつながりの場 ・明日から役立つ情報や支援アイテムを紹介し、他の支援者にも共有可能な内容に 開催日：2025年8月23日（土）24日（日）午前10～16時（予定） 場所：東和薬品RAC TABルーム（大阪府門真市ミツ島3丁目7-16） 参加対象：スペシャルキッズ（病気や障害がある子ども）と家族、支援者、学生、その他 主催：一般社団法人スペシャルキッズサポート振興協会「ハミング・オアシス2025実行委員会」 協力：一般社団法人mina family、大阪医療的ケア局・若支援ネットワークWA！わっしょい 愛ボッチャ協会、一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク他 後援（申請予定）：大阪府、大阪小児科医会 公益社団法人大阪府理学療法士会、一般社団法人大阪府作業療法士会他 同時開催：医療的ケア児・者をささえるモノとヒト展（主催：大阪医療的ケア児・者支援ネットワークWA！わっしょい） 問い合わせ先：一般社団法人スペシャルキッズサポート振興協会 「ハミング・オアシス2025実行委員会」 担当：オカサキ、ボンダ、カワモト 出展については、申込締切 2025 年7月21 日（月）まで ※現在在はメールでご連絡下さい okazaki@spkids.or.jp 【過去の開催実績】 （第一回）ハミング・オアシス2019・開催日：2019 年3 月31 日（土） ・出展企業：48 社・来場者数：1200 名 ※ハミング・オアシス2025 は、来場者数1500 名以上を目指しています。
1126	2025	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	【出展者募集開始のお知らせ】障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッティング交流会2025	利用対象等全般	ニーズ・シーズマッティング交流会2025を開催します。 本交流会では、障害当事者等のニーズを的確に捉えた支援機器開発となるよう、ニーズ（使う人）とシーズ（作る人）の交流を深める取り組みを行うものです。 交流会では障害者のための自立支援機器の展示、デモンストレーション、意見交換を実施します。また、併催イベントとして、各種セミナーも実施します。 詳細は下記ホームページより随時情報を掲載していきますのでご確認ください。 【交流会開催日程】来場料無料 入退自由 ・Web開催 令和7年10月1日（水）～令和8年1月31日（土） テクノエイド協会・IP内Web交流プラットフォーム ・東京会場 令和7年12月18日（木）～20日（土） 東京都立産業貿易センター浜松町館3階 Oニーズ・シーズマッティング交流会2025専用サイト https://www.techno-aids.or.jp/2025koruyukai/web/hall/cms/ O出展者の募集【7月4日（金）16:00まで】出展費用無料 出展要項 https://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/file07/syuttenyoukou2025.pdf 下記、よりお申し込みください。 https://www1.techno-aids.or.jp/robot/maker/index.php?fmcd=84 参考）ニーズ・シーズマッティング交流会2024記録動画 https://youtube.com/BRMYUFT1Uc

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1127	2025	新製品・技術	コミュニケーション	意思伝達装置	医療専門職	片手で握って使える ジョイスティックマ ウス	肢体不自由者	本製品は片手で握って使えるジョイスティックマウスです。机や台がなくても、ジョイスティックと、左クリック、右クリックでPCやタブレットを操作できます。また、外部スイッチなどをモノラルジャックに接続すれば、ポタシカがスペースキーとして認識されます。その際は、モード切替ボタン（右クリック）を2秒間押し、モードを切り替えてください。モードを切り替えると、ジョイスティックは矢印キーとして、左クリックはエンターキー、右クリックはスペースキー入力に変わります。普通のマウスに戻すには、また、右ボタンを2秒間押ししてください。 〈販売ページ〉 https://www.amazon.co.jp/db/BOFF266TF7 〈ホームページ〉 https://plainstudio.org
1128	2025	新製品・技術	コミュニケーション	補聴器 意思伝達装置	開発メーカー	難聴者の会話支援サービス 「Chattee」のご案内 （初回30分無料 キャンペーン中）	聴覚障害者	突然のご連絡失礼いたします。 御協会の活動をWebで拝見し、大変共感致しました。 私も難聴の家族との会話に困った経験から、 難聴者様とご家族様向けに「Chattee（チャティー）」という 会話支援サービスを今月1日に開始いたしました。 PC・iPad・iPhoneで音声を入力タイムに文字起こしし、会話を支援いたします。 現在、初回ログインの方には合計30分間、 文字起こし機能を無料でご体験いただけます。 よろしければ一度Chatteeをお試しいただき、 ご参考までにご覧いただけますと幸いです。 （もしお知り合いの難聴の方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけると大変ありがたい存じます） ▼Chatteeランディングページ https://chattee-ai.com/landing.html ご多忙中とは存じますが、何卒よろしくお願ひいたします。 ----- クリアウォーター・パートナー 代表 兼 Chattee開発責任者 吉田 将人（よしだ まさと） E-mail: myoshida@clearwater-inc.com Chattee: https://chattee-ai.com/landing.html HP: https://clearwater-inc.com TEL: 050-6867-1937 -----
1129	2025	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関 するお知らせ	個人	国立障害者リハビリ テーションセンタ ーリハ直木寮 研究所 一般公開のご案内	利用対象等全般	国立障害者リハビリテーションセンター（埼玉県所沢市）の年に一度の一般の方向けのイベントです。 ご関心ありましたら、以下、ご覧ください。 10月4日（土） 19:00-16:00 リハ直木寮 詳細 https://www.rehab.go.jp/rehanamikisai/ 国リハコレクション、ニーズ&アイデアフォーラムの紹介を本館ロビーでしています。 私は、主にニーズ&アイデアフォーラム（パンフレットでは文字数の関係で、「自立支援機器のアイデア」）とあります。今までの作品紹介ポスター（60枚程）と国リハにある作品を展示します。 研究所一般公開 詳細 https://www.rehab.go.jp/ri/event/openhouse/2025-openhouse/ 展示内容が上記URLに紹介されています。 【補足】 国リハコレクション 看護師が中心となって、障害のある人のニーズを解決するアイデア（服、靴などの試作品を12月の障害者週間に展示説明）を紹介する とともに、ご覧になった当事者や関係者の意見を伺い、アイデアを壁新聞にしています。 参考：国リハコレクションの紹介 https://x.gd/Z6cm 看護師のアイデア 事例集 https://yasashi-fashion.jp/case-studies ニーズ&アイデアフォーラム 国リハコレクション、工学系の学生が協働して、障害当事者のニーズを解決するアイデアを形にして見せる展示・発表会（今年は、12月21日（日）国際ファッションセンタービル、KFCホール ANNEX 東京都墨田区） 参考 https://www.rehab.go.jp/ri/event/NIF/ http://n-i-j.jp/ NIFのサーバーが海外からの不正アクセスのため、現在一時停止中

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1130	2025	お知らせ	衣服の着脱	その他(福祉用具) 衣料	個人	ファッション関連3件 視覚障害者ファッション 金城学院大 学ファッション工房 ファッション ショー、他	肢体不自由者 視覚障害者 発 達障害者 介助 者	国立障害者リハビリテーションセンター 研究新顧問の小野です ファッション関連3件のご案内です。 1. 視覚障害者向け総合イベント サイトワールド2025 https://www.sight-world.com/ 2025年10月15日～18日 18日の午後のイベントで、視覚障害とファッションを課題に筑波技術大学が行います。 昨年、初めて試み、その報告は以下の佐々木健さん(筑波技術大学) ※参考 https://yasashi-fashion.jp/initiatives 昨年、開催後に複数のご意見を伺い、それらを参考に今年は、「視覚障害者の絵画の対話的鑑賞」の方式を今回のファッションイ ベントにアレンジして実施します。 方式は、近年、「対話」が重視されている教育現場において佐々木先生が大学教員時代に教育実践していた「オープンダイアログ 的手法」を用います。他に触察できるモノを展示予定です。 なお、午前中に、他の団体が、ファッション関連のセミナーをやるようです。 2. 金城学院大学ファッション工房ファッションショー 10月25日(土) 金城学院大学の学園祭(名古屋市)にて 金城学院大学ファッション工房がファッションショーを開催します。(ポスター添付) 参考 https://www.kinjo-u.ac.jp/about/facility/f-kobo/ 3. 東京都主催 9月11日～10月31日 一次審査通過作品の一般投票(オンライン) Fashion Designer of Tokyo (NFDI) 2026を行ってします。 その一部にインクルーシブデザイン部門があります。 NFDI 詳細HP https://nfdimetrotokyo.jp/ NFDI 2026一次審査通過者発表 作品紹介 https://nfdimetrotokyo.jp/primary-selection2026.inclusive/ 現在、一次審査通過作品の一般投票を、公式インスタグラムで受付に行っています。 どなたでも投票でき、複数作品への投票も可能です。 ご関心あれば、以下をご覧ください。 公式インスタグラムで受付(各デザイン画に「いいね!」をクリック) Next Fashion Designer of Tokyo 2026: https://www.instagram.com/nfdt_tokyo/ ※インクルーシブデザイン部門を含む 別件で以下もあります。 Sustainable Fashion Design Award 2026: https://www.instagram.com/sfda_kimono_wagara/ ご参考まで。
1131	2025	新製品・技術	屋内の移動	歩行器・歩行車 移 動用リフトその他 (福祉用具)車椅子 子、ベッド、スト レッチャー、	開発メーカー	スマートキヤスター とスマートキヤス ター車椅子	高齢者 介助者 その他(医療、 救助、)	①スマートキヤスター: 巡回自在キヤスターの車輪ロック操作が手動式。(他社有り) 以後の機能は世界でも本機だけです。①走行中レバーを離せば車輪がロック ②小指1本の力で操作可能 ③坂停止状態でレバーを握って も坂下方向発進しない。特許は世界47か国取得済み ④用途: 医療・介護・その他キヤスター付き製品 ②スマートキヤスター車椅子: 床に座った人を抑える車椅子。 ③体重100kg超の方でも、力の無い女性一人でも、簡単に座面に抱え上げ、座面が上昇し、車椅子になります。 ▲現介護の状況 ①介護者一人の場合、知識、技術、経験が必須。②救護時バランスを崩すと、二次災害で怪我をする事もある為、一 般的には地味な呼び3人以上で救護をしている。 ホームページ内 HP: http://musuke.net/ 動画をご覧いただけば、簡単にご理解いただけます。

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1132	2025	新製品・技術	その他(場面) 日常使用	装具 その他(福祉用具) メガネ	開発メーカー	かけたまま横になれ る“やさしい”めが ね『優眠(ゆうみ ん)』	肢体不自由者 視覚障害者 高 齢者	■概要 眼鏡フレームは基本的には「硬い金属」や「プラスチック」で出来たものである為、歪んだり、折れてしまうと危険性があり、その結果、転倒・怪我などの要因になり得ますので、要介護者・介護従事者の方々が安心して使用できるものではありません。 その現状を踏まえて、弊社では要介護者・介護従事者の方でも安全かつ快適に使用できる眼鏡フレームを開発いたしました。 ■製品概要 『優眠(ゆうみん)』は要介護者・介護従事者の方々が使用する事を想定し、 ・布留で構になっても使用できる ・顔、頭部にしっかりフィットし、安全に使用できる（内側の凸部を極力なくし、顔への負担を大幅に軽減） ・力が加わっても歪まず、壊れにくい構造 をコンセプトに開発しております。 ■機能・特徴 『優眠』は安全性を考慮し、内側（顔側）への出っ張り(凸部)がないメガネフレームとなっております。 ソルの部分は柔らかく薄い素材を使用し、耳掛け部分もシリコンで出来ておりますので、寝ながら掛けていても痛みを感じないように設計・材料選定されております。 ■優眠』のヘッドバンドはオス・メスの無い、特殊なマジックテープ®を使用しており、このマジックテープ®を使用することにより、最さの調整や装着時の付け外し等を容易に行うことができます。 ご本人が使用する際は勿論のこと、要介護者に対して介護従事者が眼鏡をかけ外しができるようになっているとなっております。 ■ご購入 メガネの専門店様にて購入できます。 ■お問い合わせ https://www.bicoh.co.jp/contact.html ■会社情報 株式会社ハセガワ・ピコー 〒133-0043 東京都江戸川区松本2-41-4

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1141	2025	新製品・技術	排泄	体位変換器 排泄用 運用具	その他(薬剤師)	垂直移動転位を用いた嚥たきり排泄ケア技術	高齢者 介助者	嚥たきり状態における排泄は、本人の尊厳や健康に深く関わるだけでなく、介護者の負担や社会的コストにも直結する重要課題である。特許第7199692号では、排泄収納パウチ開口部と肛門との間に密着構造を形成することで、排泄過程における便量問題を大幅に改善した。しかし、肛門近傍に滞留した排泄が体表に付着すると汚染が拡大し、清掃段階においても便量が増えるため、さらなる改善が求められていた。今回、特願2025-285356号により、省力かつ簡易な用具を用いて体位を垂直方向に移動させる新しい排泄支援方法を開発した。図1に示すように、排出された糞便は直ちに隔離空間へ落下するため、体表汚染を最小限に抑えられる。また、パウチ内部へのスプレー水噴射により、清掃が可能であり、介護者の負担軽減にも寄与する。本方法は運具を選ばず、リクライニングベッドにも適用でき、自然に近い排泄姿勢を再現できる点に特徴がある。特に、肛門と排便貯留部との間に落差が生じる構造は、日常のトイレ環境に近く、排泄行為の自然性と尊厳保持に資する。さらに、密着パウチ法と組み合わせることで、簡便かつ経済的な運用が可能となる。加えて、嚥下下の隔離空間を利用して外部排気装置を接続すれば、敏感で尊厳に関わる嚥部・肛門周囲に触れることなく介護できる排泄員への発展や、他の医療・介護用具、検査機器への応用展開も期待できる。本技術の核心は、体位を垂直方向に移動させることで排泄物を即時に隔離する点にある。今後はこれを基盤として、想定されるモノ・特許へと落とし込み、特許範囲の確立を図りたい。本技術の詳細については、権要保護のもとで開示し、必要に応じて先後願関係を踏まえた出願や共同出願についても相談可能である。
1142	2025	新製品・技術	屋内の移動	装置 その他(福祉用具)長時間使用可能な補強パンツ	医療専門職	大腿骨近位部骨折に対する予防策「サルコペニアや股関節に起因する筋力低下を補強するエア誘導パンツ(Pap)」	その他(認知症のない高齢者)	はじめに、二次救急病院で2018年1年間に大腿骨近位部骨折で127例入院手術の治療をおこなったが、積極的な骨折予防法について模索しエア誘導パンツ（Including Pressured air pants（以下Pap仮称））を考案するに至った。考察 転倒骨折の一つの原因として用心深さの欠如または低下が考えられ、骨折予防を目的に装着者自身で膨らませるPapを2024年特許取得（特許第7544486号）した。Pap使用の対象は、認知症がなく健康志向の強いサルコペニアや骨粗鬆症のある人達である。膨らませる方式は、一般に市販されているような電池式の血圧計の機構を採用することで普段はジャマのパンツのようにゆるく装着できるため長時間使用でも苦痛を感じることなく継続使用が可能となる。トイレなどの移動時は、エア誘導パンツPapのスイッチを入れて膨らませることで同席にハートにもスイッチを入れて転倒しないようにハートに訴えながら、用心深く転倒を予防することができる。また、仮に膨らんだ状態で転倒しても衝撃を一定量吸収しダイナミック・サポーターの役割をはたすことができる。まとめ 1. 転倒骨折予防に自分でスイッチするエア誘導パンツPapを考案。 a) ハジャマやジャージのように圧迫感なく長時間装着可能 b) ヒップにもハートにもスイッチで用心深く行動する意識づけ c) エア圧によりコルセットの原理で股関節周囲筋を補強 d) 膨らんだ状態での転倒時衝撃を一定量緩和 2. エア誘導パンツPapは、ハジャマのパンツのように日常的に圧迫感なく継続的に装着可能で転倒骨折に備えることができるエアアイテムである。ヒップにもハートにもスイッチを入れるパンツで骨折を完全に予防できるものではないが新しい予防医学として学会・行政および企業の参画を期待したい。

投稿No.	年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1147	2025	新製品・技術	屋内の移動	車いす その他(福祉用具)/清拭台具	個人	車椅子乗降の楽々清掃	高齢者 介助者 その他(車椅子利用者)	車椅子で外出 晴衣の服、車輪を裸に滑ることができる浴衣を考案しました。 本人、介助者にとつての過重を軽減できるもので、車椅子から降りることも無く、重量(2kg)で荷重(130kg)と何処にでも持運びが自由で設置可能です。
1073	2024	要望・アイデア	その他(場面)日常	装具	利用者の家族	暗押しチャック防止軽量ヘルメット	視覚障害者 知的障害者 発達障害者	お世話になります。製作頂けるのが嬉しいのですが、二十歳になる障害(視覚障害・右目失明、左目視認O01/ADHD、Tourrette症候群、強迫性障害、嚔病)のある娘がおりますが、眼を押すトゥレット症が現在出ておりわずかに眼の視力を守るためにバイク用フルフェイスヘルメットを被せてガムテープを貼る付け替から顔に手が届かないよう面定しております。しかしこれはほとんどに外を歩けないため経費で尚且つしつかりした隙間のはいヘルメットが欲しいのですが、ここまでのようなカスタム装具を作って頂けないものか探しております。
1074	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会	総務省「情報アクセシビリティ好事例2023」の公表について	利用対象等全般	誰もがデジタル活用 の利便性を享受し、豊かな人生を送ることができるとする社会の実現のためには、ICT機器・サービスの情報アクセシビリティの確保が重要であることから、総務省では、 (1)国民全般に広くアクセシビリティに配慮した製品を知っていただくこと (2)情報アクセシビリティに特に配慮している企業等やその取組を奨励すること を主な目的として、令和5年度からの新たな取組として情報アクセシビリティ好事例を募集し、審査の結果、23件の製品・サービスを「情報アクセシビリティ好事例2023」として公表することとしました。 詳細は下記の総務省のホームページをご覧ください。 https://www.soumu.go.jp/menu/news/s-news/01ryutsu05_02000162.html
1075	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会	NEDO 2024年度「SBIR推進プログラム」(「一気通貫型」)に係る公募開始のお知らせ	利用対象等全般	■SBIR概要 本事業は、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律の規定により定められた、指定補助金等の交付等に関する指針に基づき、多様化する社会課題の解決に貢献する研究開発型スタートアップ等の研究開発の促進及び成果の円滑な社会実装を目的として、内閣府が司令塔となって、各行横断的に実施する「日本版SBIR (Small/Startup Business Innovation Research) 制度」の一翼を担うものです。 本公募では、「一気通貫型」の研究開発課題のフェーズ1 (POC、FS)、フェーズ2 (実用化研究開発) の公募となります。 ■公募期間 2024年4月30日 (火) から2024年5月31日 (金) 正午まで ■説明会 5月13日(月)13:30~15:00 (申込要) ■詳細は以下のNEDOのホームページからご確認ください。 https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100458.html 【お問い合わせ先】 NEDO SBIR推進プログラム事務局 イノベーション推進部 プラットフォームグループ sbir_pfg@nedo.go.jp
1076	2024	お知らせ	その他(場面)	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会	障害者自立支援機器 ニーズ・シリーズマッチング交流会2024 出展者募集開始のお知らせ	利用対象等全般	ニーズ・シリーズマッチング交流会2024を開催します。 本交流会では、障害当事者等のニーズを的確に捉えた支援機器開発となるよう、ニーズ(作る人)とシーズ(使う人)との交流を深める取り組みを行うものです。 交流会では障害者のための自立支援機器の展示、デモンストレーション、意見交換を実施します。また、併催イベントとして、各種セミナーも実施します。 詳細は下記ホームページより随時情報を掲載してまいりますのでご確認ください。 【交流会開催日程】来場料無料 入退出自由 ・Web開催 令和6年10月 1日 (火) ~令和6年1月31日 (金) テクノエイド協会IP内Web交流プラットフォーム ・大阪会場 令和6年11月 25日 (月) ~27日 (水) OMM ・東京会場 令和6年12月 10日 (火) ~12日 (木) 東京都立産業貿易センター浜松町館 Oニーズ・シリーズマッチング交流会2024専用サイト https://www.techno-aid.or.jp/2024koryukai/web/hall/cms/#tab40_detail O出展者の募集【7月5日(木)16:00まで】出展料無料 出展要項 https://www.techno-aid.or.jp/needsmatch/file06/syuttenyoukou2024.pdf 下記、よりお申し込みください。 https://www1.techno-aid.or.jp/robot/maker/index.php?fnid=84 参考 ニーズ・シリーズマッチング交流会2023記録動画 https://youtu.be/JM2YyEth_74

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1077	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	その他	介護テクノロジー開発に関するセミナー（厚生労働省事業）	高齢者 家族 介助者	いつも大変お世話になっております。 NITTTデータ経営研究所「介護ロボットのニーズ・シースマッシング支援事業」事務局でございます。 厚生労働省事業「令和6年度介護ロボットのニーズ・シースマッシング支援事業」において、7月1日（月）に介護テクノロジー開発に関するセミナーを実施いたします。ぜひご参加ください。 詳細は下記をご参照いただければと存じます。 【セミナー内容】 ・タイトル：ニーズ×シースマッシングセミナー2024～現場で活用される介護テクノロジーを作り出すために～ ・日時：令和6年7月1日（月）15：00～17：00 ・プログラム（予定）： - 講演1：介護現場における生産性向上と介護テクノロジー関連の政策について（厚生労働省） - 講演2：経済産業省におけるロボット介護機器政策について（経済産業省） - 講演3：介護テクノロジーの企画・開発・販売のポイント～介護現場のニーズをふまえた製品・サービスをつくるために～（社会福祉法人善光会/株式会社善光総合研究所） - 講演4：介護テクノロジーの創りかた・使われかた（SOMPOケア株式会社） - 講演5：身守りシステム開発にかけた情報～現場ニーズに寄り添って～（株式会社利田テクノデザイン） - 講演6：ニーズ×シースマッシング支援事業 概要説明（株式会社NITTTデータ経営研究所） ・定員：先着400名 ・形式：Zoomウェビナー ・参加希望の方は以下URLからお申込みください。 申込URL： https://586f057e.form.kintoneapp.com/public/2f81d45581fc8e0ed2dbf2f0fb849ee3f44fbb34741304e3326a25f643426c0f4 【介護ロボットのニーズ・シースマッシング支援事業について】 本事業は、介護現場の真のニーズを反映したロボットの開発・普及促進を目的とし、企業への参入検討・開発・製品の普及を支援しています。 支援を希望される開発企業の皆様は、以下ホームページよりエントリーください。 https://www.mhlw.go.jp/kaisosaisansel/ns/index.html ■お問い合わせ 本事業は、株式会社NITTTデータ経営研究所が厚生労働省より委託を受け実施しております。 本件に関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。 「ニーズ・シースマッシング支援事業」事務局 株式会社NITTTデータ経営研究所 ライフ・ハビュー・クリエイティブユニット Mail: ns-plat@nitdata-strategy.com
1078	2024	新製品・技術	その他(場面)場面全般	その他(福祉用具)衣類、洋服	テクノエイド協会のための洋服製作のプロジェクトが始動	軟骨無形成症、低身長の方のための洋服製作のプロジェクト	その他(軟骨無形成症、低身長症)	事務局より入力を代行いたします。 私は軟骨無形成症（指定難病276）の子を持つ母親で、GAGO-276-という軟骨無形成症、低身長症向けの洋服製作をしております。篠万紀子と申します。この度、2回目のクラウドファンディングをどうぞ、よろしくお願いいたします。 【 軟骨無形成症という病気について 】 軟骨無形成症は2万人に1人の出生といわれ、全国に5,000～6,000人いると言われています。骨系統疾患の中では代表的な疾患で、遺伝子の変異が認められ、骨の成長に阻害する軟骨の異常による病気です。特徴としては、頭が小さく低身長（成人の女性の平均が125cm前後、男性の平均が130cm前後）、四肢や指の短縮、背骨の反り返り、大きなお尻や太い太もも、そして年齢とともに上半身と下半身のバランスの悪さがより目立ってくるということがあげられます。 【プロジェクトを立ち上げたきっかけ】 軟骨無形成症の洋服は市販の服では、ピッタリと着られるサイズはありません。市販の服を着るためには袖丈や裾丈のサイズの変更はもちろん、デザインの変更も必要となる場合があります。 【今回のプロジェクトで実現したいこと】 軟骨無形成症の特徴ある体形に合った素材のパンツ、気になる体形を緩和し、履き心地の良いパンツを製作していきます。今回は前回のパンツより速い進捗のあるカジュアルパンツにする予定です。 対象は制作費の都合上ワンサイズとなり、我が子を念のため120cm前後のパンツの予定です。 今回、実用新案にもなりました立体的なお尻のデザインが生かせることが出来ればと希冀しております。 詳しくは下記（別サイトに移行します）をご参照ください。 READYFOR https://readyfor.jp/projects/GAGO-276-CF2

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1079	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	行政	【助成金エントリー受付中】バラスポーツ関連、福祉・ユニバーサルデザイン製品の販路開拓を支援！	障害者スポーツ 介助者 共用品 利用対象等全般	公益財団法人東京都中小企業振興公社からのお知らせ 【令和6年度 障害者向け製品等の販路開拓支援事業（助成金） エントリー受付中】 バラスポーツ関連製品やコンテンツ等から、福祉・ユニバーサルデザイン製品まで、「障害者向け」等の製品やサービスの製造・販売に取り組む都内の中小企業を対象に、展示会出展や自社Webサイト制作などの費用を助成します。（助成上限額150万円・助成率2/3） 只今、エントリー受付中！ ▼詳細はこちら https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyo/shogaisha.html
1080	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	行政	【助成金エントリー受付中】アクティブシニア製品や健康・介護製品の販路開拓を支援！	利用対象等全般	公益財団法人東京都中小企業振興公社からのお知らせ 【令和6年度 高齢者向け製品・サービスの販路開拓支援事業（助成金） エントリー受付中】 アクティブシニア製品から健康・介護製品まで、「高齢者・シニア」をターゲットとした製品やサービスの製造・販売に取り組む都内の中小企業を対象に、展示会出展や自社Webサイト制作などの費用を助成します。（助成上限額150万円・助成率2/3） 只今、エントリー受付中！ ▼詳細はこちら https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyo/koureisya_hanrokaitaku.html
1081	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	令和6年度 厚生労働省自立支援機器イノベーション人材育成事業(AID-P) 事前説明会	利用対象等全般	支援機器の開発では、約50%の開発が製品発売に至りません。その要因として、支援機器の利用者のニーズ把握が不十分、開発に携わる医療福祉専門職等の事業化（ビジネス）に関する理解の不十分などが挙げられます。 本事業は、障害者の多岐にわたるニーズを的確に捉え、かつ事業化のポイントを踏まえた人材育成とを目的とした厚生労働省の事業で、昨年度に引き続きフレモパートナーが実施団体として事業（AID-Pと名称）を実施することになりました。 AID-Pでは、東京・大阪の2か所、7ヶ月間（各会場1回程度）にわたるWS等を実施し、デザイナー思考に導出したジャンル/バリエーション/エローシッププログラムの修了生等が講師となり、ワークショップ及びその後の課題に対するメンタリング等の支援を行います。障害者の支援機器開発に特化した人材を育成するプログラムです。 今年度は8月に仙台での1dayワークショップも開催予定です。 令和6年度、本プログラムに開催し、障害者の支援機器開発に熱意を持ち取り組んでくださる受講者を募集するための、事前説明会（参加費：無料）をオンラインにて開催いたします。 本事業にご興味をお持ちの方は、是非お気軽にご参加ください。 対象： ・医療福祉専門職（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士等） ・大学や研究機関に所属する研究者（医学、工学等） ・支援機器開発産業に既に参入している、又は将来的な参入を検討している研究開発、製品企画、新規事業等を担当する企業所属の方 ・ご自身が障害をお持ちで支援機器開発に取り組んでみたい方 皆様のご応募お待ちしております。 事業のホームページ： https://www.premopartners.com/aicb/ 運営：フレモパートナー株式会社

投稿No.	年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1085	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	3Dプリント自動員デザインコンテスト2024開催のお知らせ	利用対象等全般	3D プリント自動員デザインコンテスト2024 関連情報 https://www.wictrahab.com/news/688/ コンテストの紹介と説明会の動画はこちら https://vimeo.com/936538182 エントリー期間：2024年6月1日（土）～8月31日（土） 最終審査会（オンライン・非公開 結果発表）：2024年10月26日（土） 参加費：無料・複数応募可 参加資格：どなたでも（日本語でのコミュニケーション能力必須） ※応募内容や条件の詳細は応募要項参照 ・最優秀賞（1名/組予定） 副賞：3Dプリンター1台（Creality K1C予定）とフィラメント ・優秀賞（2名/組予定） 副賞：フィラメント ・学生賞（1名/組予定） 副賞：フィラメント 審査員（順不同、敬称略） ・松元義彦 鹿児島赤十字病院 専門作業療法士（福祉用具） ・はるかぜボボ（3Dプリントエンジニア） ・濱中直樹（ウェアラブル品川・ウェアラダー） ・株式会社良品計画 生活雑貨部企画デザイン課 主催：一般社団法人ICTリハビリテーション研究会 共催：ウェアラブル品川 協賛：株式会社サンステラ/日本3Dプリンター株式会社 スポンサー/テックダイヤ株式会社
1086	2024	お知らせ	その他(場面)日常生活	その他(福祉用具)衣料	個人	(9/7) Fashion for all を目指して "ファッション ショー&ワーク ショー" 一服の多様性一" 着たい服で輝く	肢体不自由者	標記のファッションショーとワークショップがあります。 参加無料ですが、事前申し込み（※8/24）が必要です。 ご関心ありましたら、以下をご覧ください。 日時：2024年9月7日（土） 13:00～16:00 展示 13:30～14:00 ファッションショー 14:10～15:20 ワークショップ（インクルーシブファッションを考える） コメントーター：田原美智子氏（NPO法人作業療法支援ネット） （前日本福祉大学、前日本福祉大学高浜専門学校作業療法学科教員、障がい者の方への衣服・道具の工夫に携わる） 会場：金城学院大学 W3棟・1F 食堂 〒463-8521 名古屋守山区大森二丁目1723番地 主催：金城学院ファッション工房 定員：60名 参加費：無料 事前申込みが必要 ※8/24 2024年8月24日（土） 申込みは以下からお願いします。 https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdR_YEMNgZZ8yt6GTWeg_F0mvFBZxOtGn2Cm7u8ayE1E3w/viewform 問合せ先：平林由果（金城学院大学生活環境学部環境デザイン学科） E-mail: hirabayashi@kjin-u.ac.jp 金城学院ファッション工房は、おしゃれをあきらめていない方に、装いを楽しくもたためるために15年間、活動を続けてきました。からだの不自由でも、ちょっとした工夫で着脱が楽になり、おしゃれを楽しむことができます。イベントでは、ファッション性と機能性を兼ね備えた装いを披露します。ワークショップでは、参加者と一緒に改良点を考えます。ワークアップでは、参加者と一緒に改良点を考えます。なお、本イベントはカシオ科学振興財団からの補助を受けて開催します。

投稿No.	年度	カテゴリ・技術	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1087	2024	新製品・技術	屋外の移動	車いす	開発メーカー	【車いす利用者用（インウェア）】正式販売開始のご案内	肢体不自由者 障害者スポーツ 高齢者 児童 家族 介護 利用者 等 全般	昨年こちらで投稿しアイデアも頂戴しました【車いす利用者向けインウェア】が無事に開発を終え、正式販売を開始しました。弊社ウェブサイトに、アマゾン、ヤフー、マクアケストアにて購入いただけます。 【ひざ掛け】【ジャケット】は別々でも、セットでもご購入できます、これまでの販売状況をみますと、ひざ掛けのご購入者が約70%を占めます。 医療・介護系法人向け（法人購入および法人から対象者様ご紹介）には、特別な割引もご提供しておりますので気軽にお問い合わせください。 新聞にも掲載されました。 https://www.tokyo-np.co.jp/article/337121 《ご購入サイト》 ▼弊社ウェブサイト https://www.carewill.co.jp/products/wheelchair-raincoat ▼アマゾン https://amzn.to/4fN5yp ▼ヤフー https://store.shopping.yahoo.co.jp/carewill/b0e1cec1c9.html ▼マクアケストア https://www.makuake.com/project/carewill3/
1089	2024	お知らせ	衣服の着脱	その他(福祉用具) 衣服	開発メーカー	展示会「体が不自由でもおしゃれを楽しもう！」のご案内	肢体不自由者 知的障害者 高齢者 児童 家族 介護者	こんにちは、studio fukuの藤瀬和子（社会福祉士・ハタンナー）です。 江東区役所前に小さな洋服スタジオを開き、車いすを利用して暮らしている方などのご要望に応じて衣服をオーダーで製作したり、オンラインショップでも販売したりしています。 9月7日から20日まで、サンハル荒川にて「体が不自由でもおしゃれを楽しもう！」と題した展示会を開催することになりました。 主催は、荒川区社会福祉協議会が運営する あらかわ地域活動サロンふらっと・フラットです。studiofukuは展示協力をいたします。 （サンハル荒川 東京都荒川区荒川1-1-1） 障害や高齢などを理由に体が動かしにくい方の服に関する情報を得られる貴重な機会ですので、ぜひお立ち寄りください。 会場は3つのコーナーに分けて展示いたします。 1 つめは「既製品のリフォーム」です。 車いすを使っている方や体の動きが不自由な方が「着やすく」「着心地よく」服を着られるよう、リフォームを施した衣服をご紹介します。 2 つめは「困りごとの解決事例」です。 studio fukuでお客様とのやり取りから生まれたオーダー事例をご紹介します。 3 つめは「試してみよう」のコーナーです。 手が不自由で市販のファスナーでは開けにくいとお悩みの方もいらっしゃいます。市販のファスナーにひと工夫することで操作しやすくなるのですが、どれがいいかはひとそれぞれ。いくつかの工夫を展示していますので、実際に試してみてください。 私が会場にいる時間帯もございします。詳しくは添付のちらしをご参照ください。 皆様のご来場をお待ちしております。

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1091	2024	お知らせ	その他(場面)屋内外移動	歩行器・歩行車 車いすその他(福祉用具)防災用品	研究機関	ぼうさい国体2024in熊本 2024in熊本に介助連搬車(手押し車)の展示・試乗会を開催	障体不自由者 視覚障害者 ろう者 高齢者 家族 介助者 利用者 対象等全般	ぼうさい国体2024in熊本で開催されます。(日本最大の防災用品展示及び発表会です) 主催：防災推進国民大会2024実行委員会(内閣府・防災推進協議会・防災国民会議) 協力：熊本県・熊本市 場 所：熊本城ホール・熊本国際交流会館・花畑広場 開催時間：19日10:00~18:00・20日10:00~5:30(予定) 参加料：無料 定 員：特にありません。 NPO法人日本防災用品技術研究協会の参加内容 展 示 場 所：屋外展示場(花畑広場)区分2、O-15です。 展 示 内 容：介助連搬車(手押し車)の展示・試乗会を開催 参加タイトル：若いもきもみんな一緒に避難 参 加 料：無料 内容は、災害弱者と暮らしますシニア・目・体の不自由な方々の避難用品の介助連搬車の展示試乗会です。従来の避難用品のリヤカー・車いす・担架等の良い所を取り入れ、また、悪い所を改善しました。利用者は介助連搬車の椅子にシートベルトを締め安心・安全に座って頂きます。また、搬送者は、動力を使用しない人力での操作ですがデモの原理で約177(70°ですと10°)の軽い力で持ち上げて搬送出来ます。 また、防災用品は日常ではあまり使用しません。ですが介助連搬車は、椅子を取り換える事により通常の二輪車としてバケット(船)に土砂を運んだり、バケットを外してコンテナ搬送と3通りに使えるフェズフリー商品です。ちなみに椅子・バケットの交換は工具を使わずに数秒で行えます。その為に日常使用していただける商品です。 写真の見た目は少々重工業ですが軽く2輪なので悪路にも対応した操作性です。 どうぞお出でいただきますようお願い申し上げます。
1092	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会	(お願い)知的に障害のある方の支援機器に係るアンケート調査について	知的障害者 精神障害者 発達障害者	公益財団法人テクノエイド協会は、厚生労働省から補助を受けて知的障害者の支援機器に係るニーズ情報の収集・提供の在り方に関する調査研究を実施しているところですが、この度、本事業の一環として、知的に障害のある方を対象にアンケート調査を実施することと致しました。 【目的】 本調査では、知的障害者の支援機器等に関するニーズとして整理分析することとし、知的障害者(「児」を含む。)が日常生活で抱える様々な困難を顕在化し、真に必要な支援機器の開発及び普及の促進を図ることを目的とします。 【対象】 知的に障害のあるご本人(ただし、代理による回答も差支ありません)。 【調査方法】 知的に障害のあるご本人又は、ご家族や施設・事業所の職員等の支援を受けながらご本人が回答ください。ただし、ご本人の回答が困難な場合には、ご本人の立場から代理で回答することも差し支えありません。 【回答方法】 可能な限りWebから行っていただきますよう、ご協力をお願いします。ただし、紙による回答も差支ありません。 ○アンケート協力のご案内 https://www.techno-aids.or.jp/dhiteki_2024.shtml ○回答ページ https://questant.jp/q/GVU20V09 【回答期限】 令和6年10月31日(木) 【本調査に関するお問い合わせ】 (1) 調査の主旨、目的に関するお問い合わせ 公益財団法人テクノエイド協会 企画部 手田川・岩田・五島 TEL 03 (3266) 6883 FAX 03 (3266) 6885 電子メール shogai-kiki@techno-aids.or.jp 〒162-0823東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階 (2) アンケートの入力に関するお問い合わせ 株式会社シード・プランニング(委託事業者) 荒川・采本 電子メール narakawa@seedplanning.co.jp 〒113-0034東京都文京区湯島3-19-11 湯島ファーストビル4階

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1093	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	その他(福祉用具) 介護ロボット、ICT 福祉用具全般に関するお知らせ	その他	令和6年度 厚生労働省「介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業」の一環として、介護現場の生産性向上の取組の取組を促進する生産性向上推進フォーラム」を開催する運びとなりました。こちらでは、企業出展を実施予定で出展いただける企業様を募集しておりますのでご案内申し上げます。 本事業の趣旨についてご理解の上、お忙しいところ、誠に恐縮でございますが、貴団体におかれましては、関係者の方々に本フォーラムの公募の周知にご協力をお願いいたしたいと思います。	高齢者 家族 介助者 利用対象等全般	この度、弊社の受託する厚生労働省「介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業」の一環として、介護現場の生産性向上の取組の取組を促進する生産性向上推進フォーラム」を開催する運びとなりました。こちらでは、企業出展を実施予定で出展いただける企業様を募集しておりますのでご案内申し上げます。 本事業の趣旨についてご理解の上、お忙しいところ、誠に恐縮でございますが、貴団体におかれましては、関係者の方々に本フォーラムの公募の周知にご協力をお願いいたしたいと思います。 【フォーラム概要】 1. 期間 2025年2月または3月 予定 ※実施例な日程は10月上旬頃に決定予定 2. 開催場所 ※実施例 東京都内のホテル・会議室等 (300人程度の会場、オンライン1,500人程度を想定) 大阪府内のホテル・会議室等 (300人程度の会場、オンライン1,500人程度を想定) 3. 対象となる機器・ソフトウェア 経済産業省と厚生労働省が策定した「介護テクノロジー利用の重点分野」の9分野16項目に該当する介護ロボット等又は介護における請求業務、記録業務、情報共有業務等を行うことができるソフトウェア等のICTとする。 機器・ソフトウェアの導入実績が10施設・事業所以上あること。 機器・ソフトウェアを導入した施設・事業所の所在地が2都道府県以上あること。 【公募要領】 1. 公募期間 2024年9月20日(金)まで ※ただし、応募状況により公募期間を予告なく変更することがあります。 2. 応募方法指定の応募フォームに必要事項を記載の上送信をお願いいたします。 URL: https://267c03de.form.kintonetapp.com/public/improvement-forum 3. 選定方法事務局で選定委員会を設置し、選定を行います。 https://drive.google.com/file/d/1VM8tBA9Btpo_uu10ssp2mB37rvmnsND/view その他の詳細につきましては、以下公募要領をご覧ください。 どうぞよろしくお願いたします。 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイション ユニット 担当: 相良、金尾、池永 TEL: 03-6261-7534 (平日10:00~17:00) ※13:00-14:00を除く E-mail: kalgoselansen-seminar@nttdata-strategy.com (所属先、お名前、連絡先、ご要件をご記載ください) ※可能な限り、メールによるお問い合わせの協力をお願い申し上げます ※IP・開催要領のFAQも事前にお確かめください
1094	2024	要望・アイディア	移乗	その他(福祉用具) コルセットコル	学校	取って付きコルセット	内部障害者 高齢者 家族 介助者	コルセットにフレキシバングベルトのような取っ手をつけることで、腰痛を予防しながら移乗介助を行えると考えています。
1095	2024	お知らせ	その他(場面)車いすの仕様	車いす	学校	生活モデルから考えられる高齢者の車いす	高齢者 家族 介助者	介護老人福祉施設入所者をはじめ、介護が必要な高齢者の多くが日常で車椅子を使用しています。本セミナーでは、生活モデルの視点から適切な車椅子使用方法について話題提供させていただきます。主なキーワードは、科学的介護、生産性向上及びWellbeingです。、などなくても無料で参加できますので、ぜひご参加ください。
1096	2024	要望・アイディア	移乗	福祉用具全般に関するお知らせ		筋トレで使用されるトレーニングベルトを介護の現場で活用	介助者	フリーウェイトトレーニングで使用されるトレーニングベルトを介護現場で活用できないかと考えております。トレーニングベルトを使用することで腹圧が高まり、体幹の安定性を高め怪我の防止や筋力発揮能力の効果を発揮します。そこで、介護業務を含む保健衛生業において、発生する業務上疾病の約8割が腰痛であり、動作別腰痛発生割合の約8割は人の移乗となっており、トレーニングベルトを施設や病院で使用できるようなデザインで作成使用と考えております。いかがでしょうか。
1097	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会の方へ)	テクノエイド協会の五島と申します。 この度は、ナスバ(自動車事故対策機構)様がいらっしゃる福祉用具に係る事業について、情報共有させていただきたく、ナスバでは、自動車事故で重度の後遺症を持った方に対して、ベッドや車いす等の購入やレンタル、修理(交換)等にかかる費用を支給する事業を実施しています。 受給は常時又は随時の介護を要するなど、一定の要件に該当する方となりますが、詳細はナスバのホームページや添付資料をご覧ください。 福祉用具に関する皆様は置かれましては、福祉用具を利用されている方で該当しそうな方にご周知いただければと思います。 ◆ナスバ(自動車事故対策機構)ホームページ(当該事業のページ) https://www.nasva.go.jp/sasaeru/shikyukingaku.html#header よろしくお願いたします。	利用対象等全般	テクノエイド協会の五島と申します。 この度は、ナスバ(自動車事故対策機構)様がいらっしゃる福祉用具に係る事業について、情報共有させていただきたく、ナスバでは、自動車事故で重度の後遺症を持った方に対して、ベッドや車いす等の購入やレンタル、修理(交換)等にかかる費用を支給する事業を実施しています。 受給は常時又は随時の介護を要するなど、一定の要件に該当する方となりますが、詳細はナスバのホームページや添付資料をご覧ください。 福祉用具に関する皆様は置かれましては、福祉用具を利用されている方で該当しそうな方にご周知いただければと思います。 ◆ナスバ(自動車事故対策機構)ホームページ(当該事業のページ) https://www.nasva.go.jp/sasaeru/shikyukingaku.html#header よろしくお願いたします。

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1098	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	個人	10/19（土）リハ並木祭、国立障害者リハビリテーションセンター研究所オープンハウス	肢体不自由者 視覚障害者 聴覚障害者 言語障害者 知的障害者 精神障害者 発達障害者 うつ病 内臓障害者 高年齢者 スポーツ障害者 児童 家族 介助者 就労・就学 共用品 利用対象者全般	国立障害者リハビリテーションセンター研究所顧問の小野です 10/19（土）に「リハ並木祭」、「研究所オープンハウス」があります 事前登録不要、参加費無料です。 施設や活動の一端がご覧になります。障害者スポーツなど体験できるものもあります に関心ありましたら、以下、ご覧ください リハ並木祭 https://www.rehab.go.jp/rehanamikisai/ 私は、ニーズ&アイデアフォーラムの過去数年の展示物の紹介ポスターや国/リハに保存している展示物（実機）を、本館1Fに並べる個所にいる予定です 文字数の関係で、パンフレットには 「自立支援機器のアイデア」と記載されています ※ニーズ&アイデアフォーラム http://n-i.jp/ 研究所オープンハウス https://www.rehab.go.jp/ri/event/openhouse/ また、具体的内容は公開されていませんが、上記をご参照ください
1099	2024	お知らせ	その他(場面)衣生活	その他(福祉用具)衣料	個人	視覚障害者とファッションのシンクレーションのデザインシンポジウム	肢体不自由者 視覚障害者 知的障害者 発達障害者 うつ病 高年齢者 児童 家族 介助者 就労・就学 共用品	視覚障害者とファッションのシンクレーションのデザインシンポジウム 10/19（土）に「リハ並木祭」、「研究所オープンハウス」があります 事前登録不要、参加費無料です。 施設や活動の一端がご覧になります。障害者スポーツなど体験できるものもあります に関心ありましたら、以下、ご覧ください リハ並木祭 https://www.rehab.go.jp/rehanamikisai/ 私は、ニーズ&アイデアフォーラムの過去数年の展示物の紹介ポスターや国/リハに保存している展示物（実機）を、本館1Fに並べる個所にいる予定です 文字数の関係で、パンフレットには 「自立支援機器のアイデア」と記載されています ※ニーズ&アイデアフォーラム http://n-i.jp/ 研究所オープンハウス https://www.rehab.go.jp/ri/event/openhouse/ また、具体的内容は公開されていませんが、上記をご参照ください

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1100	2024	お知らせ	衣服の着脱	その他(福祉用具) 衣服、靴		国リハコレクショ ン および障害者週間の 特別講演(国立障害 者リハビリテーシ ョンセンター)	肢体不自由者 障害者 利 用対象等全般	国立障害者リハビリテーションセンター研究所顧問の小野です 12/3から12/9は障害者週間です。 この間の平日9時から13時、国リハコレクショ2024『みんなの「善だい」「悪だい」「履きたい」を教えてください』を開催します。 以下の展示を担当した看護師らが本館ロビーにて説明予定です。 ・フジビーズの改良 ・フリーズの改良 ・レインコートの改良 ・靴の改良 また、「令和6年度 障害者週間記念特別講演」を、令和6年12月3日(火)より、障害者週間特設ページおよび国リハ公式YouTubeチャンネルにて公開します。 特別講演 「視覚に障害のある方にも手軽にできるヨガ教室」 いずれも参加無料、詳細は以下をご覧ください。 なお、私は、12/3、国リハコレクショ2024の会場にいる予定です。 https://www.rehab.go.jp/shogaishashukan/
1101	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関 するお知らせ		予告 12/21(土) 午後 ニーズ&アイ デアフォーラム	利用対象等全般	国立障害者リハビリテーションセンター研究所顧問の小野です。 標記ご関心ある方は、以下をご覧ください。 プログラムの詳細が確定しましたら、再度お知らせします。 12/21(土) 午後13時～16時半予定 会場 日経カンファレンスルーム 日経ビル6F https://www.nikkei-hall.com/access/#section_01 対面、オンラインの併催 参加無料、随時出入り自由 ご関心とお時間のある方は、よろしくお願いたします。 過去の作品等 http://n-i-f.jp/ なお、ニーズ・シーズマッピング交流会にて、ニーズ&アイデアフォーラムの活動を紹介しています。 東京会場には 12月10日(火)～12日(木)の3日間、小野が参加しております。 ご関心ありましたら、お気軽にいらしてください。 お待ちしております。
1102	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関 するお知らせ	テクノエイド協 会	2025年度 ALS基 金研究奨励金交付 チーム募集のお知ら せ	その他(ALS)	日本ALS協会では、毎年「ALS基金」により、研究テーマを公募し、研究推進金を交付しております。 2025年度の公募要項を以下に記載します。 皆様からのご応募をお待ちしております。 【公募掲載ページ】 https://alsjapan.org/6914/ 【問い合わせ先】日本ALS協会 https://alsjapan.org/

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1103	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	個人	ニーズ&アイデアフォーラム2024第11回成果発表会のご案内	肢体不自由者 視覚障害者 聴覚障害者 発達障害者 高齢者 家族 共用品	Needs & Ideas Forum for Well-being 第11回 ニーズ&アイデアフォーラム 医療・福祉系、デザイン系、工学系の学生混合チームによる自立支援へのアイデア 12/21 (土) 13:00~16:30 参加無料、事前予約無用、随時出入り自由 対面・オンライン併催 ご関心ある方は、詳細はURL、概略は以下をご覧ください。 http://n-i-f.jp/event2024 今回の課題一覧： A: イヤママのデザイン性向上 (※感覚過敏) B: 視覚障害者が使用できるメジャー C: 車いすの交通安全 (※自動車からの視認性をあげる) D: 車内における杖の簡単・安全固定具 E: 視覚障害者も楽しめるゲーム F: キッチンで使用可能な安定移動いす ゲストコメンテーター 井口正樹氏 筑波技術大学保健科学部 准教授 理学療法士 徳永千尋氏 日本医療科学大学 名誉教授 作業療法士 Zoom情報： 会議ID：980 0141 3858 パスコード：469989 Zoom起動URL： https://zoom.us/j/98001413858?pwd=AZoCSBazZWV7pdBRoObAteZ9SbD8l.1 会場 日経カンファレンスルーム 日経ビル6F https://www.nikkei-hall.com/access/#section_01 開場 12:30 問合先 NIF@rehab.go.jp
1104	2024	新製品・技術	コミュニケーション	意思伝達装置	供給事業者	口述筆記「超心録（こしんろく）」	聴覚障害者 言語障害者 高齢者	「超心録（こしんろく）」は、医療現場からの要望を基に開発されたシステムです。リアルタイムで音声や文字起こす機能と、指やタッチペンを使って画面上に直接文字を書き込めるペン入力機能を備えています。目の不自由な方々が日常生活で直面する意思伝達の壁を取り除き、円滑なコミュニケーションをサポートします。また、オフライン環境での文字起こしに対応しているため、会話が外部に漏れる心配がなく、セキュリティ面でも安心してご利用いただけます。 主な機能： ・リアルタイムで音声や文字起こす機能 ・指やタッチペンを使って画面上に直接文字を書き込めるペン入力機能 主な特徴： オフライン環境での文字起こしに対応しているため、利用時にLTEやWi-Fiなどの通信環境を必要としません。そのため、音声や文字起こす際の情報が端末の外部に漏れる心配がなく、セキュリティ面でも安心してご利用いただけます。また、現場で必要とされる機能に絞らざることで、直感的な操作が可能となり、どなたでも簡単にお使いいただけます。 利用シーン： ・病院での問診 ・窓口でのやり取り ・ディケアのコミュニケーション 実証実験にてご利用者様の声をお聞きしております。 ・宇都市 ・五反田リハビリテーション病院 ・山梨大学附属病院 ホームページ： https://www.medimomy.co.jp/

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1106	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	令和7年度「障害者自立支援機器等開発促進事業」公募説明会開催について	利用対象等全般	標記について、下記のとおり開催します。 なお、本説明会は、標記事業に加えて、総務省及びNICT（国立研究開発法人情報通信研究機構）が実施する事業の合同説明会となります。 参加を希望される場合は、下記5のとおり参加登録いただきますようお願いいたします。 1 開催日時 (1) 大阪会場：令和7年1月17日(金) 14:30～16:30 (2) 東京会場：令和7年1月20日(月) 14:30～16:30 2 開催場所 (1) 大阪会場 近畿厚生局（大阪合同庁舎第4号館）2階 特別会議室 大阪府大阪市中央区大手前4-1-76 (2) 東京会場 総務省（中央合同庁舎第2号館）11 階会議室 東京都千代田区霞が関2-1-2 3 開催方法 ・対面及びオンライン（Teams）のハイブリッド形式 4 説明内容 ・総務省、NICTとの合同開催 ・障害者自立支援機器等開発促進事業（厚生労働省） ・デジタル・ディハイト解消のための技術等研究開発推進事業（総務省） ・情報/バリアフリー・役務提供事業推進助成金（NICT） 5 参加登録方法 (1) 登録期日 令和7年1月16日（木）正午 (2) 登録先（開催会場によって異なります） 以FURLより入りカフォームにて登録ください。 ①大阪会場 登録受付担当：厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室障害者支援機器係 https://forms.office.com/r/w9t4dU58Ga ②東京会場 登録受付担当：総務省情報流通行政局情報活用支援室 https://forms.gle/Ea7utuhTp6vCvthF9 【問合せ先】 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室 障害者支援機器係 TEL 03-5253-1111（内線 3637、3088）
1107	2024	お知らせ	コミュニケーション	福祉伝達装置、緊急通報装置、福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	令和7年度「情報バリアフリー・役務提供事業推進助成金」の公募について	利用対象等全般	国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）エスアイシー・ディー、理事長：徳田 英幸）は、令和7年度「情報/バリアフリー・役務提供事業推進助成金※1」について、下記のとおり公募を開始します。 本公募は、令和6年度補正予算の繰越しを前提に行うものですので、ご承知おきください。 ※1 これまでの名称「情報/バリアフリー・通信・放送役務提供・開発推進助成金」を変更しました。 詳細は以下のNICTのホームページをご確認ください。 https://www.nict.go.jp/press/2025/01/16-1.html （参考情報） https://www.techno-aids.or.jp/gallery/list/?cat=11

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1108	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	その他(福祉用具)	テクノエイド協	有楽町の交通会館にて写真展を開催！ (一般社団法人日本ALS協会)	その他(ALS)	機関誌JALSの巻頭で、約20年間にわたり、患者さんの日常を撮影した写真を掲載してきました。これらの写真で、誌面では紹介しきれなかったものを集めた写真展になっています。写真を通して、ALSをもっと深く知ってもらいたい、もっと身近に感じてもらいたいと考え、開催に至りました。多くの皆様には是非ともお立ちのぞきいただけますよう、お願い申し上げます。 【開催概要】 会 場：東京交通会館 東京都千代田区有楽町2丁目10-1 2階ギャラリー (JR有楽町駅 京橋口 徒歩1分) 開催日時：19日(日) 14:00~18:00 20日(月) ~24日(金) 10:00~18:00 25日(土) 10:00~16:00 入場無料 追伸：産経新聞他で取り上げていただいています。 https://news.yahoo.co.jp/articles/c6cbeb07ab1fc5266e0ae43317a70cdd5a0fcf15 【本件に関する問い合わせ先】 一般社団法人日本ALS協会 電話 (03) (3234) 9155 FAX (03) (3234) 9156 URL http://www.alsjapan.org/ E-mail alse@alsjapan.org
1109	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	令和7年度障害者自立支援機器等開発促進事業の自立支援機器開発の補助事業に関する公募を14日から開始しております。新たな支援機器開発をされている、または今後開発を予定している企業および関連団体等の皆様におかれましては、上記事業の応募についてご検討いただけますようお願いいたします。	利用対象等全般	応募に関する情報は、厚生労働省ホームページをご確認ください。 く参考URL：厚生労働省ホームページ 令和7年度障害者自立支援機器等開発促進事業 公募開始について https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_48710.html 応募する際は、HPにて公表しております令和7年度の公募要項をよくご確認いただきますようお願いいたします。 また、今回から新たに、「原則補助金申請システム「Grants」にて応募、提出「Grants」での提出方法で難しい場合は、未償当座までご相談ください。 皆様のご応募をお待ちしております。 どうぞよろしくお願いいたします。 ***** 厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部企画課自立支援振興室 障害者支援機器係 TEL：03-5253-1111（内線：3637、3088） *****

投稿No.	年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1110	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	その他(福祉用具・介護テクノロジー)	その他	厚生労働省 令和6年度介護ロボットのニーズ・シームスマッチング支援事業 ニース・シームスマッチング支援事業	高齢者	厚生労働省「令和6年度介護ロボットのニーズ・シームスマッチング支援事業」事務局を受託しております。NTTデータ経営研究所の太刀川に申します。 本事業では、介護ロボット等の開発、販売・アフターサービス等を牽引されている企業様・団体様、介護分野への自社技術活用を検討されている企業様・団体様向けに、専門家による即言や、他の企業様・団体様とのマッチング機会のご提供等の支援を行っております。 ご興味、ご関心のある皆様におかれましては、ぜひ、本事業をご活用いただければ幸いです。 支援をお受けいただくため、まずは以下HPからエントリーをお願いいたします。 公式HP： https://www.mhlw.go.jp/kalgosaisansei/ns/ エントリーフォーム： https://586f057e.form.kintoneapp.com/public/kalgopf-ns-matching-entry【事業概要】 本事業は、介護現場の真のニーズを反映したロボットの開発・普及促進を目的とし、企業の参入検討・開発・製品の普及を支援しています。 【対象企業】 ・介護ロボット等の開発を実施・検討している企業 ・自社の有する技術を、介護ロボット等に活用されたい企業 ・介護ロボット等の販売やアフターサービスを行っている企業 ※本事業では、ロボット技術の介護利用における重点分野（6分野13項目）に限定せず、介護現場で必要となるテクノロジーを広く対象としています。 【支援内容】 本事業では以下3つのタイプのマッチングを支援します。 マッチング①（主に自社開発をされた企業様向け）：介護現場のニーズとのマッチング支援 ・約200件の介護現場のニーズをホームページ上で閲覧が可能です ・関心のあるニーズについて、有識者との相談、介護現場へのヒアリング、現場見学等が可能です マッチング②（主に自社開発をされた企業様向け）：実証に関わるフィールド（介護施設・リビングラボ等）への取次 ・製品検証に関する専門機関からの即言や断りを得ることが出来ます ・製品検証の後、実証試験を受け入れる介護現場とのマッチングを支援します マッチング③（自社開発をされた企業様、および協業先を探したい企業様向け）：企業間マッチング支援 ・開発企業と製品・製造技術を有する企業とのマッチングを支援します ・開発企業と販売・アフターサービス事業者とのマッチングを支援します 【費用】 支援は基本的に無料です。 専門機関までの試作品輸送費や、実証試験時の介護現場への謝礼金等が発生する場合は、ご負担をお願いしております。 ■お問い合わせ 本件に関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。 厚生労働省「ニース・シームスマッチング支援事業」事務局 株式会社NTTデータ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット Mail: ns-plat@nttdata-strategy.com
1111	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ		「第4回東北Kaigo-Tech実践研究会」のお知らせ	高齢者 家族 介助者	この度、NTTデータ経営研究所では、厚生労働省より受託しております「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」の一環として、第4回東北Kaigo-Tech実践研究会を開催することとなりました。 本研究会は、東北地域におけるテクノロジーを活用した介護現場の課題解決策・よりよい介護に関する介護研究の成果や、ニーズを真にとらえたテクノロジーの開発事例等を全国に発信するものです。 東北地域の方に限らず、全国の皆様にご参加いただけます。是非ご参加いただくと幸いです。 【第4回東北Kaigo-Tech実践研究会】詳細は「リーフレット」をご参照ください。 ○開催日時：2025年3月13日（木） 開始14:30～16:30（受付開始14:00） ○定員：200名（先着） ○リフレット： https://files.microoms-assets.io/assets/8ba880c1ada24b3286662c41b28222851/21ac029fe1bf419d8c2a137ad27853b7/%E7%AC%AC4%E5%9B%9E%E6%9D%B1%E5%8C%97Kaigo-Tech%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%BC%9A%E3%82%BB%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%A9%E3%82%B7.pdf ○開催形式：オンライン（Zoomウェビナー） ○申込URL： https://586f057e.form.kintoneapp.com/public/kalgopf-tohoku-kaigo-tech20250313 【東北Kaigo-Tech実践研究会について】 （参考）東北Kaigo-Tech実践研究会設立のご案内： https://www.mhlw.go.jp/kalgosaisansei/bf/media/kaigo-tech_22011702.pdf 何卒宜しくお願い致します。 ----- 東北 Kaigo-Tech 実践研究会 事務局 株式会社エヌ・アイ・ティ・データ経営研究所 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル 9階 担当者：田中、保坂、太刀川、足立 メール： plat2020@nttdata-strategy.com -----

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1112	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	ニーズ・シームズマッチング交流会2024紹介動画がUPされました！	利用対象等全般	11月、12月に開催されたニーズ・シームズマッチング交流会2024の様子をまとめた動画を公開しました。 参加者の交流の様子、講演、アクティビティのハイライトをご紹介します。ぜひご覧ください！ https://youtube.com/bRMYUFTTLo
1113	2024	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	2025年度「SBR推進プログラム」(連結型)に係る公募開始のお知らせ	利用対象等全般	以下、情報共有になります。 本事業は、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律の規定により定められた、指定補助金等の交付等に関する指針に基づき、多様化する社会課題の解決に貢献する研究開発型スタートアップ等の研究開発の促進及び成果の円滑な社会実装を目的として、内閣府が司令塔となって、省庁横断的に実施する「日本版SBR (Small/Startup Business Innovation Research) 制度」の一翼を担うものです。 関係府省庁等が実施する研究開発課題や研究開発フェーズは、国により決定され、研究開発の初期段階 (POC、FS) をフェーズ1、実用化開発支援をフェーズ2として、多段階選抜方式を導入した継続支援を本事業内でのみ実施する「一気通貫型」、或いは、関係府省庁等で実施する指定補助金等事業へ接続する「連結型」の2つの方法で実施します。本公募では、「連結型」の研究開発課題のフェーズ1公募となります。 【公募についての詳細ページ】 https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100488.html 【公募期間】 2025年3月21日 (金) から2025年4月21日 (月) 正午までの予定です。 【説明会】 3/28 (金) 14:00~14:30@Webinar https://events.teams.microsoft.com/event/830bb7e0-dab5-423d-9d44-3dfcb546a09c@9151c5b6-2333-429d-ab10-03f815e583c1 詳しくは、以下担当までお問い合わせください。 【スタートアップ支援部 SBR推進プログラム事務局】 ※問い合わせにつきましては原則メールでのみ承ります。会社名、ご所属、お名前、問い合わせ内容を記載し、以下のメールアドレス宛にお送りください。また、電話対応をご希望される場合、お名前、電話番号、問い合わせ内容を記載し、メールにてお送りください。事務局より折り返しお電話させていただきます。 E-MAIL: sbr_renketsu@nedo.go.jp

投稿No.	年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1115	2024	お知らせ	その他(場面) 自励員等	福祉用具全般に関 するお知らせ	テクノエイド協 会	【自励員の使い方展 示講座開催のお知 らせ】4月27日 (日) 10:30～1 6:00	肢体不自由者	以下、情報共有です。 ★自励員の使い方展示講座のご案内★ この展示講座は自励員の活用方法を知ること、障害のある方、高齢の方の日常生活をより快適にすることを目的としています。展示品は自励員の他100均等の材料で簡単に手作りできる自励員の活用方法も提案いたします。 国際医療福祉大学准教授 出口弦舞先生を講師に招いての講演もありますので是非ご参加下さい。 【開催日時】2025年4月27日(日) 10:30～16:00 【場 所】江東区東大島文化センター 3階 第一会議室 https://www.kcf.or.jp/higashiojima/access/ 東大島駅出口は、大島口改札を出て下さい。駅からはエレベーターもありまので車椅子の方でも文化センターへバリアフリーでアクセスできます。 駐車場ご利用の方は1階窓口で受付お願い致します。 【内容・プログラム】 ・自励員の展示コーナー（最新の自励員を体験できます） ・専門家による講演 国際医療福祉大学准教授 出口弦舞先生 ・体験コーナー（実際に試してみよう） ・就労継続B 製造のお菓子を作ります。（数に限りがあります） 【出展企業】 ・日本技術企業株式会社 http://jiogustars.ne.jp/mamoru/ ・カセラ株式会社 https://crm.ariakesyoji.mydns.jp/ ・株式会社ニッシリ https://nissili.co.jp/ ・三信化工 https://www.sanshin-kako.co.jp/ ・スレプトウェル https://www.correctwell.com/ ・株式会社ケアワイル https://www.carewill.co.jp/ ・有限会社ワイント https://www.hashizokun.com/ 【お問い合わせ先】 主催：日本技術企業株式会社 ☎ 070-2665-8476 ✉ mamoru@jiogustars.ne.jp

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1021	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	2023年度SBR推進プログラム公募開始のご案内	利用対象等全般	詳しくは、以下URL をご確認くださいませますようお願いいたします。 O2023年度「SBR推進プログラム」(一気通貫型)に係る公募について https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100402.html 1.事業内容 (1) 概要 本事業は、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律の規定により定められた、指定補助金等の交付等に関する指針に基づき、多様化する社会課題の解決に貢献する研究開発型スタートアップ等の研究開発の促進及び成果の円滑な社会実装を目的として、内閣府が司令塔となって、省庁横断的に実施する「日本版SBR (Snail Business Innovation Research) 制度」の一翼を担うものです。 関係府省庁等が実施する研究開発課題や研究開発フェーズは、国により決定され、研究開発の初期段階 (POC、FS) をフェーズ1、実用化開発支援をフェーズ2として、多段階進捗方式を導入した継続支援を本事業内でのみ実施する「一気通貫型」、或いは、関係府省庁等で実施する指定補助金等事業へ接続する「連結型」の2つの方法で実施します。本公募では、「一気通貫型」の研究開発課題の公募となります。 (2) 事業規模及び期間等について <フェーズ1>：概念実証 (POC)、実用可能性調査 (FS) 事業期間：原則として、1年間以内事業形態：定額即成委託費：原則として、1 <フェーズ2>：実用化研究開発 事業期間：原則として、2年間以内事業形態：助成1テーマあたりの規模：原則として、1テーマあたり1.5億円以内NEDO助成率：2/3以内 (NEDO負担額：1億円以内) 事業内容：公募要領内に示された研究開発課題に対して、概念実証や実用可能性調査を完了しているスタートアップ等が、実用化に向けた研究開発を実施します。 (3) 公募期間 2023年3月31日から2023年5月10日正午までの予定です。 2説明会 4月12日 (水) 13時30分～14時30分 (13時15分より待機可能) 150名teamsウェビナー 3応募方法等 詳しくは、 https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100402.html にてご確認ください致します。
1022	2023	新製品・技術	屋外の移動	その他(福祉用具) 歩行支援アプリ	テクノエイド協	「スマホでAIが音声案内」視覚障がい者歩行支援アプリ Eye Naviの提供開始	視覚障害者	Eye Naviは、スマートフォンひとつで、道案内と障害物検出、歩行レコーダー機能を備えた歩行支援アプリです。 目的地までの方向や経路、周辺施設、道路上の障害物、歩行者番号の色、点字ブロック等を音声で知らせます。 誰もがどこへでも自由なく移動できる社会の実現を目指しています。 開発元：株式会社コンピュタサイエンス研究所 視覚障がい者歩行支援アプリEye Navi https://eyenavi.jp/ https://www.computer-science.co.jp/website/news20230412.php
1023	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	行政	【第1回エントリー開始】ハラスメント関連製品、障害者・高齢者向け製品の販路開拓を支援	利用対象等全般	公益財団法人東京都中小企業振興公社からのお知らせ 【令和5年度 障害者向け製品等の販路開拓支援事業 (助成金) エントリー受付中】 ハラスメント関連や障害者・高齢者向け製品の製造・販売に取り組み郡内の中小企業を対象に、展示会出展・自社サイト制作・ECサイト出店初回登録などの費用を助成します。 ▼詳細はこちら https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyoshoagaisha.html
1024	2023	要望・アイディア	場面全般に関するお知らせ	緊急通報装置 排泄介連用具 その他(福祉用具)	医療専門職	在宅で暮らしたきりの方 用守りセンサーを介連保険で取り扱って欲しい	肢体不自由者 高齢者 児童 介護者	認知症で一人で起き上がったり、靴を脱いだりするセンサーはありますが、暮らしたきりの状態で心拍数や呼吸や排尿、排便などのセンサーがついた物が介護保険でレンタルができません。自宅で暮らしたきりの状態で心拍数や呼吸や排尿、排便などのセンサーと通信機器が介護保険でレンタル可能であったり日常生活用具給付対象であればもう少し安心して在宅介護を行えるように思っています。

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象等	投稿内容
1025	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	3Dプリント自動 削り出しコンテ ナーの提供の知 らせ 主催：一般社団 法人ICTリハビ リテーション研 究会	利用対象等全般	3Dプリンタを活用して自削削をつくる機会が増えてきました。 はじめての機会となる今年には特に部門を設けることなく、世代、職業、分野に関わらず広く取り組みの成果を募集いたします。 ご応募にあたっては「fabble」というWebプラットフォームにプロジェクトの過程や成果などを記入いただきます。応募のサポートをする仕組みもご用意しますので、ご安心ください。 様々な障害がありながらも楽しく暮らすためにクライアントの「作業」に向き合い、それを表現するための様々な取り組みに3Dプリンタを活用する。 そのような機会を増やすべくこのコンテストを開催します。 受賞デザインはともにつくるプラットフォーム「コクリハブ」で公開を予定しています。 【応募期間】：2023年7月20日(木)～8月31日(木) 【結果発表】：10月28日(土) 【応募にあたっての条件】： 1. コンテストへの応募は3Dプリンタと3Dデータを活用して作成したものに限定させていただきます。表の注意書きをご参照ください。 ※センサー、スイッチや回路を組み込んだものは応募いただけません。 2. 作品の著作権は応募者に帰属します。また、すでに発表されている作品等でも構いませんが、過去に受賞歴のあるものは応募いただけません。制作費用はすべて自身でご負担ください。 3. 応募作品の提出には、慶應義塾大学で運用している制作日誌共有システムFabbleを用いていただきます。 4. 資料による1次審査を通過された方々には事務局に作品をお送りいただいた上でオンラインで開催される最終審査にご参加いただけます。 （エントリーフォーム）：https://forms.gle/S6t9zHhN17C19d4 （応募システムFabbleについて）：https://fabble.co/schko123/tutorial （エントリーの詳細について）：エントリーの詳細については7月よりICTリハビリテーション研究会ウェブサイトにてご案内します。 https://www.ictrhab.com （本件お問い合わせ先） 一般社団法人ICTリハビリテーション研究会 https://www.ictrhab.com/
1026	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	川崎義一〜福祉のミ ライをカタチに〜	利用対象等全般	市政100周年に向けた取組としてウェルテックを拠点に有識者による伴走支援を受けながら、多様な人が暮らす社会で、誰もが安全・安心に暮らすための手助けとなる画期的な製品・サービスを新たに開発する事業について、企画・提案し、開発に組み込む事業者を新たに募集します。 ■事業目的 新たに創出された製品・サービスが福祉現場等における負担軽減や誰もが自分らしく生活できることに繋がるだけでなく、川崎市における更なる福祉産業の振興に繋がることを目指しています。 ■事業費 最大200万円（消費税込み）を支援します。※事業費全体として、この上限額を超えている事業も提案可能です。 ■事業の特典他、詳細は川崎市のホームページをご覧ください。 https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000151065.html
1027	2023	新製品・技術	食べる	その他(福祉用具) 生活雑貨	開発メーカー	「形状変形可能な自 削削「くうほの」 」の販売を開始しまし た。	日用品	ユニチカレテイング株式会社は形状変形可能な自動削「くうほの」の販売を開始しました。 本製品は3Dプリンターで製作した3タイプのカットラバー固定具で、簡単な加温で使いやすい形状に調整できるのが特徴です。 製品の詳細は「くうほの」専用webサイトに掲載しておりますのでぜひご覧ください。 https://kupono.unitrade.co.jp/ 自動削「くうほの」は皆様からのご意見やご要望をもとに製品改良や新商品の開発に組み、更に安全で使いやすい商品をお届けできるような努めて参ります。
1029	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	令和5年度かわさき 基準（KIS）認証福 祉製品の募集	利用対象等全般	「かわさき基準（KIS）」認証「自立支援」をキーワードに定めた基準であり、川崎市が安心・安全な製品を認証する取組です。 審査過程で、「ウェルテック」における安全性・性能等の検証を行う等、企業様にとってより付加価値のある認証となるような仕組みとしていきます。 なお平成20年度に開始した本取組では累計285製品を認証しており、パンフレットや動画等による情報発信を通じて幅広く製品を知って頂けるよう、支援を行って参ります。 川崎市内企業の皆様を中心に製品のご応募をお待ちしております。 皆様、ご応募をぜひご検討ください。 ご不明な点がございましたら、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。 https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000151135.html

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1030	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	ニーズ・シーズマッチング交流会2023) 出席企業等の募集について	利用対象等全般	本交流会は、自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族や福祉・医療従事者などの「機器を使う側（ニーズ）」の方々と、開発企業や大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側（シーズ）」の方々が、じっくり膝を交えて交流することを目的とするものです。 東京と大阪、Webでの開催を予定していますが、出席を希望（無料）する企業等を募集いたします。 詳細は、下記の協会ホームページをご確認ください。 https://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/ ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等 ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等
1031	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	令和5年度 厚生労働省自立支援機器イノベーション人材育成事業(AID-P) 事前説明会の開催について	利用対象等全般	【事前説明会申込リンク】 https://peatix.com/event/3607929/view 支援機器の開発では、約50%の開発が製品販売に至りません。その要因として、支援機器の利用者のニーズ把握が不十分、開発に携わる医療福祉専門職等の事業化（ビジネス）に関する理解の不十分などが挙げられます。 本事業は、障害者の多岐にわたるニーズを的確に捉え、かつ事業化の視点を踏まえた人材育成とを目的とした厚生労働省の事業で、昨年度に引き続き株式会社フレモパートナーが実施団体として事業（AID-Pと名称）を実施することになりました。 AID-Pでは、東京・大阪の2か所で、7ヶ月間（各会場月1回程度）にわたるWS等を実施し、デザイン思考に精通したジャパンバイオデザインフェローシッププログラムの修了生等が講師となり、ワークショップ及びその後の課題に対するメンタリング等の支援を行います、障害者の支援機器開発に特化した人材を育成するプログラムです。 令和5年度、本プログラムに開催し、障害者の支援機器開発に熱意を持ち取り組んでくださる受講者を募集するための、事前説明会（参加費：無料）をオンラインにて開催いたします。 事業のホームページ： https://www.prenopartners.com/aidp/ 運営：フレモパートナー株式会社
1032	2023	要望・アイディア	排泄	排泄関連用具	研究機関	家族の負担なしの在宅介護システム	肢体不自由者	＜足腰が弱って自力ではトイレに行くことができず、トイレ付帯で寝たきりの人の場合＞ 「夕食は何にしますか？」⇒「中華料理とビール一杯がいい」⇒「いつもの〇〇軒のエビチリ定食とビールですな」⇒「そうです。」⇒（〇〇軒から前読証派遣センターに連絡をし「〇〇時に自宅に18時に届けるので、配達とビールを注文、食事が終了するまで話し相手になり、その後食器を洗って、玄関先に出しておいて欲しい、という電話連絡を入れる」⇒時間が間に合う、近くに住む（小学生を含む）誰かが派遣される仕組み。 添付図のように、極楽ベッドの下にトイレを必要としない場合のシステムも、子供を含め世界の若男女が欲しくなるものと考えています。なぜなら！ 極楽ベッドでぐっすり眠り、（朝は目覚ましアラームではなく）ベッドがリクライニング椅子に自動的に変わると同時に、窓を多少曇らしたキヤラのアパターが、（昨夜の会話等で、本人の予定が分かっているの）「おはよう、今日は午前中は会議で、午後から〇〇へ外出ですね。午後から雨が降る可能性があるので傘を忘れないでね。」等の会話をしてくれて、出掛けには「早くかえって来てね。」と恋人のような会話をしてくれると書えています。 すなわち、心の中で一緒に生きている感覚があり、寂しくならない、「進化したペット」のような位置づけになると考えています。 詳しくは「木造人工島」で検索され、ガーデンフィールドのホームページの「カワサキシステム」をクリックされ、資料をご参照下さい。 ご賛同いただけましたなら、いかにご連絡をいただけますと助かります。 川崎市宮前区：ガーデンフィールド株式会社 代表 廣田祐次 ホームページ： https://www.garden-field.com/ メール： hirotayui@garden-field.com 電話：090 - 5203 - 8627
1033	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	(お知らせ) ことものための福祉機器展2023年7月22日(土)	児童	日時：7月22日(土) 10:00ー17:00 会場：フォレスト・イン昭和三十九桜林（東京都昭島市拝島町4017-3） 入場料無料、駐車場無料、シャトルバス運行 詳しくは、こちらをご参照ください。 https://dekurakoba.com/news/%e3%81%93%e3%81%9a%e3%82%82%e3%81%9f%e3%82%81%e3%81%ae%7%a0%81%e6%7d%a5%83%e6%a9%9f%e5%99%9a%8%e5%b1%95%e9%96%8b%82%ac%e3%81%8a%7e7%9f%a5%e3%82%89%e3%81%9b/ 主催：車椅子シーディング介護研究会 事務局：有限会社てく工務

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1034	2023	要望・アイディア	排泄	床ずれ防止用具・福祉用具全般に関するお知らせ		ニューアファミリ介護システム	肢体不自由者	寝返り不要の寝床ベッドと匂いのしない水洗トイレ及びロボットウォッシュレットを組み合わせたハード技術にて、おむつ交換を排除した「軽介護」を達成し、被介護者に比べ介護する人を2～3倍にしたニューファミリ介護システムを構成し、チャットGPT（AI）で、各人の軽介護のスケジュール管理をこまめにを行い、認知症システムで安全な人の入るシステムにし、食事の毛配システムを頻繁に利用する、ニューファミリ介護システム提案いたします。詳しくは、「木通人工島」で検索され、カーテンフィールドのホームページの「家族の負担0の在宅介護システム」ををクリックされ、資料をお読みください。
1035	2023	要望・アイディア	移乗	移動用リフト	個人	車椅子からの移し替え作業について	肢体不自由者 高齢者 介助者	投稿内容は車椅子の“移し替え作業”についてですが、先日あるきっかけで興味を持ち、少し変わったアイデアが浮かんだことにより、書面を作成して周囲の方々の協力の下で、先日一件特許出願登録させて頂きました。(5/28の修正と追加)個人で考えた内容であるため、専門家の立場で生の声を直接伺う機会を設けて頂ければと願っております。また可能でありましたら、開発協力支援や賛同者などを募っております。 アイデアの要点を簡単に申しますと、車椅子の座椅子部分と台車部分を別の機構（昇降機）で分離させる機能を持つことで、他の介護医療用品への移し替え業務の負担が大幅に軽減される内容（車椅子の座面が直接移り変わる方法）になります。画像の一部（全画像については下記参照）を添付いたします。 既存品と荷点が異なり、他にも利点が複数ございます。詳細なことにつきましては、下記の通り特許番号をお知らせ致します。是非一度ご覧くださいます。 ご興味やお気付きの点等がございましたら、お気軽に返信など問い合わせ頂ければと思います。 よろしくお願致します。 特許番号 特許第7258287号 発明の名称 座椅子脱着式車椅子 開放特許情報データベースにも掲載中 開放特許情報番号 L20230000399 ----> こちらで令和5年7月下旬には全添付画像が閲覧できます（現在手続き中）。
1036	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	第2回アクセシビリティセミナー（主催：東京慈恵会医科大学 アクセシビリティ・サポート・センター）	利用対象等全般	【サイト】 https://asc-jikei.jp/news/2/ 【セミナー概要】 この数年の間に、日常生活の中でのICT利用は急速に進んでいます。医療が命を救い、リハビリテーションが生活を支える場面でも、ICTの活用が従来の考えを大きく変えてきています。 特許特許者が指でiPadをなぞって音声で聞いて操作したり、神経難病で指がわずかに2mmしか動かない人がスイッチを操作したりしてiPadを使って仕事をすることも、珍しいことではなくなってきました。 アクセシビリティは、従来は障害者に対する「ウエブアクセシビリティ」のことを指していましたが、障害者だけでなく、高齢者や認知症の方など「困っている人」に対する思いやりの持った知識のことを指しています。 アクセシビリティ機器（iPad・Aisビーエム等）の導入が目的ではなく、その人がより良い生活ができるようにすることが目的ですが、ICTの発展の速度は非常に速く、汎用品の利用が進んでいることもあって、現場の医療・リハビリテーション担当者が最新の情報を得られないという問題があります。 本セミナーでは、最先端のアクセシビリティに対する考え方・現場での活用例・自治体の支援制度を学び、日々の活動に活かせる情報を提供し、一緒にアクセシビリティについて考える機会としていただくことを目的としています。 コンセプト： ●国のアクセシビリティに対する取り組みを知る ●アクセシビリティのことばの定義・アクセシビリティ機器の実験を学ぶ ●リハビリテーション現場での活用事例を学ぶ ●障害者、高齢者や認知症の方に対するアクセシビリティ対応の理解を深める プログラム（予定）： アクセシビリティを教える人に対する考え方と実践の状況の確認 1. 挨拶（3分） 2. アクセシビリティとは（15分） 3. アクセシビリティを使った事例紹介（10分） 4. 高齢者ができること・困っていること（20分） 5. エクセルアート島崎 若宮正子さん 6. 終わりの挨拶（3分） 7. 終わりの挨拶（3分） 8. 終わりの挨拶（3分） 東京慈恵会医科大学 松崎千弥 主催：東京慈恵会医科大学 アクセシビリティ・サポート・センター（ASO） 後援：テクノエイド（申請中） 助成：日本財団
1037	2023	要望・アイディア	場面全般に関するお知らせ	その他(福祉用具)・聴覚過敏関連用具	利用者の家族	聴覚過敏対策	発達障害者	大人の聴覚過敏対策では、市販の耳栓やイヤーマフを使用しています。それら耳栓やイヤーマフは工業用だったり工事用だったりなどで聴覚過敏の専用のものであればありません。聴覚過敏専用のものでなくとも販売し、医療器具(補聴器)としての使用が認められるようになって欲しい。聴覚過敏は日常生活に支障が大きい。正しく認知され生活しやすくなるように、聴覚過敏用の医療器具としての開発と政策の整備を希望します

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1038	2023	新製品・技術	その他(場面)聴覚過敏	その他(福祉用具) 耳栓	利用者	聴覚過敏	聴覚障害者	私は就労先を離れています。12年前に機械から発せられる音に強い生理的に体が疲れる事が出来ないようになり、機械に近づく事を出来なくなりました。対策としてイヤーマフを着け、耳との隙間に綿・ゴム等、色々な物を試みに入れ、少しでも遮音効果が出ないかと考えながらなんとか仕事を続けられるようになり、その後、気がつく交通量の多い道路を歩いていると、耳の中(外耳道)がピリピリと痛くなり、カーという振動が聞こえるようになり、耳だけなくバス・トラック・乗用車・オートバイ等の区別もつかなくなりました。テレビの音・音読機・通話機の中低音域も粗く聞こえるようになり、又、日常生活で聴く高音域の音に対しても音が狭み、体に沁み入るようになり不快感や伴って聴こえるようになり、私は音に対して恐ろしいと感じるようになり、真剣に耳栓を考えるようになり、試行錯誤の結果、「耳に吸着音を誘ける」という発想になりました。エネルギーを持った音を直に鼓膜に伝えるのではなく、耳栓と目の穴(外耳道)と鼓膜だけで形成した吸着室を作り耳栓を形成するゴム板(吸音板)だけ通って音を鼓膜に伝えて聴く事です。外部の音はゴム板(吸音板)を通る事によってエネルギーを損失し、結果、音の響きを低減させる事によって本来の自然な音を鼓膜に伝える事が出来ます。聴覚過敏の人のお役に立てると思いますが、この耳栓の経験者が開発した本人以外まだおりません。この耳栓の欠点にもなりますが、吸音板を両方の人の外耳孔に合わせて直接作成しないと効果は少ないと思いますので、名古屋市内に在住されている聴覚過敏の方で無償でもモニターとしてご協力して頂ける方を探しています。宜しくお願い致します。
1039	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	その他(国立障害者リハビリテーションセンター) 聴覚過敏	令和5年度募集要項(対象：学生及び当事業) ニーズ&アイデアフォーラム2023	肢体不自由者 聴覚障害者 聴覚障害者 言語障害者 知的障害者 精神障害者 発達障害者 盲ろう者	ニーズ&アイデアフォーラム2023を実施するにあたり、参加学生にご協力いただいただけの障害のある当事者を募集しています。ニーズ&アイデアフォーラムは、医療・福祉系、工学系、デザイン系の学生が、障害のある人のニーズを解決するアイデアを模索して、形にするプロセスを通じて、様々な事を学ぶ人材育成プログラムとして実施している一環でその作品を紹介する場であり、障害のある方のニーズや技術の一端も合わせて、広く一般の方々に知っていただくべく2014年から国立障害者リハビリテーションセンターと大学、高等学生、専門学校などが協力して開催しています。対面参加が一部ありますが、遠方の方はすべてオンライン参加も可能です。募集締切は7月21日です。学生は途中参加もありです。第一回目は8月7日で、国立障害者リハビリテーションセンターの冒険が告げられています。ご関心ある方は以下のURLにあるお知らせをご覧ください。 https://n-i-f.jp/news/ また、ご関心ありそうな方々へご紹介いただくと幸いです。
1040	2023	新製品・技術	その他(場面)聴覚過敏	その他(福祉用具) 耳栓	利用者	聴覚過敏	聴覚障害者	7月14日に聴覚過敏で投稿した者です。先日、投稿の折、耳栓装着の状態の写真を掲載してなかったので送らせてもらいました。耳栓の名称は、吸音型透過型耳栓です。この耳栓の装着時に注意してほしい事は、 ・自分の声が聴こえてくる。 ・耳栓装着時に顔がほてっていると感じる事があります。 ・この耳栓は、補聴器ではなく、防音性もある為75db程度の音が聞こえます。 ・この耳栓は、補聴器ではなく、防音性もある為75db程度の音が聞こえますが、普通に本来の音が聴き取れます。 ・通常の耳の人が聴いても普通の音で75db程度の音が聞こえます。
1041	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	移動用リフト入浴 陸運用具 福祉用具 全般に関するお知らせ	開発メーカー	介護・医療問題に関する心をお持ちの方へ【Fine】介護で日本を変えろ ～医療から介護へ～病院から在宅へ～ 展示会・講演会開催 2023年7月28日(金)・29日(土)	利用対象等全般	介護医療の問題『人材の不足、高齢者人口の増大、財源の不足』に立ち向かうため、私たちは微力ながらも「Fine介護」の広く皆様にご提案したいと考えました。そして、その第一歩として、講演・研修・展示会を開催いたします。 ・日程 2023年7月28日(金) 9:00～18:00・29日(土) 9:00～16:30 ・場所 梅田スカイビル タワーエース22階(住所：大阪府大阪市北区大淀中1-1-88) ・入場料 無料(講演会は事前登録要) 講演者一覧 ・京都府立医科大学リハビリテーション学医教室 准教授 沢田 光恵郎 氏 ・昭和記念病院 理学療法士 課長 徳田 和宏 氏 ・特定医療法人藤利会武内病院リハビリテーション部 理学療法士 岡本 直樹 氏・倉井 皓彬 氏 ・医療法人杏園会熱田リハビリテーション病院リハビリテーション科 理学療法士 課長 西村 英亮 氏 ・株式会社タムラフロンティア・オペレーション代表取締役 田村 明孝 氏 ・株式会社バリオン代表取締役 医療博士・工学博士・理学療法士 金澤 善智 氏 ・一般社団法人ナチュラルハートネットワーク代表理事 下元 佳子 氏 ・出羽の国 心ノ詩人 武久 成久 氏 ・株式会社はいせつ総合研究所 排泄用具の情報総むつき庵 代表 浜田 きよ子 氏 私たちはご利用者様の自立化や重症化防止、安全な介護、介護者の腰痛対策に取り組んでいます。皆様のご参加をお待ちしております。講演会参加につきましては、席に限りがございますのでお早めにお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしております。※講演のお申込みは下記よりお願いいたします。 講演申込フォーム： https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd5ZGyq43-JlnwZPJmhjynVJlabySeNDxLo.195xs/viewform 大会詳細： https://wdustrpberaidhi.com/

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1042	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会	【お知らせ】 ニース・シーズマツチンク地域交流会（ATAサテライト）の開催について 主催：テクノエイド協会	利用対象等全般	【目的】 支援機器の開発企業においては、技術志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状況を的確に把握し、課題や要望を解決する機器開発に着手することが求められます。 こうしたなか、テクノエイド協会では、「ニース・シーズマツチンク地域交流会（通称「ATAサテライト」）」を全国各地域で開催することと致しました。 このATAサテライトでは、地域の障害者や家族・支援者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が参集し、障害者の課題等を解決する支援機器の具体的なイメージを協議し、厚生労働省の開発促進事業への応募に賛じます。 自立支援機器に係る地域のニーズ側（使う人）とニーズ側（作る人）の関係者が集い、障害当事者に置かれている課題を共有し、その課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを検討いたします。 【参加費用、参加資格】 参加無料、各テーマに興味のある方、福祉機器開発に興味のある方 【開催情報】 ・小樽開催 令和5年10月6日（金）9:30～16:00 会場：小樽経済センター 7階Bホール ・札幌開催 令和5年9月6日（水）9:30～16:00 会場：小会議室（第2）札幌市商工経済会館 ・和歌山開催 1日目 令和5年9月15日（金）13:30～16:30 和歌山県勤労福祉会館プラザホール 中会議室 2日目 令和5年9月16日（土）9:30～11:30 和歌山県勤労福祉会館プラザホール 会議室1・2 ・熊本開催 1日目 令和5年9月19日（水）13:30～16:30 くまもと県民交流館/ハリア会議室9 2日目 令和5年9月20日（木）10:00～12:00 くまもと県民交流館/ハリア会議室9 【お申込み、詳細はこちらまで】 https://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml
1043	2023	新製品・技術	排泄	装具 排泄関連用具	テクノエイド協会	尿袋 とれぞーくん 男性集尿装具を製造していただける企業様をさがしています	肢体不自由者 内服障害者 その他（排泄障害）	テクノエイド協会より代理で投稿させていただきます。 「尿袋 とれぞーくん 男性集尿装具」ですが、部品を仕入れている業者の撤退等により、製造していただけた企業様を募集しております。 製品詳細は、以下をご確認ください（テクノエイド協会 福祉用具情報システムTAISより） https://www.techno-aids.or.jp/ServiceWelfareGoodsDetail.php?RowNo=O&YouCode1=O1443&YouCode2=O00001 ご興味のある方は、テクノエイド協会企画部 宇田川 電話03-3266-6883 までご連絡をください。
1044	2023	新製品・技術	食べる	その他（福祉用具） 食事補助 福祉用具全般に関するお知らせ	開発メーカー	Obi Robot（オビーロボット）日本上陸	肢体不自由者	世界で販売されているObi Robotがこの度日本に上陸しました。Obi Robot（オビーロボット）はユーザーさんの自立心、社会に積極的に参加し、自ら食事を摂る喜びを提供します。 Obi Robotは操作スイッチをセンサー（社外品）など様々なタイプに交換し使用することができるとのことで上陸が待ちどほしくもユーザーの皆様が食べたいかを自分で判断して食事を楽にすることが出来ます。現在日本での販売に向けて取り組んでおり、お取り扱い企業及び販売協力企業の募集を行っております。 Obi Robot youtube サイト https://www.youtube.com/@Meetobirobot
1045	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	電動車いす 移動用リフト 福祉用具全般に関するお知らせ	行政	【エントリー受付中】 パラスポーツ関連製品・障害者・高齢者向け製品の販路開拓を支援！	肢体不自由者 視覚障害者 聴覚障害者 言語障害者 発達障害者 盲ろう者 障害者スポーツ 高齢者 介護者 日用品 利用対象等全般	公益財団法人東京都中小企業振興公社からのお知らせ 【令和5年度 障害者向け製品等の販路開拓支援事業（助成金） エントリー受付中】 パラスポーツ関連や障害者・高齢者向け製品等の製造・販売に取り組み中の中小企業を対象に、展示会出展や自社Webサイト制作などの費用を助成します。（助成上限額150万円） 第2回募集のエンタリー締切は9月12日。 ▼詳細はこちら https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/osei/jigyo/shogaisha.html
1046	2023	要望・アイディア	屋内の移動	歩行器・歩行車 非池関連用具	利用者の家族	屋内移動用の機器	肢体不自由者 家族 介護者	家族の介護をしています。ほぼ寝たきりの状態です。入浴、トイレ、病院への外出の為の移動など家用の重いものもありますが、もっと簡単に移動できればなり、外出の車いすへの乗り換えなどが簡単にできる物はないでしょうか？福祉機器展でありますが、高額だったので、大きくかさばったりして家庭内で使いやすい物ではありませんでした。
1047	2023	要望・アイディア	調理	その他（福祉用具）	学校	「重さ」のわかりやすい「見える化」	視覚障害者 知的障害者 児童	重さを測るときに目盛の上を動く指針を見るのが一般的ですが、動いた指針に合わせたリボン状のもので色が変化するとわかりやすいと思いい商品を探しましたが見つかりませんでした。そんな商品ごらんしありませんか？指針の文字盤よりも直線で針が動くもののほうが、腕に色紙などを貼り付けて見本にしやすいかと思っています。

投稿No.	年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1048	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会2023 Web開催のお知らせ	利用対象者等 全般	障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会2023 Web開催が10月1日～来年1月31日まで開催となります。 出展企業等全93社、障害当事者・支援団体9社、聴覚支援団体3社が出席となります。オンライン上で「問い合わせ」及び「掲示版」機能より大阪・東京会場に来られない方も出展者と意見交換が可能となっておりますので是非ご利用ください。 https://www.techno-aids.or.jp/2023koryukai/web/hall/cms/#tab43_detail また、講演動画の配信もしております。開催中はいつでも視聴が可能となりますので合わせてご覧ください。 https://www.techno-aids.or.jp/2023koryukai/web/hall/cms/#tab33_detail
1049	2023	新製品・技術	衣服の着脱	器具 体位変換器	開発メーカー	三角巾と一体化した衣服『アームスリングケープ』	障体不自由者 高齢者 その他 (片麻痺)、四 (脳血管障害)、四十 十層・五十層、 聴覚断髪・聴覚 損傷、亜脱臼、 骨折、リウマチ 等) 利用対象等 全般	■概要 ・2023年9月末時点で国内外のご購入者が280名を超えました！ ・公益財団法人日本デザイン振興会主催「2024年度グッドデザイン賞」を受賞 https://www.g-mark.or.jp/gallery/winners/9ed4331c9-803d-11ed-at7e-0242ac130002 ・令和四年度「川崎市」2かわさき基準（KS）福祉福祉製品」に認定 https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000149817.html ・令和四年度「東京都中小企業振興公社」「障害者向け製品等の販路開拓支援事業」に採択 https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/fosef/kisyo/rmecal000000dudd-att/R4_shogaishashien.pdf ・令和四年度「東京都立産業技術センター」共同研究 https://www.jit-tokyo.jp/site/tir-news/202305-01-kenkyu.html ■製品概要 ・アームスリング（三角巾、アームホルダー）と一体化したケープです。美しく見えるデザインを追求しました。内袋に腕をゆだねながら、安心して日常生活を送ることができます。傷病回復後もそのまま着用することが可能なリハビリウェアです。 ・この製品は、作業療法士、理学療法士、看護師による監修のもと、脳血管障害（片麻痺）、四十層・五十層、聴覚断髪・聴覚損傷、亜脱臼、骨折、リウマチがある23名の対象者へヒアリングを繰り返すなかで生まれました。 ■主なご購入者様 ・対象者：五十層・四十層（肩関節周囲炎）、聴覚断髪・損傷・聴覚炎、頭部障害後群、骨折（上腕・前腕・肘・手首・鎖骨）、亜脱臼、片麻痺、肩脱臼、重症の痛風、関節リウマチ、膠原病などにより、肩や腕がつかない、たるむ、三角巾やアームスリング（アームホルダー）といった補助具をお使いの方。腕の固定にゆとりとゆとりが求められるリハビリ期の方。 ・そのような方とともにリハビリや介護を行う、ご家族、作業療法士、理学療法士、介護職、看護師の方々。 ■7つの特徴 【首を痛めない】服の生地全体で腕の重さを支えているので首を痛めません【破れない】背中に重さを分散するので、長時間着用しても肩や腕が破れにくい構造です【肩と腕があたらない】秋冬、夏の冷房対策に肩と腕まわりを保温します。冷え性の方にもおススメです【ゆとりゆだねる】内袋に腕をゆだねることができます。肩周りと手や指を出せる開口部により、腕が安定します【片手で着れる】かぶり式でボタン等が無く片手で10秒～1秒で脱着できます【長く着れる】内袋を使わなければ、傷病回復後もオシャレなケープとして着ることができ【ポケットとして使える】内袋は物を入れるポケットにも使えます ■ご購入 - 以下よりご購入いただけます。 《ケアウィルブランドサイト》https://www.carewill.co.jp/ 《アマゾン》https://amzn.to/3vaSk4C 《ヤフー》https://bit.ly/3SYz0RB 《ふるさと納税》https://furusavi.jp/product_detail.aspx?pid=896861 ■製品データ ・メイン素材: ポリエステル 95% ポリウレタン 5% ・素材構成: 95% ポリエステル、5% ポリウレタン

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1050	2023	新製品・技術	日常的な衛生	入浴関連用具 その他(福祉用具)洗濯の自立支援用具	開発メーカー	片麻痺やリウマチ患者と開発。洗濯の自立を支援する『洗濯ネットバッグ』	肢体不自由者 家族 介助者 共用品 その他(認知症) 血管障害 (片麻痺) 関節リウマチ/関節痛 五十肩・四十肩 (肩関節周囲炎) 腱鞘炎 腱板炎、頸肩腕症候群、骨折 (上腕・肘・前腕・肘・手首・鎖骨)、亜脱臼、肩脱臼、重症/利用対象者全般	■概要 ・2023年9月末時点で国内外のご購入者が380名を超えました！ ・公益財団法人日本デザイン振興会主催「2022年度グッドデザイン賞」を受賞 https://www.g-mark.org/gallery/winners/8898 ・令和5年度 東京都中小企業振興公社「障害者向け製品等の販路開拓支援事業」に採択 ・Japan Timesに掲載。海外からの注文も好評 https://www.japantimes.co.jp/life/2023/02/18/style/on-design-omotenashi-travel-awards/ ■製品概要 ・脱衣がこーと一体化した洗濯ネットです。洗濯機、洗濯かごに洗濯ものを” 押し替える” 手間が解消されます。丸く、型崩れしづらい素材のバッグは洗濯機の動きに抗わないので、“線の絡まり” を防止します。 ・なめらかなフラスナー、かばんメーカーならではの布地を縫みにくい縫製、引き手についていたひも状の輪っかを使えば、わずかな力と指の動きでするゝと開閉できます。 ・この製品は、洗濯に生じるストレスを日々感じていらっしゃる脳卒中による片麻痺、リウマチ、肩の傷病がある方々へヒアリングを繰り返しながらで生まれました。だから、どんな人にとっても優しく、使いやすい製品です。 ■主なご購入者様 ・介護者：五十肩・四十肩 (肩関節周囲炎)、腱板炎、頸肩腕症候群、骨折 (上腕・肘・前腕・肘・手首・鎖骨)、亜脱臼、肩脱臼、重症/利用対象者全般 ・家族、作業療法士、理学療法士、介護職、看護師の方々。 ■7つの特徴 ①脱いだ服は自立するバッグへホイッ！そのまま洗濯機で丸洗いでできます ②丸く、型崩れしない形状、適度なサイズなので洗濯・脱水時に服がからみません ③バッグの持ち手をつかんで、最初の洗濯物をまとめて洗濯機から取り出せます ④洗濯後は、片手に掲げ、如水し・吸細の場所までくらくらく運べます ⑤つまみやすぐバッグの丸に合ったフラスナーは小さな動きと小さな力で開閉できます ⑥フラスナーを開ければ、ご自宅、入居先、入浴先のプライバシーが守られます ⑦販売、ご家族で分けて、ジム、ヨガに行くときなどシーンや用途に応じて使い方が楽しめます ■ご購入 以下よりご購入いただけます。 《ケアウィルブランドサイト》 https://www.carewill.co.jp/ 《アマゾン》 https://amzn.to/3PHrDwR 《ヤフー》 https://store.shopping.yahoo.co.jp/carewill/y100002.html 《マクアケ》 https://www.makuaque.com/project/carewill2/ ■製品データ ・サイズ: 縦30cm、横28cm、高さ30cm ・重量: 150g ・素材: ポリエステル

投稿No.	年度	カテゴリ・技術	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1052	2023	新製品・技術	その他(場面)軟骨無形成症	その他(福祉用具) 衣服	その他(シヨップ)	軟骨無形成症、低身長向けの洋服	その他(軟骨無形成症)	■概要 軟骨無形成症の子を持つ母親です。 全国に約5,000人はいると言われている指定難病（No.276）が軟骨無形成症です。 この度、ネットシヨップを立ち上げました。 ■商品概要 軟骨無形成症という病気をこぞって生じていますか？ 平均身長は成人女性で120cm、成人男性で130cm前後だと言われています。四肢短縮で頭が大きく、O脚で上半身と下半身のバランスが悪いので、周りからの視線を重めてしまいます。 骨系統疾患の中では代表的なものになり、特有の体形から背骨狭窄症や中耳機能障害など、いろいろな症状と向き合い、日々戦っています。 【引用URL】 日本小児内分泌学会 http://jspe.unin.jp/public/nankotuh.html つくしの会 https://tsukushinokai.net/achondroplasia/detail/ 生活する上で困ることのひとつに、衣服についての問題があります。 軟骨無形成症の方には、市販のサイズ表記が意味を持ちません。もちろん市販の服は手を加えなければ着用が出来ず、成人の場合20cmほど切ってしまうとデザインも変わり体に合わない、ただ着られればよいという服はますます人の視線を集めてしまうのです。そこで、オーダーのように一人一人にぴったりの服を作りたいと思いますが、衣服の長さを調整できることや、少し立体的にすることで着心地よく、体形にあったデザインの服、軟骨無形成症の方にもう少し寄り添える服に近づけるのではと考えました。 ※実用新案に登録されており 【実登 3246017】 / 立体型のスポン 今後、同じ病氣の方々と修正しながら、より良い製品を作り上げていくシヨップにしたいと思っています。 軟骨無形成症の方、そのご家族さま、そしてお知り合いや軟骨無形成症の方をお見かけの際は、こちらのシヨップをご紹介いただけると有り難いです。 どうぞ、よろしく願いいたします。 【shop】 GAGO-276- https://gago-276-shop.stores.jp/
1053	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	電動車いす 移動用 リフト福祉用具 全 般に関するお知らせ	行政	【エントリー受付 中】 パラスポーツ関 連製品・障害者・高 齢者向け製品の販路 開拓を支援！	肢体不自由者 視覚障害者 聴 覚障害者 発達 障害者 盲ろう 者 障害者ス ポーツ 高齢者 介助者 利用対 象等 全般	公益財団法人東京都中小企業振興公社からのお知らせです 【令和5年度 障害者向け製品等の販路開拓支援事業（助成金） エントリー受付中】 パラスポーツ関連や障害者・高齢者向け製品等の製造・販売に取り組みむ都内の中小企業を対象に、展示会出展や自社Webサイト制作などの費用を助成します。（助成上限額150万円） 第3回募集分のエントリー締切は11月10日。今年度最後のチャンスです！ ▼詳細はこちら https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyo/shogaisha.html
1055	2023	お知らせ	コミュニケーション	緊急伝達装置 緊急 通報装置 福祉用具 全般に関するお知 らせ	テクノエイド協 会	「情報アクセシビ リティ好事例2023」 福祉製品・サービス の募集（総務省IP）	利用対象等 全般	総務省では、アクセシブルなICT機器・サービスの普及促進を目的に、情報アクセシビリティに優れたICT機器・サービスを、「情報アクセシビリティ好事例2023」として募集することとしましたので、お知らせします。 詳細は、以下の総務省ホームページをご覧ください。 https://www.soumu.go.jp/menu/news/s-news/01/rvutsu05_02000156.html
1056	2023	お知らせ	衣服の着脱	その他(福祉用具) 衣服 くつ	個人	国立障害者リハビリ テーションセンター 障害者通関イベン ト、国リハコレク ション2023のご案内	肢体不自由者	国立障害者リハビリテーションセンターのイベント紹介です。 ご関心がありましたら、以下、ご覧ください。参加無料です。 国立障害者リハビリテーションセンター 障害者通関のイベント 「丸山正樹さん特別講演」（動画）、「国リハコレクション2023」（動画で展示説明）のお知らせ http://www.rehab.go.jp/shogaishashukan2023/ 国リハコレクション2023のサイト 車いすイベント、ロングコート・パーカー、ズボン・くつ http://www.rehab.go.jp/ri/event/fashion-new/2023/ 国リハコレクション参考 「動画で紹介！国リハの開発品・制作品」に「国リハコレクションの作品」の紹介 http://www.rehab.go.jp/kanribu/product/

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1057	2023	お知らせ	その他(場面)自立支援	その他(福祉用具) 支援機器 福祉用具全般に関するお知らせ	個人	ニーズ&アイデアフォーラム2023 第10回成果発表会のご案内	肢体不自由者 視覚障害者 聴覚障害者 発達障害者 その他(ポリオ後症候群)	医療・福祉系、デザイン系、工学系の学生の協働で、障害のある人のニーズを基に、その解決法を探り、アイデアを考えて形にして発表します。 今回は、対面形式とオンラインで開催します。 日時 : 2023年12月23日(土) 13:30-17:20 会場 : 北千住マリイ 11階 THEATRE1010 (シアターセンジュ) ギャラリーB 13時間場 最寄り駅: 北千住駅 西口 4番出口直結 情報保障: 要約筆記 参加費 : 無料 詳細プログラムは、以下のURLに掲載します https://n-i-f.jp/news/ 会場案内は以下をご覧ください。 https://www.rehab.go.jp/ri/event/NIF2023/
1058	2023	お知らせ	その他(場面)自立支援	その他(福祉用具) 支援機器	個人	追加情報 ニーズ&アイデアフォーラム2023 第10回成果発表会のご案内	肢体不自由者 視覚障害者 聴覚障害者 発達障害者 その他(ポリオ後症候群)	ニーズ&アイデアフォーラム2023で、対象となった障害やニーズ、およびゲストスピーカーの追加情報です 【ニーズ(障害)】 A: 泡で出てくる液体ハミガキを舌へ塗布したい、「ビューオーラ」をうまく舌につけられない(頸随損傷) B: スマホゲームでボイスオーバー(視覚障害) C: 飲食店での注文をしたい(視覚障害)(タッチパネル式が不便) D: 運転中に緊急車両の接近に気が付きたい。(聴覚障害) E: 普段使っているデザイン・重量のイヤーマフ製作(発達障害) F: 電動車いすのバッテリー交換に要する力を軽減し外出をスムーズにしたい!(肢体機能(ポリオ後症候群)) G: 24時間のなかで、少しでも楽になるものがほしい。(肢体機能(ポリオ後症候群)) [ゲストスピーカー] ・エルデサンプー デルガルバヤル氏 (NTTクラリティ 視覚障害当事者) ・和田 真氏 (国リハ 発達障害研究室長) ・三上 信剛氏 (一般社団法人日本作業療法協会・作業療法士)
1059	2023	要望・アイデア	場面全般に関するお知らせ	その他(福祉用具) イヤーマフ 福祉用具全般に関するお知らせ	利用者の家族	自閉症 聴覚過敏 専用のイヤーマフの開発 発達障害	発達障害者	2023年7月に聴覚過敏専用のイヤーマフの開発希望を投稿しました。日常生活に苦手な音が多く急にうるさく音や声を聞いたり、苦手な音がある場面ではイヤーマフをおくってしまう自閉症でイヤーマフが無いと外出できないので使用しています。具体的には、ハイウオークの走行時のマフラー音、建設工事現場の金属音やドリルや重機の音、風船が破れる音、こどもの泣き声、緊急車両のサイレンなどで聴覚過敏を保護して日常生活でハッピーになることを予防する目的でイヤーマフを使用します。多くの市販の耳栓は音の遮断効果が低く、遮断効果はほとんどない自閉症専用と謳われているイヤーマフでも遮断効果が低くハジコンの打鍵音がなったり掃除のほうき音がする音が軽減される程度であり苦手な音は遮断されなかった。NRR30の工業用イヤーマフを購入したところ何とか遮断効果があったが、NRR30でも道路工事や建設工事などの器具の音の遮断効果が足りなくももう少し遮断効果が欲しいです。イヤーマフ自体はインターネットでたくさん売っているが、福祉用具では適切なものがなく不便を感じている。
1060	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	令和6年度「障害者自立支援機器等開発促進事業」の公募説明会の開催について	利用対象等全般	本事業は、障害者等の自立や社会参加の促進の観点から、メーカーがいさく、実用的な機器の開発並びに製品化が進まない障害者自立支援機器について、企業等が障害当事者及び医療福祉専門職等と連携して開発する取組を行い、障害者等のニーズを反映した実用的な支援機器の開発及び製品化並びに普及を促進することを目的とするものです。 本事業に係る公募説明会を開催いたしますので、参加を希望される企業等におかれましては、以下の厚生労働省HPで確認いただき、期日までに申し込みをお願いいたします。 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_36729.html
1061	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	令和6年度「ALS基金」2024年度「ALS基金」研究奨励金交付プログラム公募のご案内	その他(ALS)	日本ALS協会では、毎年「ALS基金」より研究テーマを公募し、研究奨励金を交付しています。 2024年度年度の公募が始まりましたので、詳細は以下のURLをご確認ください。 https://alsjapan.org/5955/ O公募要綱 https://view.officeapps.live.com/od/view.aspx?src=https%3A%2F%2Falsjapan.org%2Fwp-content%2Fuploads%2F2023%2F12%2Fae78bd25d9ac96e66b473cb17bc9-1.doc&wdOrigin=BROWSELINK O様式 https://view.officeapps.live.com/od/view.aspx?src=https%3A%2F%2Falsjapan.org%2Fwp-content%2Fuploads%2F2023%2F12%2F6bbe60d9de13ade812c6df47bde24b7.doc&wdOrigin=BROWSELINK 【お問い合わせ先】一般社団法人 日本ALS協会 事務局 TEL : 03-3234-9155 FAX : 03-3234-9156 Eメール : jalsa@alsjapan.org

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1062	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会	令和6年度「障害者自立支援機器等開発促進事業」開発企業等の公募について（厚生労働省）	利用対象等全般	本事業は、障害者の自立や社会参加の促進の観点から、マーケットが小さく、実用的な支援機器の開発及び製品化が進まない障害者自立支援機器について、企業等が障害当事者及び医療福祉専門機関等と連携して開発することを目指すものです。 反映した実用的な支援機器の開発及び製品化並びに普及を促進することを目的とします。 本事業により、障害者自立支援機器の開発に取り組み企業等の募集が開始されました。 応募される企業等におかれましては、下記の厚生労働省ホームページをご覧ください。 ◆ 令和6年度「障害者自立支援機器等開発促進事業」開発企業等の公募について https://www.rnhlw.go.jp/sf/seisakunisuiter/bunya/0000151261_00013.html 応募書類等はこちらからご確認ください。
1063	2023	新製品・技術	屋外の移動	その他(福祉用具) 衣服	開発メーカー	雨の日のひざ掛け rain Blanket の オーダーを承ります	肢体不自由者 高齢者	こんにちは、 衣服のオーダーを承ったり、企画販売をしている studio fuku の廣瀬です。 車いすで通勤されている方から、雨の日に足元（高価な革製の装具）が濡れないよう、膝掛けを作ってほしいとのご要望がありました。 約1年間の試作、試用を経て、雨風の強い日にもめくれにくいひざ掛けが完成しました。 （このお客様の、市販のレインコート（上衣のみ）とひざ掛けを組み合わせて使用されます） 「雨の日のひざ掛け」が完成するまでの経緯はこちら https://note.com/studio.fuku/n/n418d6d892eed 「雨の日のひざ掛け」の仕様まとめはこちら https://note.com/studio.fuku/n/n42f1117b1f5c4 車いす用のレイングッズの選択肢のひとつとして、便利に使っていただければ幸いです。 studio fuku では「雨の日のひざ掛け rain blanket」の製作を承ります。雨本陣のなかから、お好きな色をお選びいただけます。 また、違うデザインでの製作、衣服に関する「こんなものが欲しい」というご相談も承ります。 どうぞお気軽にご相談ください。 メール kazuko@writer.jp ホームページ https://www.studiofuku.jp
1064	2023	新製品・技術	屋内の移動	歩行器・歩行車	個人	片足歩行支援具	肢体不自由者	松澤村と重いすの問を埋める、ケツパレと名付けた片足歩行補助具です。 体重をサドルに預けるので疲れず、ブレーキ付きハンドルで安全に1回りができます。 室内でも野外でも使えます。 https://youtube/M1DXVHNNx-A 連絡先：morokaakira@outlook.jp
1065	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会	総務省「デジタル・ディハイト解消に向けた技術等研究開発」令和6年度対象事業の公募	利用対象等全般	高齢者・障害者向けの新たなCT機器・サービスの研究開発に対する補助金 総務省では、令和6年度における「デジタル・ディハイト解消に向けた技術等研究開発」対象事業を公募します。 【事業概要】 補助対象：先進的な研究開発であって、その成果によって高齢者・障害者に有益な新しい通信・放送役務をもたらすもの、又は現在行われている通信・放送役務を高度化し、高齢者・障害者に有益なものとする情報通信機器等の研究開発を行う民間企業等 募集期間：令和6年2月1日（木）から同年3月29日（金）まで 補助額：補助対象事業を行うために必要な直接経費の1/2に相当する額（上限3,000万円（身体障害者等支援研究開発に該当するものは上限4,000万円））及び間接経費 【報道資料】 https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu05_02000158.html 【過去の採択案件】 https://www.soumu.go.jp/main_soski/joho_tsusin/b_free/kokonolisseki.html 【お問い合わせ先】 総務省 情報流通行政局 情報活用支援室 担当：奥石、金内 E-mail：digital_divide@soumu.go.jp TEL：03-5253-5685

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1066	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	NICT 令和6年度「情報/バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金」の公募	利用対象等全般	国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) エヌアイシーティー、理事長: 徳田 英幸) は、令和6年度「情報/バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金 (通称: 情報/バリアフリー事業助成金)」について、下記のとおり公募を開始します。 【助成対象】 本助成金の対象は、身体障害者のコミュニケーション確保や情報アクセシビリティ、映像視聴や芸術鑑賞、行動等を支援するため、情報通信技術 (ICT) を活用した通信・放送役務の提供又は開発 (開発のみ目的とするものは対象外) であって、身体障害者の利便の増進に著しく寄与する事業です。 放送番組に字幕や手話映像等を付与するものは、別の助成金の対象であるため、本助成金の対象外です。 【応募期間】 令和6年2月1日 (木) ~ 令和6年3月28日 (木) 17:00 (必着) 【注】 期限を超えて届く申請 (郵送含む) については、受理しません。 詳しくは、以下のURLよりご確認をお願いします。 https://www.nict.go.jp/press/2024/02/01-1.html デプロイメント推進部門 情報/バリアフリー推進室 丸山 誠二、中野 真生 Tel: 042-327-6022 Fax: 042-327-5706 E-mail: kakusa.att@nict.go.jp
1067	2023	新製品・技術	その他(場面) 体重測定	その他(福祉用具)	開発メーカー	寝たまま体重測定	肢体不自由者	マット型の体重計の開発を検討しています。ベッドと寝たきりの方の方の間に体位を変えながらマットを動かす、空気を入れて膨らますことにより空気圧により体重計測を行う装置です。 在宅や、介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設等で、寝たきりの方 (要介護4や5) の体重測定をするニーズはあるのでしょうか？ ニーズがある場合は、どのような目的でしょうか？ 日常の健康管理や、経管栄養の方の体重増減管理、着取り時の指環等でしよつか？ また、既存の解決策として、車いす用の体重計があると思いますが、そちらで解決できているのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか？ 皆さんの意見をいただければ幸いです。
1068	2023	新製品・技術	屋外の移動	その他(福祉用具) 衣服	開発メーカー	「やわらかブーツ」をご紹介します	肢体不自由者 高齢者	こんにちは、衣類のオーダー、企画販売をしているstudio fukuの廣瀬です。 今回は「やわらかブーツ」をご紹介します。 みなさんは靴をどのように履き分けていますか？ 服とのコーディネートや外出目的、外出先、そしてお天気などでしょうか。 今回、この装置による下肢運動障害があり、足元は短下駄装束を装着して車いすで外出される方からご相談をいただきました。 週末はこのラフなスタイルで家族との外出では装束を外して出かけるそうなのですが、市販の靴を履いていると時間が経つうちに当たって痛みがでるそうです。 そこで、リファクツした外出用の、足が当たらない「やわらかい靴」が欲しいとご相談を受け、「やわらかブーツ」を製作いたしました。 製作の経緯と主な仕様はこちらでご覧いただけます。 https://note.com/studio_fuku/n/n5073e6bf8b29 studio fukuでは「やわらかブーツ」の製作を承ります。 また、衣服に関する「こんなものが欲しい」というご相談も承ります。 どうぞお気軽にご連絡ください。 メール kazuko@written.jp ホームページ https://www.studiofuku.jp
1069	2023	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	経済産業局「令和6年度成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech事業)」の公募について	利用対象等全般	中小企業庁で、令和6年度成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech事業) の公募を開始しました。 Go-Tech事業は、中小企業者等が大学・公設試等と連携して行う事業化につながる可能性の高い研究開発等を最大3年間支援します。 ■公募期間 令和6年2月16日 (金) ~ 令和6年4月16日 (火) 17時 ■補助事業期間 2年度又は3年度 ■補助率 中小企業者等: 2/3以内、大学・公設試等: 定額 (2/3以内が適用される場合あり) ■補助金額 通称: 単年度4,500万円以下、3年間合計で9,750万円以下 出資獲得件: 単年度1億円以下、3年間合計で3億円以下 詳しくは、中小企業庁ホームページをご確認ください。 https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2024/240216kobo.html 中小企業庁ホームページ 問い合わせ先: 主たる研究実施場所の都道府県を担当する経済産業局 ※詳しくは、上記ホームページをご確認ください。

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
993	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	厚生労働省 令和4年度「障害者自立支援機器等開発促進事業（二次）」開発企業等の公募について	利用対象等全般	本事業は、障害者の自立や社会参加の促進の観点から、マーケットが小さく、実用的な機器の開発及び製品化が進まない障害者自立支援機器について、企業等が障害当事者及び医療福祉専門職等と連携して開発することを目的とするものです。 本事業により、障害者自立支援機器の開発に取り組み企業等を以下により募集します。その中で、本事業へ応募される企業等におきましては、以下の「障害者自立支援機器等開発促進事業公募要項」に基づき、令和4年5月16日（月）までに、下記提出先へ応募書類を提出してください。 ◆公募期間 4/22（金）～5/16（月） ◆公募要項や応募書類については、厚生労働省HPよりご確認ください。↓ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000151261_000001.html ◆公募説明会資料はwebで配信しております。 https://www.youtube.com/watch?v=oolMSLjh742s 詳細はHP掲載内容をよくご確認ください。上記応募いただけますと幸いです。
994	2022	新製品・技術	コミュニケーション	その他福祉用具 スマートフォンホルダー	開発メーカー スマートフォンホルダー	片手だけでも使いやすいスマートフォンホルダー	肢体不自由者	elasticX（えらすちっく）の特長 スマートフォンが片手で使える画期的ホルダー！ 片手しか使えない身体障害者のために開発したスマートフォンホルダーです。 身体障害者だけでなく健康者でもスマートフォンを片手使いしている方に最適なホルダーです。 特長 ▶片手でスマートフォンを使える。 ▶スマートフォンを柔らかく、そしてしっかりと保持できる ▶スマートフォンを片手で使っても、誤って落下させる心配が全く無い ▶スマートフォン画面上で親指を広い範囲で動かせる ▶フラットで簡素な構造であり、極めて薄くて軽い。スマートフォンに取り付けてもバッグやポケットからの出し入れのときじゃまにならない ▶ワイヤレス充電ができる ▶スマートフォンの裏側の自由な位置に貼り付けるだけ 価格は1,000円/個です。 YOUTUBEの動画で“elasticX”をご紹介します⇒https://youtube/_2gvgVEHv4 お問い合わせは、singlehand@mbr.nifty.com へどうぞ。
995	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	（募集終了）厚生労働省 令和4年度「障害者自立支援機器等開発促進事業（二次）」開発企業等の公募について ※締切日延長	利用対象等全般	◆公募期間 ～5/23（月） ◆公募要項や応募書類については、厚生労働省HPよりご確認ください。↓ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000151261_000001.html ◆公募説明会資料はwebで配信しております。 https://www.youtube.com/watch?v=oolMSLjh742s 詳細はHP掲載内容をよくご確認ください。上記応募いただけますと幸いです。
996	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	行政	つくば市「障害者向け技術の検証実験フィールド」を提供します！	肢体不自由者 視覚障害者 聴覚障害者 高招 害者 知的障 害者 精神障 害者 発達障 害者 内 部障害者 児童	つくば市では、Society 5.0の実現に向けた技術やアイデアを活用したトライアル（実証実験）を全国から公募します。 本年度は、2つの部門で提案を募集、優れた提案について、市がトライアル経費の支援（最大100万円）を始め、全体的にサポートいたします。 【公募期間】 令和4年5月12日（木）～令和4年6月10日（金） 17時15分 【募集部門】 ①課題設定部門 テーマ：「誰もが幸せを感じるスマートシティ・テクノロジー」 ②フリー部門 課題：障害者・障害児の能力発揮をサポートする科学技術 本市の課題解決につながる提案 ○支援内容 費用負担（上限100万円）、施設やモニターのあっせん、専門家からの助言機会の提供など ○提案対象者 教育機関（中学校～）、企業（個人事業主も可）、研究機関 ※詳細については、下記URLをご覧ください。 https://www.city.tsukuba.lg.jp/shisei/torkumi/kagaku/1017549/1017546.html

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
997	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	贈書者自立支援機器「ニーズ・シーズ・マッチング交流会2022」開催及び出席者募集開始のお知らせ	利用対象等全般	ニーズ・シーズ・マッチング交流会2022を開催します。 本交流会では、贈書当事者等のニーズを的確に捉えた支援機器開発となるよう、ニーズ（使う人）とシーズ（作る人）の交流を深める取り組みを行うものです。 交流会では贈書者のための自立支援機器の展示、デモンストレーション、意見交換を実施します。また、併催イベントとして、各種セミナーやワークショップも実施します。 【交流会開催日程】来場料無料 入退出自由 ・Web開催 令和4年10月 1日（土）～令和5年1月31日（火） テクノエイド協会HP内Web交流プラットフォーム ・大阪会場 令和4年11月 28日（月）～30日（水） OMM（大阪マーチャンダイズ・マート） ・東京会場 令和4年12月 14日（水）～16日（金） 東京都立産業貿易センター浜松町館 〇ニーズ・シーズ・マッチング交流会2022専用サイト http://www.techno-aid.or.jp/needsmatch/index.shtml 〇出席者の募集【6月30日（木）16:00まで】 出展費用無料 出展要項 http://www.techno-aid.or.jp/needsmatch/file04/syuttenyokou2022.pdf https://docs.google.com/forms/d/e/1FAbQLSrr353if1CWdYOYOhSyI4ckKF31psbZ0c9Jsbf1OWgX6Layg/viewform
999	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	2022年度 SBIF推進プログラム福祉課題の新規公募開始のお知らせ（NEDO）	利用対象等全般	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」）では、2021年度まで、「課題解決型福祉用具実用化開発支援事業」として実施されていたものが、2022年度より、SBIF推進プログラムの研究開発課題の一つとして行うことになりました。応募される企業等においては、下記のページをご覧くださいますようお願いいたします。 公募期限：令和4年6月27日（月）正午まで 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）※別ページに飛びます https://www.nedo.go.jp/koubou/CA2_100359.html

年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1000	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具に関するお知らせ	その他(公的機関)	【第1回・申請受付中】ハラスメント関連製品、障害者・高齢者向け製品の販路開拓を支援します	肢体不自由者 視覚障害者 聴覚障害者 言語障害者 知的障害者 精神障害者 発達障害者 中高齢者 障害者 若年者 内部障害者 障害者 スポーツ 高齢者 児童 家族 介護者 障害者 介助者 就労・就学 共用品 利用対象等全般	公益財団法人東京都中小企業振興公社からのお知らせ 【障害者向け製品等の販路開拓支援事業】 都内中小企業が開発したハラスメント関連の製品や障害者・高齢者向け製品等の販路開拓を促進するため、国内外の展示会出展やECサイト・自社WEBサイトに活用に関する費用の一部を助成します。 現在第1回の申請受付中です！ 申請エントリー期間：5月16日(木)～6月17日(金) 申請書提出期間：5月16日(木)～6月24日(金)（公社HPからの申請エントリーが必要です） ■特待■ ①ハラスメント製品、障害者・高齢者向け製品に特化した販路開拓助成金です ②中小企業団体、特定非営利活動法人、一般社団法人、一般社団法人まで幅広い法人の申請が可能です ③年4回の募集があり、令和6年3月までの展示会が助成対象です（第4回にて採択された場合） ④オンライン展示会出展経費・ECサイト初期登録料・自社WEBサイト制作・改修も助成対象経費に含まれます 詳細・申請エントリーはこちら https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyoshogaisha.html ■事業詳細■ 助成対象者 都内中小企業者（会社及び個人事業主）、中小企業団体、特定非営利活動法人、一般社団法人、一般社団法人等 申請区分 (1) ハラスメント関連の製品等 (2) 障害者・高齢者向け製品等 対象経費 (1) 展示会等参加費（国内・海外・オンラインのいずれも可） (2) ECサイト出店初期登録料 (3) 自社webサイト制作・改修費 (4) 販売促進費 ①印刷物製作費 ②PR動画制作費 ③広告費 助成限度額 150万円 助成率 3分の2以内 助成対象期間 第1回 令和4年9月1日から令和5年9月30日まで 第2回以降のスケジュールや募集要項・申請書様式等については 公社ホームページからダウンロードしてください 事業詳細ページ： https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyoshogaisha.html
1001	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協	FABRIK online : Japan + France ケア・リハビリ分野のものづくり成果発表会のご案内	利用対象等全般	日本とフランス間で協力して東京で開催するインクルージブ・メイカソン“FABRIKARIUM TOKYO 2023” の開催に向け、“FABRIK” online : Japan + France”と題して、ケア・リハビリ分野のものづくり成果発表会を開催します。 障害者とともにある方の「できるを増やす」メイカソン*の試みを通して「ともにつくる社会」の実現を目指します。 【日時】2022年6月17日(金) 17:30~20:00 (日本時間) 【参加料】無料 オンライン Zoom にて仏同時通訳 【イベント概要】 ・ FABRIKARIUM 概要説明 ・ ケア・リハビリものづくり事例発表 (フランスから53件) ・ ケア・リハビリものづくり事例発表 (日本から53件) ・ FABRIKARIUM TOKYO 2023 に参加予定のエートノワアのご紹介 詳細はhttps://fabrikarium-tokyo.org/ 参加申し込みはこちら https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSsbhuzAx5E-WtcaX9D-h4FYGGMDLCWRHPhAwgnQBcJvKesOng/viewform

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1006	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具、車いす、福祉用具全般に関するお知らせ	行政	【第3回】パラスポーツ関連製品、障害者・高齢者向け製品の販路開拓を支援します	利用対象等全般	公益財団法人東京都中小企業振興公社からのお知らせ 【障害者向け製品等の販路開拓支援事業】 都内中小企業が開発したパラスポーツ関連の製品や障害者・高齢者向け製品等の販路開拓を促進するため、国内外の展示会出展やECサイト・自社WEBサイト活用に関する費用の一部を助成します。 現在第3回の申請エントリーを受け中です！ 第3回申請エントリー：9月1日（木）～10月17日（月） 申請書提出期間：9月16日（金）～10月24日（月） （会社HPからの申請エントリーが必要です） ■特設ページ ①パラスポーツ製品、障害者・高齢者向け製品に特化した販路開拓助成金です ②中小企業団体、特定非営利活動法人・一般財団法人・一般社団法人の申請が可能です ③年4回の募集があり、令和6年3月までの展示会が助成対象です（第4回にも採択された場合） ④オンライン展示会出展経費・ECサイト初期登録料・自社WEBサイト制作・改修も助成対象経費に含まれます 詳細・申請エントリーはこちら https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigy/shogaisha.html ■事業詳細 都内中小企業者（会社及び個人事業主）、 助成対象者 中小企業団体、特定非営利活動法人、一般財団法人、一般社団法人等 申請区分 （1）パラスポーツ関連の製品等 （2）障害者・高齢者向け製品等 対象経費 （1）展示会等参加費（国内・海外・オンラインのいずれも可） （2）ECサイト出店初期登録料 （3）自社webサイト制作・改修費 （4）販売促進費 ①印刷物製作費 ②PR動画制作費 ③広告費 助成限度額 150万円 助成率 3分の2以内 助成対象期間 第3回 令和5年1月1日から令和6年1月31日まで 第4回以降のスケジュールや募集要項・申請書様式等については 公社ホームページからダウンロードしてください 事業詳細ページ： https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigy/shogaisha.html

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1009	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉入浴関連用具 福祉用具全般に関するお知らせ	行政	【年度最終募集】ハラスポーツ関連製品、障害者・高齢者向け製品の販路開拓を支援します	利用対象等全般	公益財団法人東京都中小企業振興公社からのお知らせ 【障害者向け製品の販路開拓支援事業 第4回募集】 都内中小企業が開発したハラスポーツ関連の製品や障害者・高齢者向け製品の販路開拓を促進するため、国内外の展示会出展やECサイト・自社WEBサイト活用に関する費用の一部を助成します。 現在年度内最終となる第4回の申請エントリーを受け付中です！ 第4回申請エントリー：11月1日（火）～12月16日（金） 申請書提出期間：11月16日（火）～12月23日（金） （公社HPからの申請エントリーが必要です） ■特徴■ ①ハラスポーツ製品、障害者・高齢者向け製品に特化した販路開拓助成金です ②中小企業団体、特定非営利活動法人、一般財団法人、一般社団法人まで幅広い法人の申請が可能です ③オンライン展示会出展経費・ECサイト初期登録料・自社WEBサイト制作・改修も助成対象経費に含まれます 今回は来秋の展示会シーズンも助成対象期間に含まれます。 展示会の規模は問わず、学会併設の展示会への出展等も対象となりますので、来年の予定を検討し始めた皆様、ぜひご検討ください！ 詳細・申請エントリーはこちら https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyos/shogaisha.html ■事業詳細■ 助成対象者 都内中小企業者（会社及び個人事業主）、 中小企業団体、特定非営利活動法人、一般財団法人、一般社団法人等 申請区分 (1) ハラスポーツ関連の製品等 (2) 障害者・高齢者向け製品等 対象経費 (1) 展示会等参加費（国内・海外・オンラインのいずれも可） (2) ECサイト出店初期登録料 (3) 自社webサイト制作・改修費 (4) 販売促進費 ①印刷物製作費 ②PR動画制作費 ③広告費 助成限度額 150万円 助成率 3分の2以内 助成対象期間 第4回 令和5年3月1日から令和6年3月31日まで 募集要項・申請書様式等については 公社ホームページからダウンロードしてください 事業詳細ページ： https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyos/shogaisha.html
1010	2022	要望・アイディア	屋外の移動	電動車いす	利用者	電動車椅子 バックモニター 1万円以内で付ける。	肢体不自由者	こんにちは！！ 私も付けています。快適ですよ。後ろが臭えないってポイント高いですからね。 https://blog.goo.ne.jp/hkousi/e/c2169647644f46bdc3b42b7d2b4aad8 バックモニター付き車椅子 初号機！ https://blog.goo.ne.jp/hkousi/e/c6316f54b547e21a17fc17beb0dccb 車椅子専用バックモニター4号機登場！
1011	2022	新製品・技術	衣服の着脱	その他(福祉用具)	その他	ファスナーつまみの販売を開始しました	肢体不自由者 高齢者 児童	こんにちは。 衣服のオーダーを承ったり、企画販売をしている studio fuku の展覧です。 手の動きが不自由だと、ファスナーの開け閉めに苦労することがあります。 そんなとき、ファスナーの引き手に取り付けて、操作をしやすくする「ファスナーつまみ」の販売を始めました。 指先で掴みやすい大きさ、形のものに二重環を取り付けてあります。 この二重環をファスナーの引き手に取り付けて、使用していただくものです。 ファスナーつまみの本体はプラスチックです。取り付け部に金属や布を使用しています。 ラウンド型とリボン型の2種類があります。ラウンド型は、銀色・水色・紺色の3色、リボン型はピンク色の1色です。 ファスナーつまみをつけることで、ファスナーの開け閉めがしやすくなり、助けを借りずに自分で操作できるようになれば、と思います。 どうぞご検討ください。 ファスナーつまみ (ラウンド型) https://kazuko086.stores.jp/items/63689e5fab35c31c773b34e ファスナーつまみ (リボン型) https://kazuko086.stores.jp/items/6368a01ac15c5a6e967e6413
1012	2022	要望・アイディア	屋内の移動	その他(福祉用具) 手すり	行政	移動式手すり	高齢者 利用対象等全般	家族の要望もあって、部屋中に簡易式の手すりを20個も置いていたような状態の利用者さんが居ます。転倒防止の為の手すりでは転倒ということも起こりますので、例えば室内の壁にシェール状の移動でき自由に動かせる手すりを設置するといったシェールがある範囲で自由に動かせる手すりがあったらいいように思います。

投稿No.	年度	カテゴリー	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1013	2022	要望・アイディア	屋外の移動	福祉用具全般に関するお知らせ	利用者	かばんもイデです！	利用対象者等全般	https://blog.google.jp/hkoi/s/e69f9e2d446d8181ebd75d43e7550537e これを見て私はページ・深縁を作りました。
1014	2022	要望・アイディア	排泄	排泄関連用具	福祉専門職	お洒落な尿瓶（しびん）	肢体不自由者 高齢者 児童	利用者様から要望があり投稿しました。 尿瓶を使うのが欲しいとのこと。 お洒落なもので、カバーなどで飾れない物なので、素材自体にカラーや柄があると確かります。 いい物はないでしょうか？
1015	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ		介護ロボット全国フォーラムの開催について	利用対象者等全般	介護ロボット全国フォーラムを3年ぶりに会場開催いたします。 是非ともご来場いただければと思います。 https://www.techno-aids.or.jp/robot/jigvoshtml#tab40_detail 開催日 令和5年1月27日（金）11:00～16:30TOO有明（東京都江東区有明） 4階コンベンションホール WESTおよびEASTホール https://www.toc.co.jp/saiji/ariake/ **テクノロジーを活用した未来の介護** 「介護ロボット全国フォーラム」は、既に商品化あるいは、近々商品化を予定している介護ロボット等のデモンストラーションをする機会を設けるとともに、厚生労働省と経済産業省が連携して行う介護ロボットに係る各種事業の進捗報告を行い、さらには開発・普及に向けた先駆的な取組事例の紹介等を行います。 高齢者や障害者の在宅および施設サービスに従事される方は勿論のこと、地域で普及を目指す行政の方々、この分野への新規参入や機器開発を検討されている企業・研究機関の皆様におかれましては、是非ともご参加いただければ幸いです。 今年度は、最新機器の体験やデモを可能とする会場開催を基本としますが、シンポジウムにつきましては、会場での相談と合わせて、オンラインによるリアルタイム配信も行います。 テクノエイド協会・企画部
1016	2022	新製品・技術	日常的な衛生	車いすその他福祉用具車いすパーソン	開発メーカー	スマートフットレスト	肢体不自由者 内部障害者 高齢者 介助者 利用対象者等全般	スマートフットレスト（国産特許出願中）は、足だけで簡単に操作ができるので、フットレストの簡単な操作に介助を必要としない方が介助不要となる可能性がります。また、フットレスト部分はわずかな力で踏め上げると、あとはハズレる力で半自動で開けるので、フットレストの上げ下げ不足によって脚をひっかけで発生する、皮下出血や、転倒事故を回避できます。さらに、手を触れないことから衛生的で、新型コロナウイルス対策など感染予防にも効果的です。 紹介動画： https://youtube.com/SahK1dTL20 企業HP： https://www.hearbm2000.com/
1017	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会	厚生労働省 令和5年度「障害者自立支援機器等開発促進事業」開発企業等の公募開始	利用対象者等全般	本事業は、障害者等の自立や社会参加の促進の観点から、メーカーだけでなく、実用的な機器の開発及び製品化が進まない障害者自立支援機器について、企業等が障害者及び医療福祉専門職等と連携して開発する取組に補助を行い、障害者等のニーズを反映した実用的な支援機器の開発及び製品化並びに普及を促進することを目的とするものです。 本事業により、障害者自立支援機器の開発に取り組み企業等を以下により募集しますので、本事業へ応募される企業等におきましては、以下の「障害者自立支援機器等開発促進事業公募要項」に基づき、令和5年2月10日（金）までに、下記提出先に応募書類を提出ください。 ◆提出期日 令和5年2月10日（金） ◆公募要項や応募書類については、厚生労働省HPよりご確認ください。↓ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000151261_000111.html ◆公募説明会資料 https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001034348.pdf ◆公募質問回答集 https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001034351.pdf 詳細はHP掲載内容をよくご確認ください。ご応募いただけますと幸いです。

投稿No.	年度	カテゴリ	場面	福祉用具	記入者の区分	話題名	利用対象者等	投稿内容
1018	2022	お知らせ	場面全般に関するお知らせ	福祉用具全般に関するお知らせ	テクノエイド協会のテクノエイド協会のテクノエイド協会	令和5年度「情報バリアフリー通信」放送後援提供・開発推進助成金」の公募について	利用対象等全般的に利用対象者等	国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT、理事長：磯田 英寿）は、令和3年度における情報バリアフリー事業助成金に係る助成対象事業者の公募を下記のとおり開始します。 1. 目的 本助成金は、身体障害者のための通信・放送業務の提供又は開発に必要な資金について、NICTが予算の範囲内で必要な助成措置を講ずることにより、通信・放送業務の利用に関する身体障害者の利便の増進に資することを目的としています。 2. 助成対象 本助成金の対象は、身体障害者のコミュニケーション確保や情報アクセス、映像視聴や芸術鑑賞、行動等を支援するため、情報通信技術（ICT）を活用した通信・放送業務の提供又は開発（開発のみ目的とするものは対象外）であって、身体障害者の利便の増進に著しく寄与する事業です。 3. 助成対象経費及び助成金の額 放送番組に字幕や手話映像等を付与するものは、別の助成金の対象であるため、本助成金の対象外です。 本助成金の対象となる経費は、助成対象期間（即成金の交付決定日からその年暮末日まで）において発生かつ支出された経費であって、助成対象事業の実施に必要な経費のうち、機械装置等購入費、外注費・委託費、労務費、消耗品費、諸経費です。 助成金は、この経費のうちNICTが助成することを認めるもので、当該経費の額の2分の1に相当する額を限度とします。ただし、NICTの予算額及び助成事業数により2分の1以下になることがあります。 4. 公募期間 令和5年2月1日（水）～令和5年3月30日（木）17:00（收締） 【注】期限を超えて届く申請（郵送含む）については、受理しません。 5. 応募方法 情報バリアフリー事業助成金の公募要領、申請書類及び同助成金交付要綱は、次のWebページからダウンロードしてご確認ください。 https://www2.nict.go.jp/barrierfree/104/index.html#11 ① 電子メール・郵送 助成金交付申請書類の電子ファイルを添えた電子メール（件名:「令和5年度情報バリアフリー事業助成金申請」とすること）を6に記載している担当に送付してください。 なお、電子ファイル送付が困難な場合、郵送でも受け付けます。郵送する封筒の裏面に「情報バリアフリー事業助成金申請書在中」と朱書きしてください。 ② 補助金申請システム（Jグランツ） 本助成金の申請は、補助金申請システム（Jグランツ）で行うことも可能です。Jグランツ Webページを参照してください。 ※同システムによる申請には、GISIDの登録が必須です。 6. 提出先等 担当: 国立研究開発法人情報通信研究機構 テクノイノベーション推進部門 情報バリアフリー推進室 E-mail: kakusam@nict.go.jp 住所: 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1 7. 交付決定 本助成金の助成対象事業は、外部有識者で構成する評価委員会が各申請事業についてヒアリングを行って評価した結果を基に、NICTが決定します（令和5年6月末の予定）。 詳しくは下記サイトよりご確認ください。 https://www.nict.go.jp/press/2023/02_01-1.html
1019	2022	新製品・技術	その他(場面)健康管理	その他(福祉用具) 体重計	テクノエイド協会	車いす体重計「ケアスケールふじちゃんⅡ」の紹介	既体不自由者 その他(車いす利用者)	認知症の方々が制作にかかわる、木でできた車いす体重計 『ケアスケール ふじちゃんⅡ』 https://itsudemoyume.wixsite.com/makkaubou/services2-c1dku
1020	2022	新製品・技術	その他(場面)楽器演奏	その他(福祉用具) 娯楽品	個人	障害のある方の楽器演奏	既体不自由者 知的障害者 高齢者	日本語教師、クロマチックハーモニカ演奏・音楽制作をしております末次千砂と申します。指や体を使わず音を奏でる楽器はすでにありますのでは？と思いますが、より高度に音楽的に楽しみたい方には、何となく物足りなさが残ります。今は買ってもらえないので、YouTubeにほぼ全身は動かさず、かろうじて手を動かした状態で動かすこと、息の吸き取りだけができる方が、すばらしいじゃすを演奏してました。それを見て、クロマチックハーモニカの可能性に驚きました。他にそんな楽器があるでしょうか？？指を全く使わず、半音階を奏でられる楽器です。 新しい物の開発ではないのですが、わたしは介護の専門知識はありませんが共に活動をしている者が社会福祉士で、それもあり、この楽器がもっと知られるきっかけになればと思います。 場所にもよりますが、もし直接現物体験で説明が必要なようでしたら、伺ってご説明いたします。 音楽をやれるものとして、もっともっと音楽を自由にやりたい、と思っている方の助けになればという思いです。 よろしくお願いたします。

令和 7 年度
視覚障害者用図書事業等委託費（福祉機器開発普及等事業）
事業報告書

発 行 令和 8 年 3 月（令和 7 年度）
発行者 公益財団法人テクノエイド協会
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1 番 1 号 セントラルプラザ 4 階
TEL 03-3266-6883 FAX 03-3266-6885
